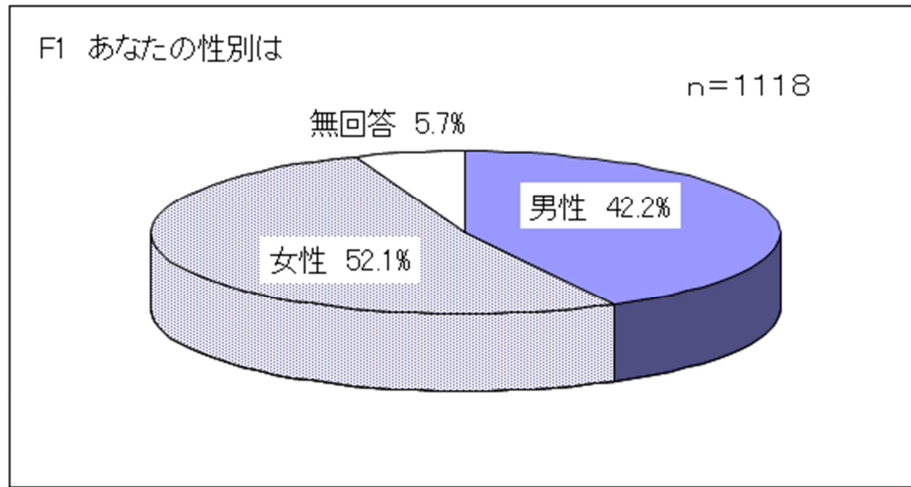


## **第 2 章 アンケート調査の結果**

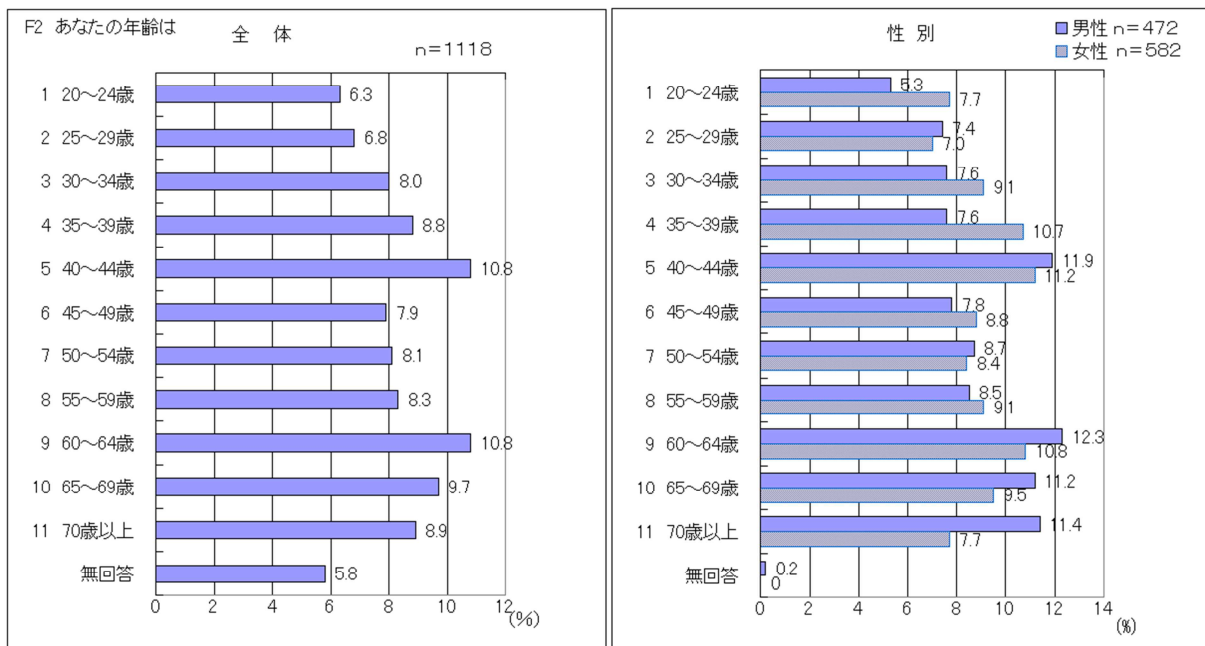
### **I 市民意識調査の結果**

# 1 回答者の属性

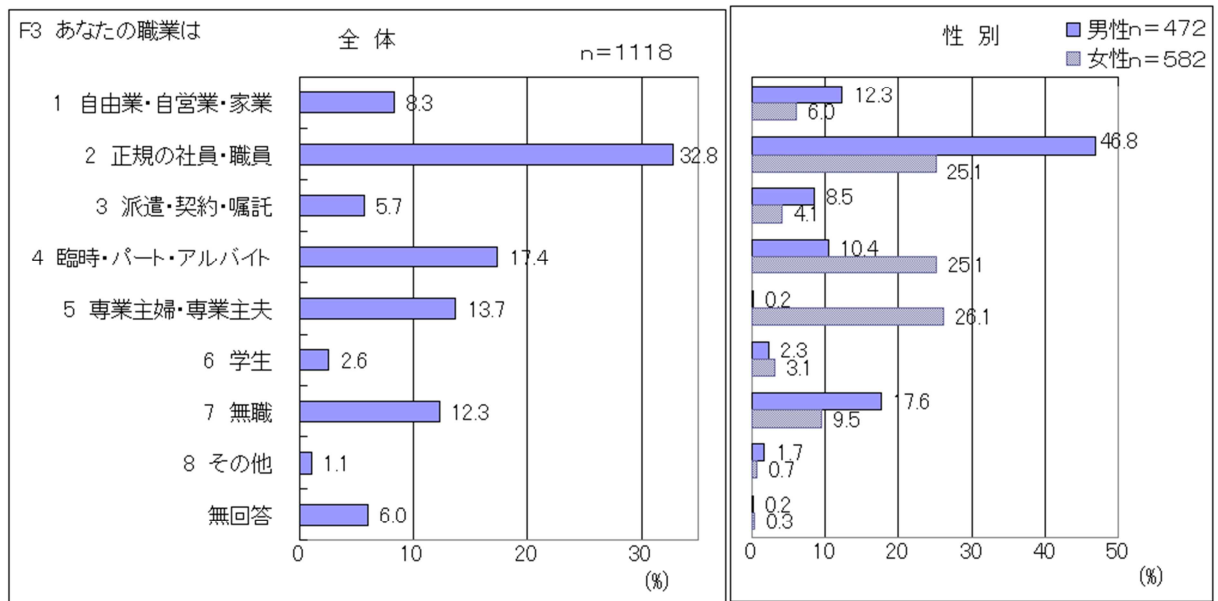
## (1) 性別



## (2) 年齢

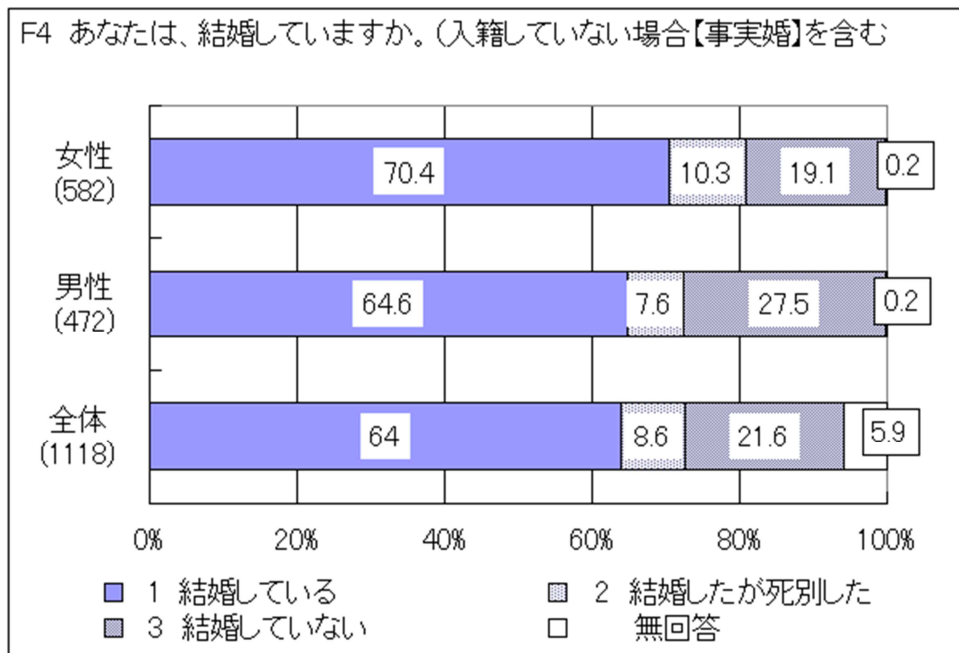


### (3) 職業



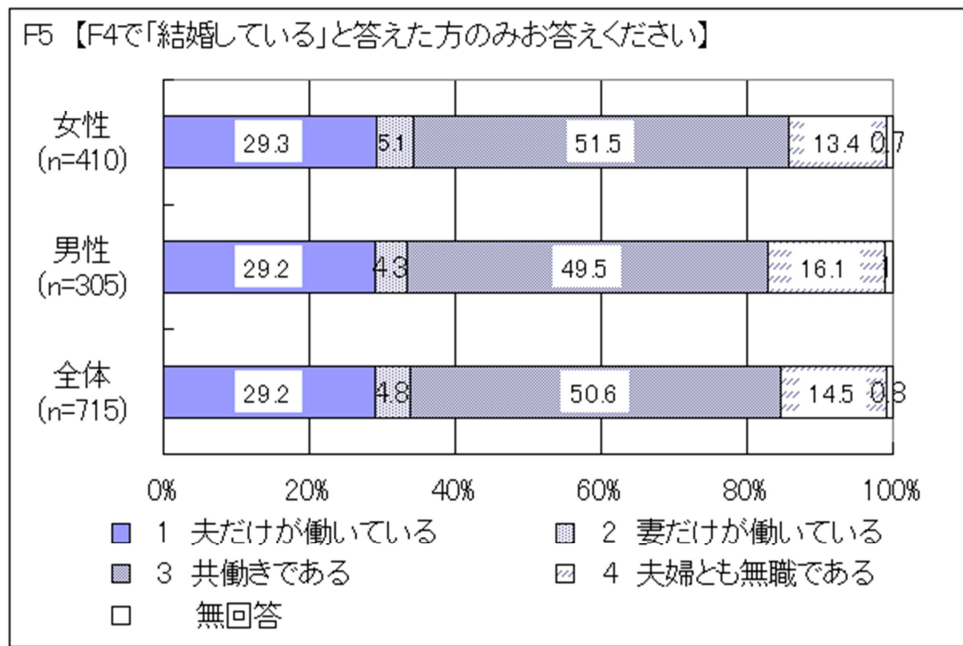
回答者の職業をみると、全体では、「正規の社員・職員」が最も多くなっている。男女別にみると、男性では、「正規の社員・職員」が最も多く46.8%だが、女性では、「正規の社員・職員」「臨時・パート・アルバイト」「専業主婦」がほぼ同率で約25%となっている。

### (4) 結婚の有無



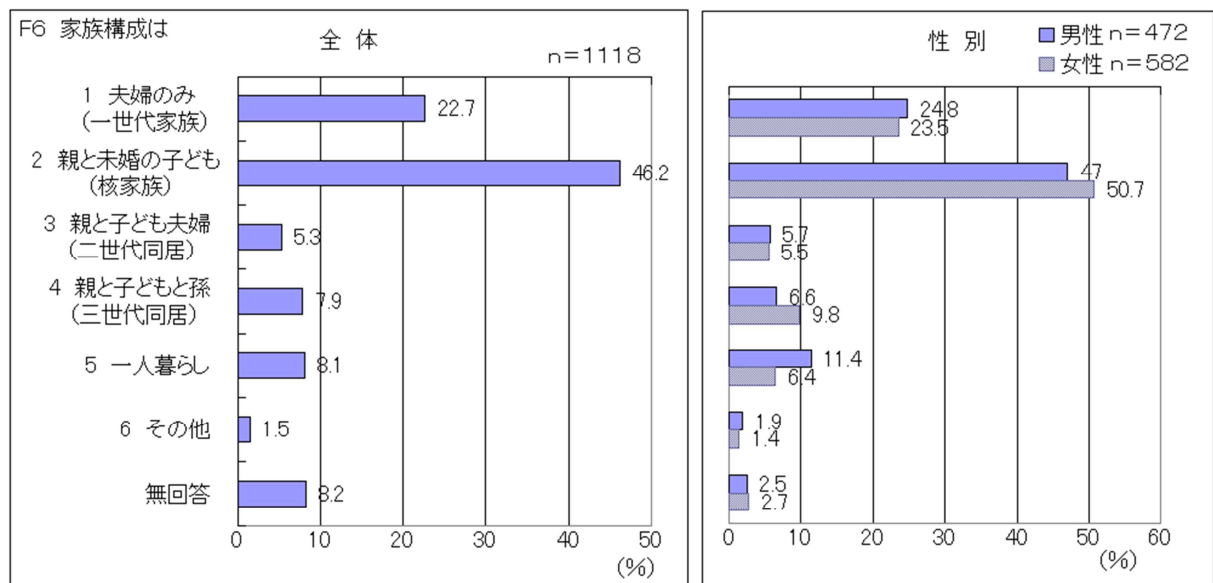
回答者の結婚の状況を見てみると全体では、64.0%が結婚している。結婚の経験がある人は、全体では72.6%（女性80.7%、男性72.2%）である。

(5) 夫婦の働き方



回答者世帯の働き方は、ほぼ半数が共働きで、夫だけが働いている世帯が約3割となっている。

(6) 家族構成

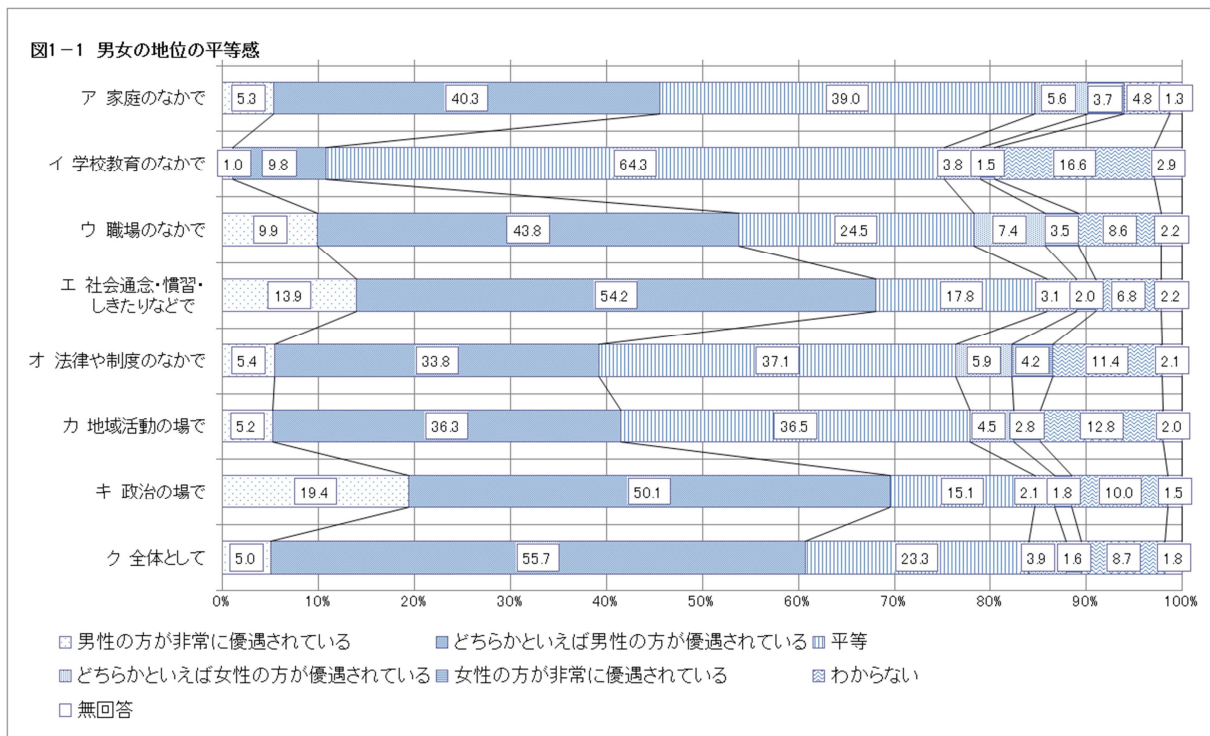


回答者の家族構成は、「親と未婚の子」世帯が5割弱と最も多く、次に多いのは、「夫婦のみ」世帯で2割強である。

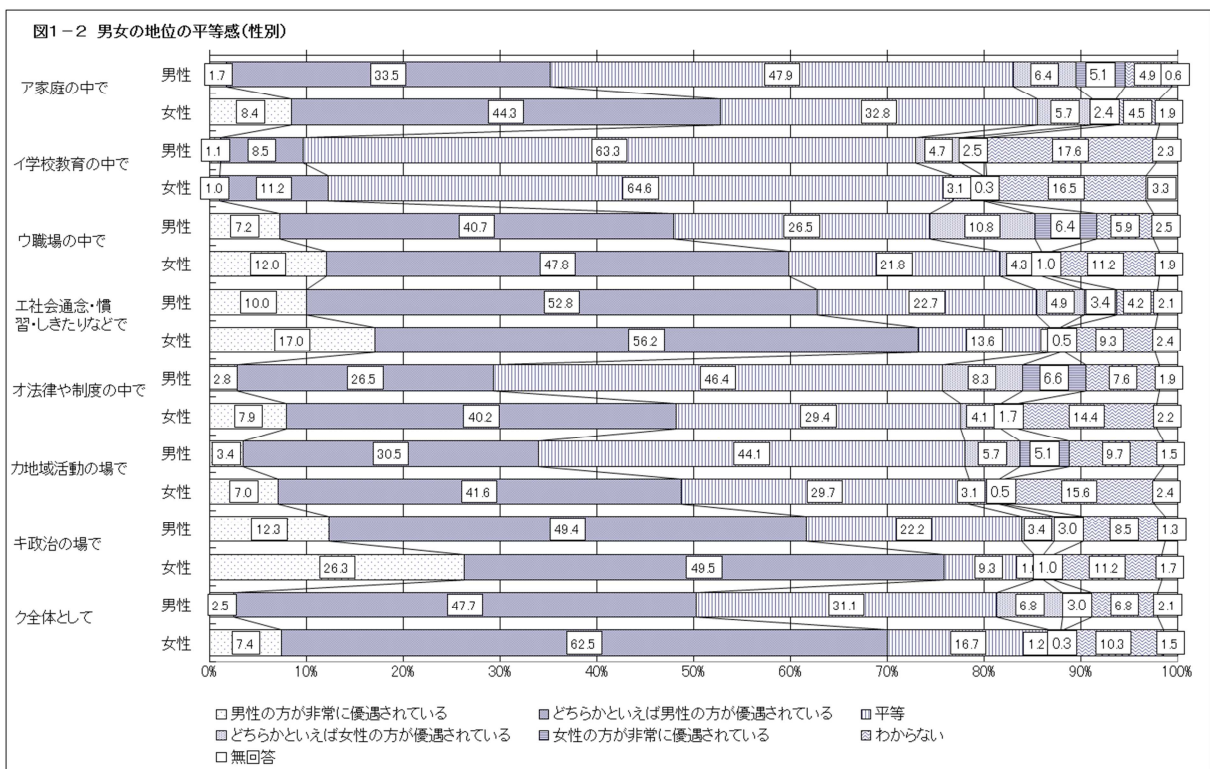
また、10年前と比較すると、「三世代同居」は減少し、「一人暮らし」はわずかに増加している。

## 2 男女平等について

問1 現在、次のような分野で男女の地位は平等になっていると思いますか。  
(ア～クについて、あなたの考えに近い番号に○を1つずつ)



8つの分野について、男女の平等感をたずねたところ、「学校教育のなかで」は、6割超が『平等』と感じているものの、「社会通念・慣習・しきたり」や「政治の場で」で7割弱(68.1%、69.5%)、「職場のなかで」が5割以上(53.7%)が、『男性の方が優遇されている』と感じている。全体では、『男性の方が優遇されている』と感じている人が6割(60.7%)占めている。



(図1-2)

続いて、性別で、男女の地位の平等感についてみると、すべての分野において『男性の方が優遇されている』と感じている割合が、男性より女性で高くなっている。逆に『平等』と感じているのは、「学校教育のなかで」を除き、他のすべての項目で男性が女性を上回っている。

「家庭の中で」では、『男性が優遇されている』と感じているのは、男性(35.2%)より女性(52.7%)の方が割合が高く、17.5ポイントの差があり、男性では約半数(47.9%)が『平等』と感じているのに対し女性は32.8%である。

「学校教育のなかで」では、男女とも『平等』と感じている人の割合が高い。

「職場のなかで」では、『男性の方が優遇されている』と感じている男性が5割弱(47.9%)なのに対し、女性では6割(59.8%)となっている。

「社会通念・慣習・しきたりなどで」では、『男性の方が優遇されている』と感じている割合が高く、男性の62.8%、女性の73.2%とどちらも高い割合を占めている。

「法律や制度のなかで」では、男性の5割弱が『平等』と感じているが、女性では、3割にとどまり、逆に女性の5割弱が『男性の方が優遇されている』と感じている。

「地域活動の場で」も「法律や制度のなかで」と同じような傾向がみられる。

「政治の場で」では、『男性の方が優遇されている』と感じている割合が高く、男性の61.7%、女性の75.8%とどちらも高い割合を占めている。

次に、性別／年代別にみる。

(図1-3-1)「家庭のなかで」では、すべての年代で、男性より女性の方が『男性の方が優遇されている』と感じている割合が高い。特に、60歳代では、男性39.6%、女性61.0%で、感じ方の差が非常に大きくなっている。男性では年齢が若いほど『平等』と感じる割合が高いが各年代で比べても男女の感じ方の差が大きい。

(図1-3-2)「学校教育のなかで」では、男女ともに各年代で6割以上が『平等』と回答している。

(図1-3-3)「職場のなかで」では、20歳代男性では、『平等』と感じる割合が4割と高いが、それ以外では男女ともすべての年代で、『男性の方が優遇されている』と感じており、男性より女性の方がそう感じる割合が高い。

(図1-3-4)「社会通念・慣習・しきたりなどで」では、70歳以上を除き、男女とも各年代で、『男性の方が優遇されている』の割合が高く、女性の方がより高く7割が感じている。

(図1-3-5)「法律や制度のなかで」では、男性では各年代の4割～5割が『平等』と感じているのに対し、女性では、『平等』が2割～3割で『男性の方が優遇されている』が3割弱～6割と感じ方に大きな差が現れている。特に女性の40歳代では6割が『男性の方が優遇されている』と感じ、また、20歳代男性の35%が『女性の方が優遇されている』と回答。

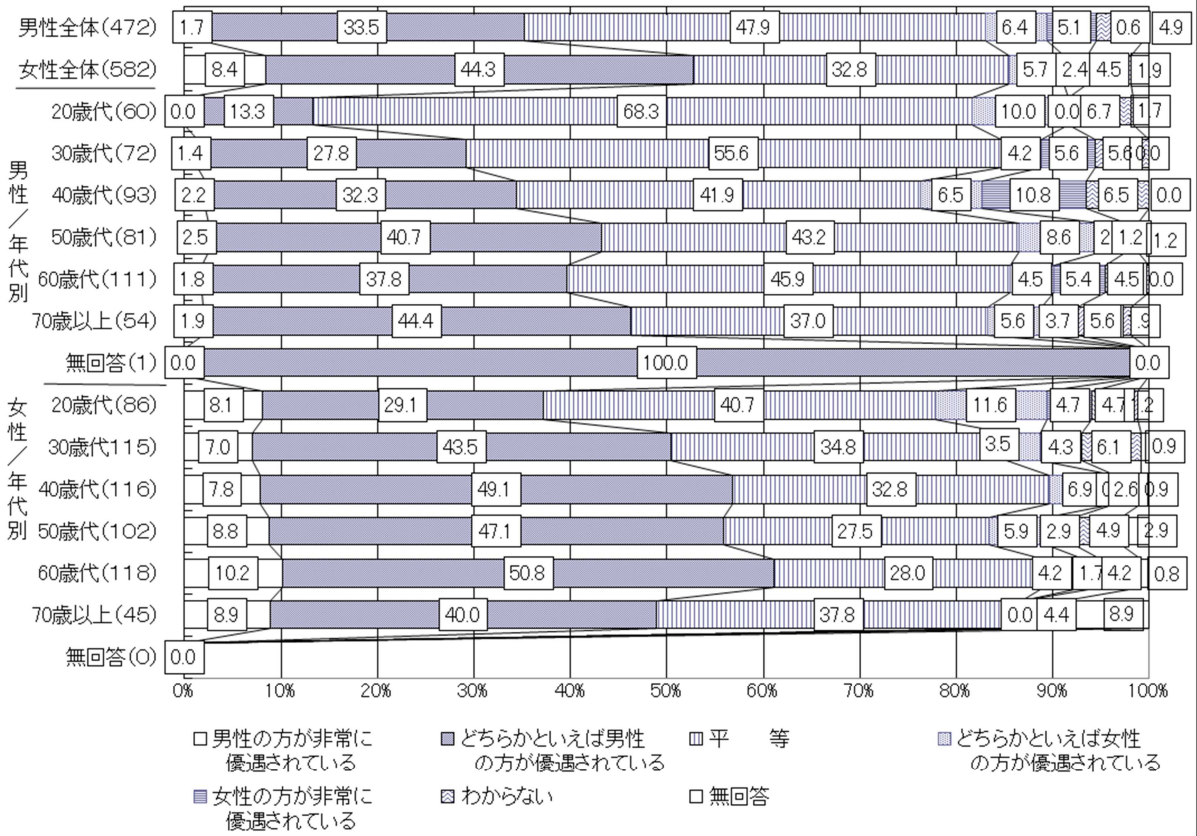
(図1-3-6)「地域活動の場で」では、男性のすべての年代別で『平等』と感じる割合が最も多いのに対し、女性では、『男性の方が優遇されている』が70歳以上を除きすべての年代で多くなっている。

(図1-3-7)「政治の場で」では、70歳以上を除き、すべての年代で、『男性の方が優遇されている』と感じる割合が、男性より女性の方が高い。特に40歳代女性では9割を超えている。

(図1-3-8)全体としては、70歳以上を除き、各年代とも男性よりも女性の方が『男性の方が優遇されている』と感じている割合が高い。また、20歳代では他の年代と比べ男女とも『平等』と感じている割合が高く、男性の2割が『女性の方が優遇されている』と回答。

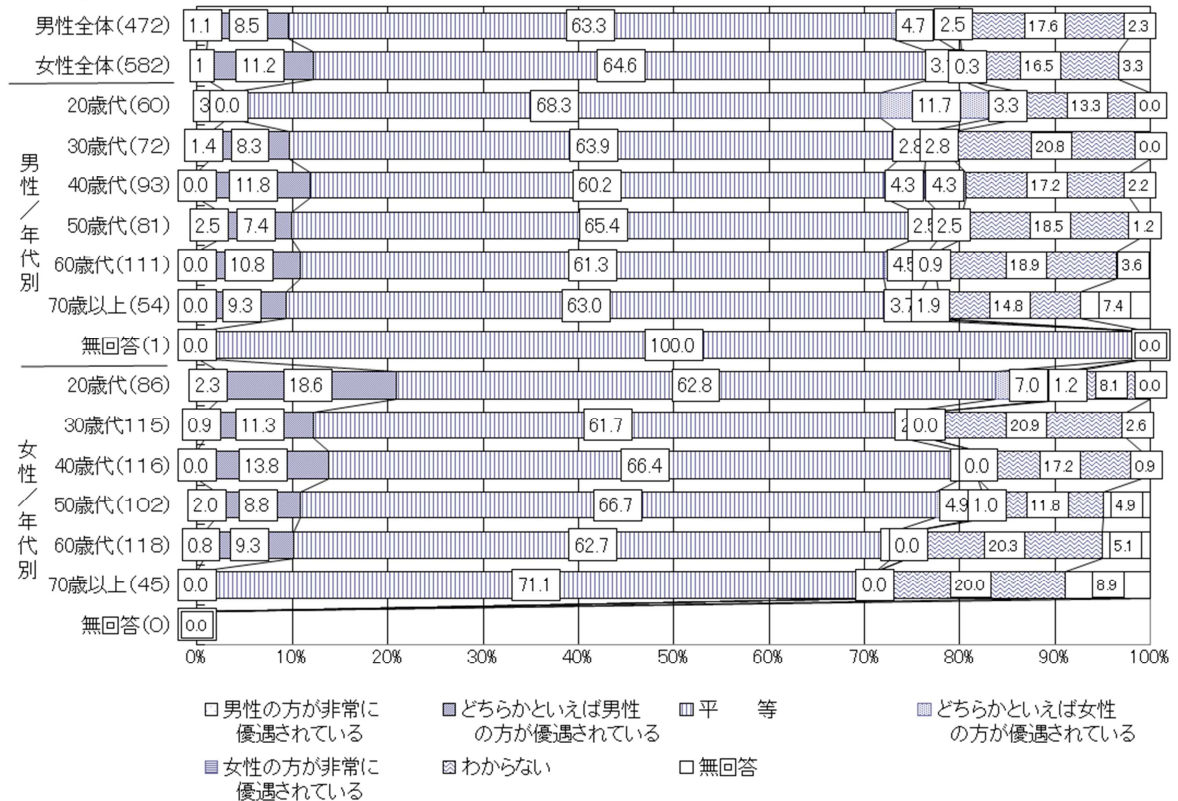
ア 家庭のなかで-

図1-3-1 男女の地位の平等感(性別・性別/年代別)



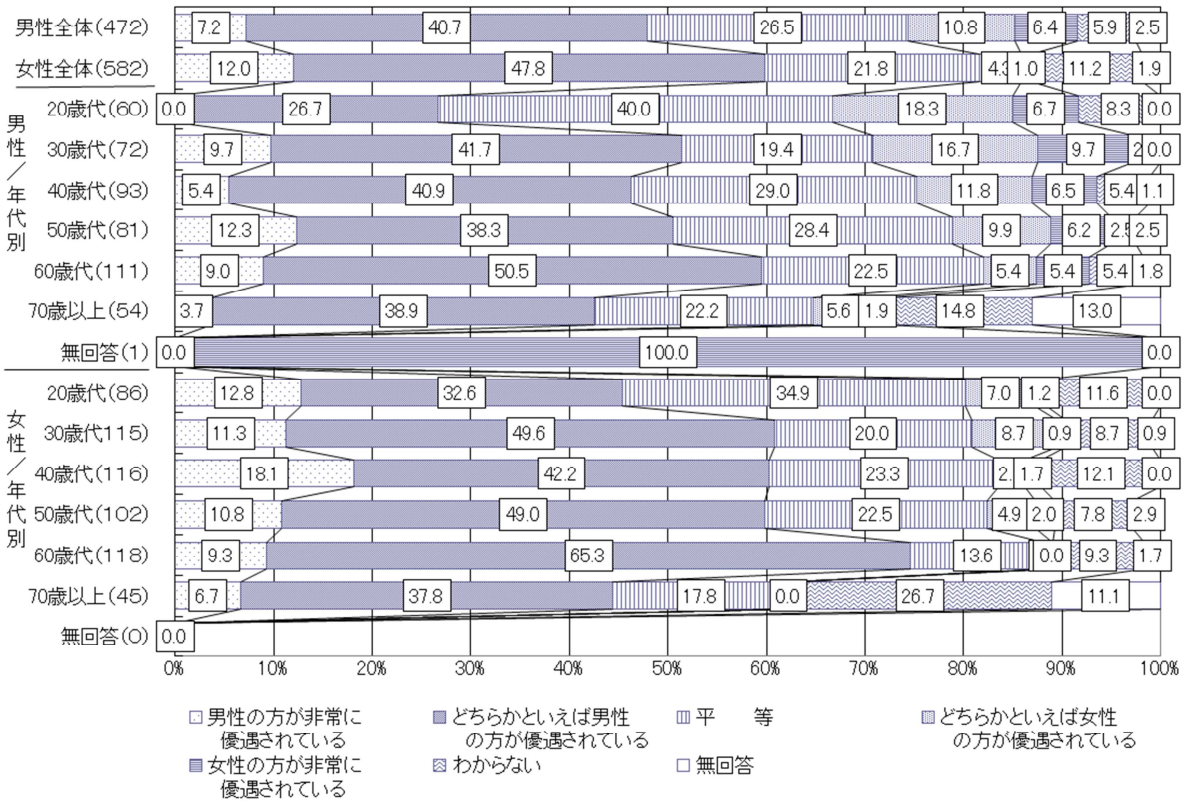
イ 学校教育のなかで-

図1-3-2 男女の地位の平等感(性別・性別/年代別)



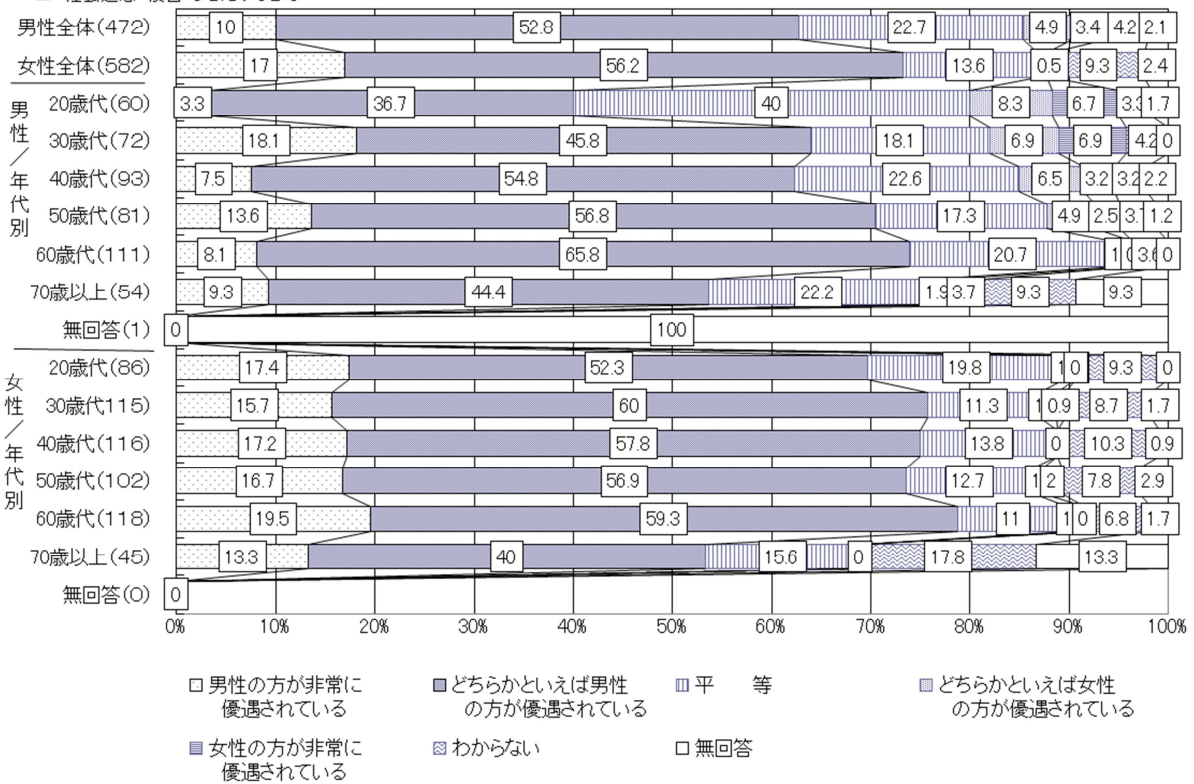
-ウ職場のなかで-

図1-3-3 男女の地位の平等感(性別・性別/年代別)

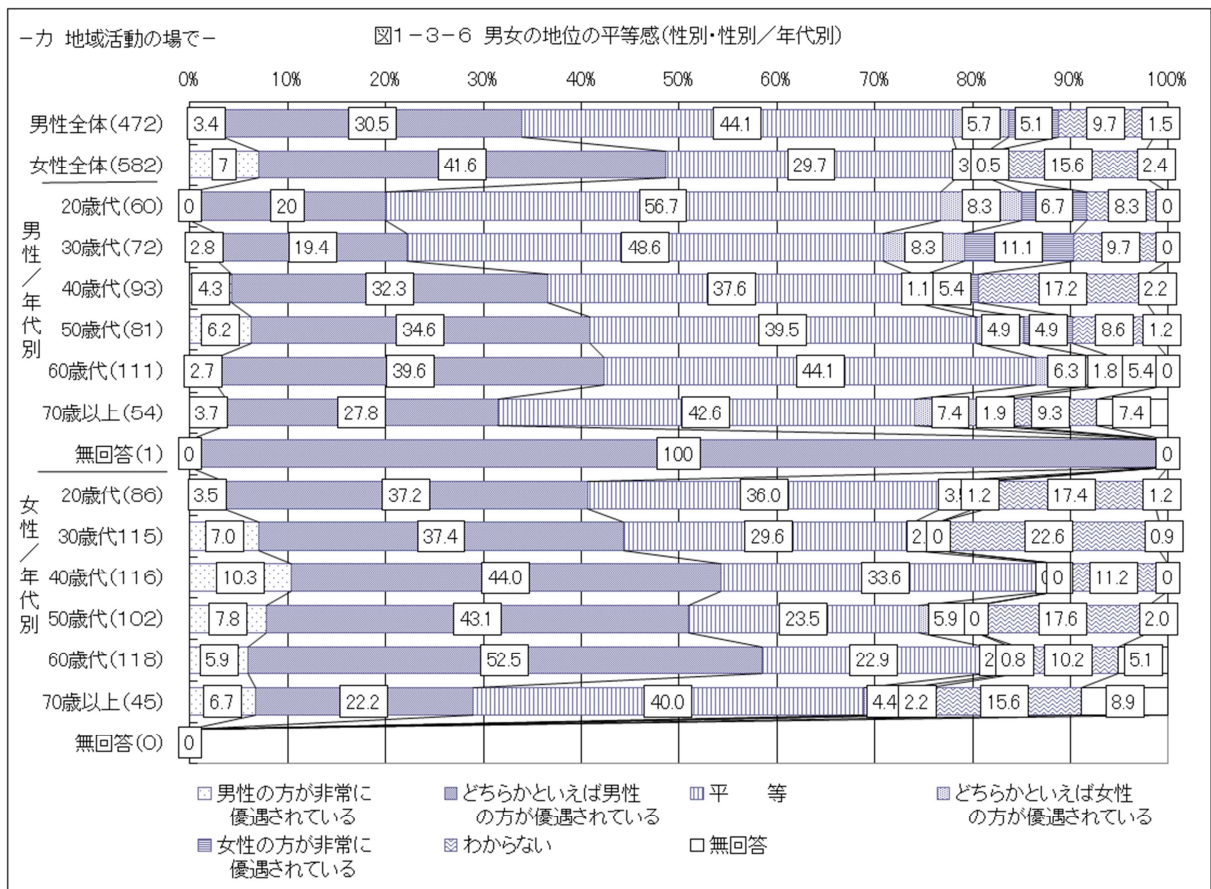
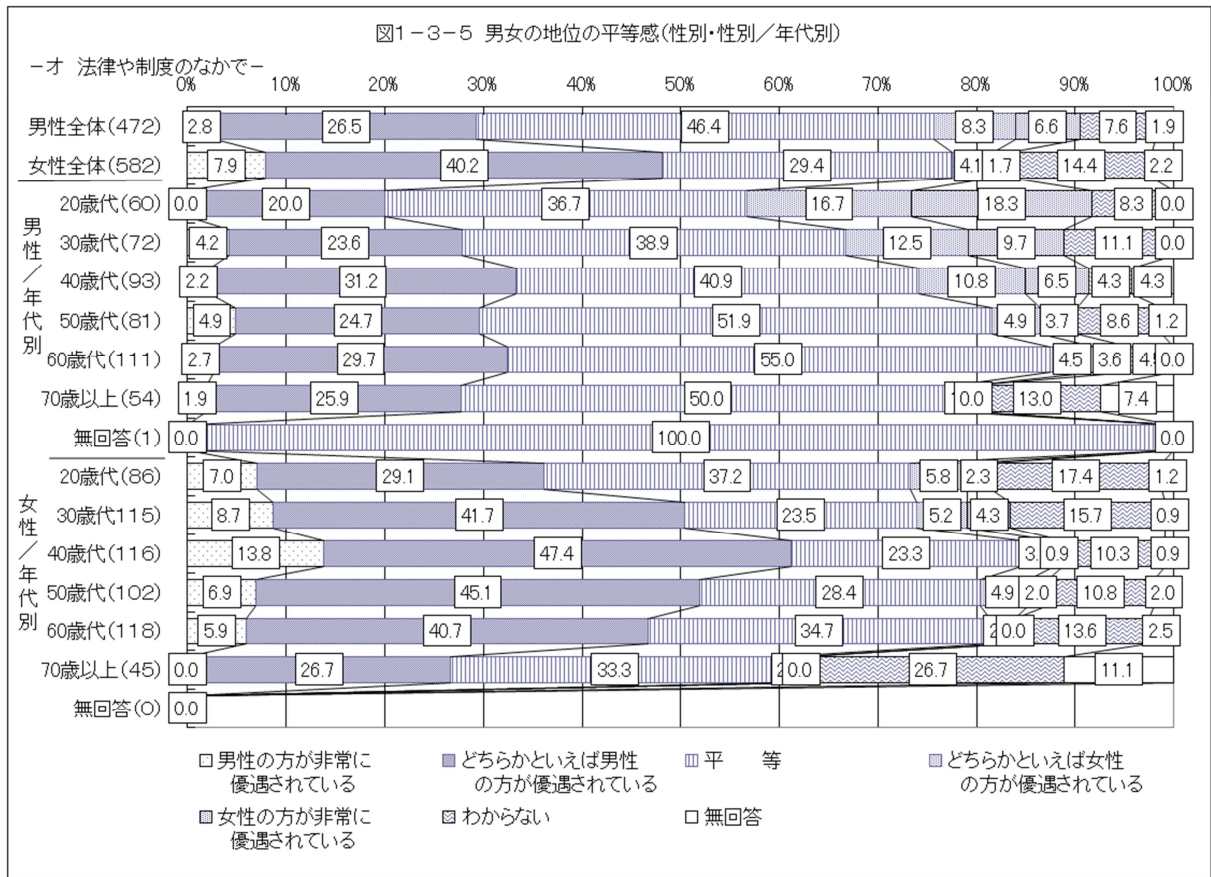


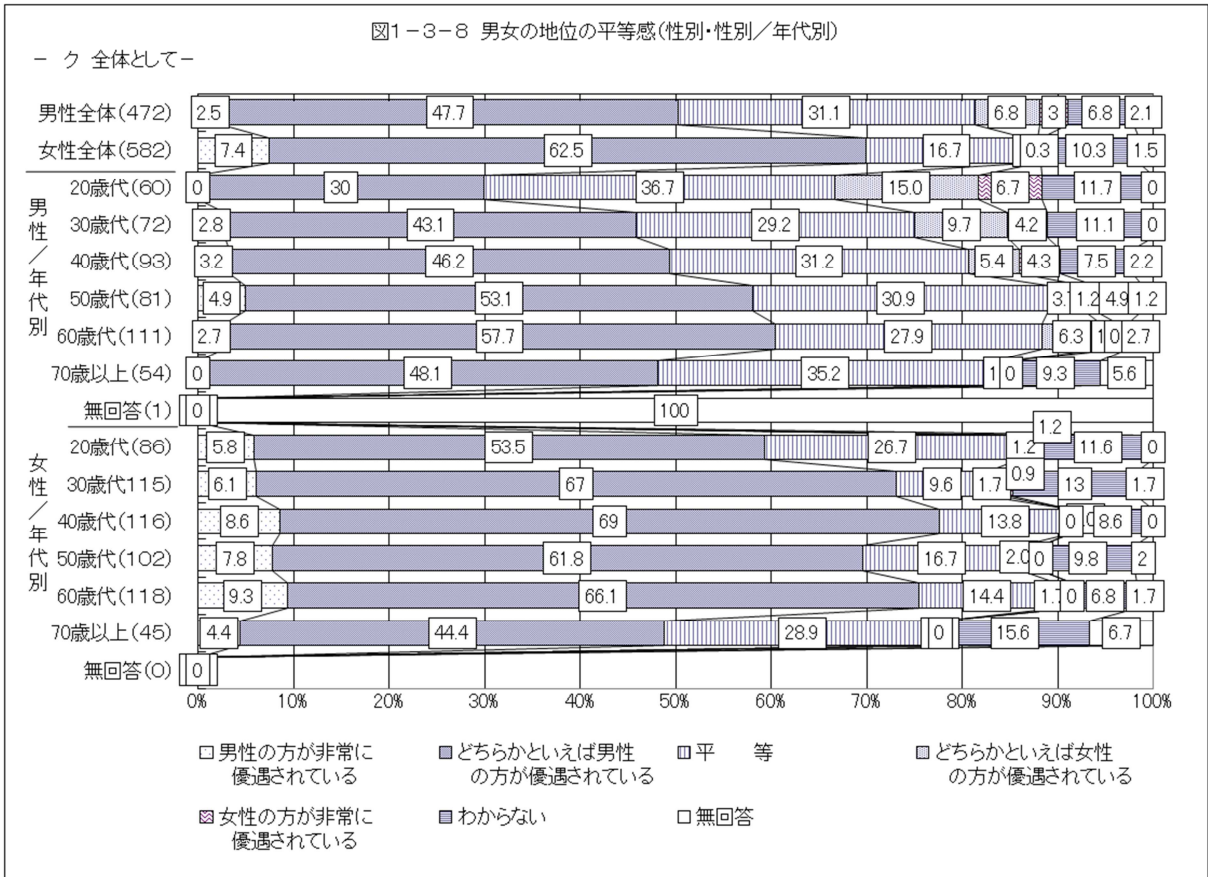
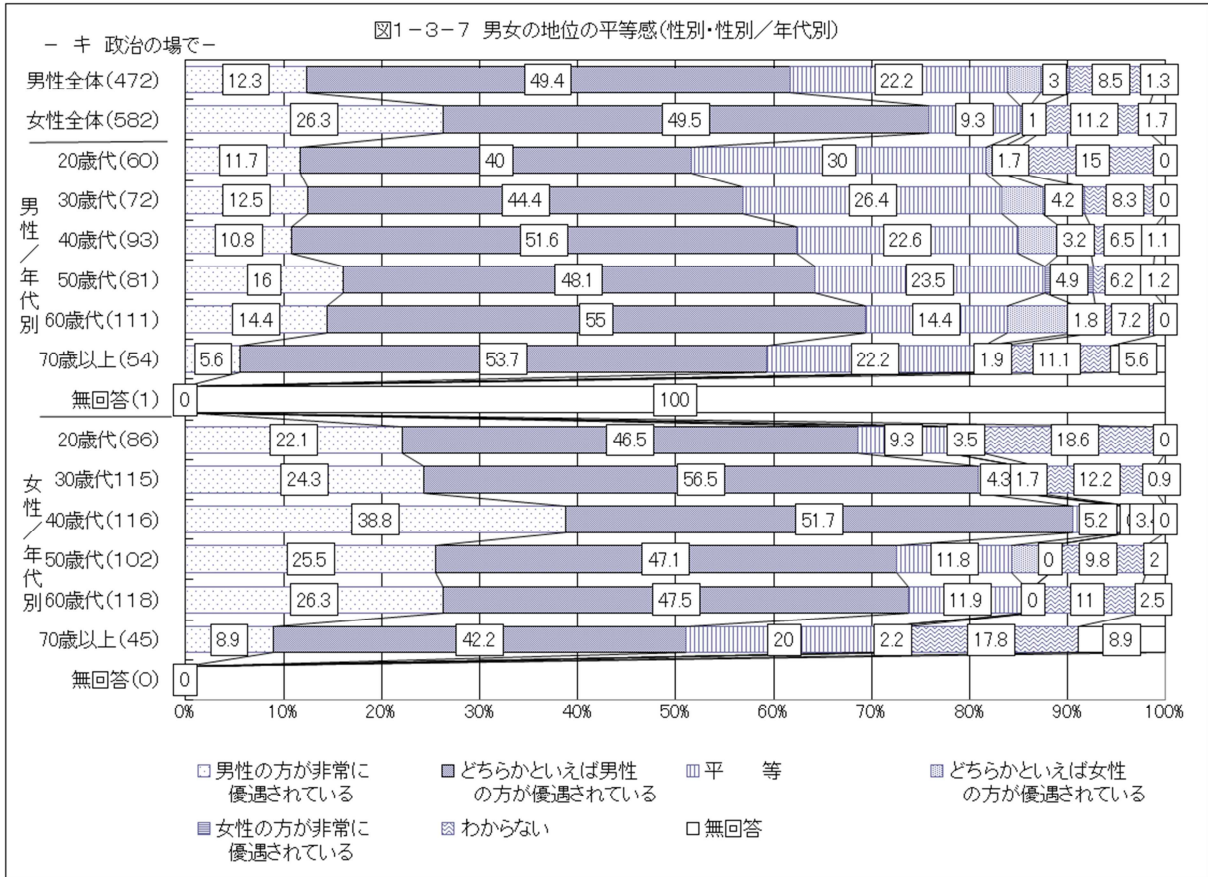
-エ 社会通念・慣習・しきたりなどで-

図1-3-4 男女の地位の平等感(性別・性別/年代別)









平等感について、職業別にみても。

(図1-4-1)「家庭のなかで」では、有職者の中で、「正規の社員・職員」がそれ以外と比べ『平等』の割合が10ポイント以上高い。

(図1-4-2)「学校教育のなかで」では、学校教育を実際に受けている学生と派遣・契約嘱託の方が、他の職業に比べ『男性の方が優遇されている』とする割合が高い。

(図1-4-3)「職場のなかで」では、有職者より専業主婦(主夫)となっている人の方が『男性の方が優遇されている』の割合が高く、『平等』の割合も低い。

(図1-4-4)「社会通念・慣習・しきたりなどで」では、全体的に『男性の方が優遇されている』の割合が高い。

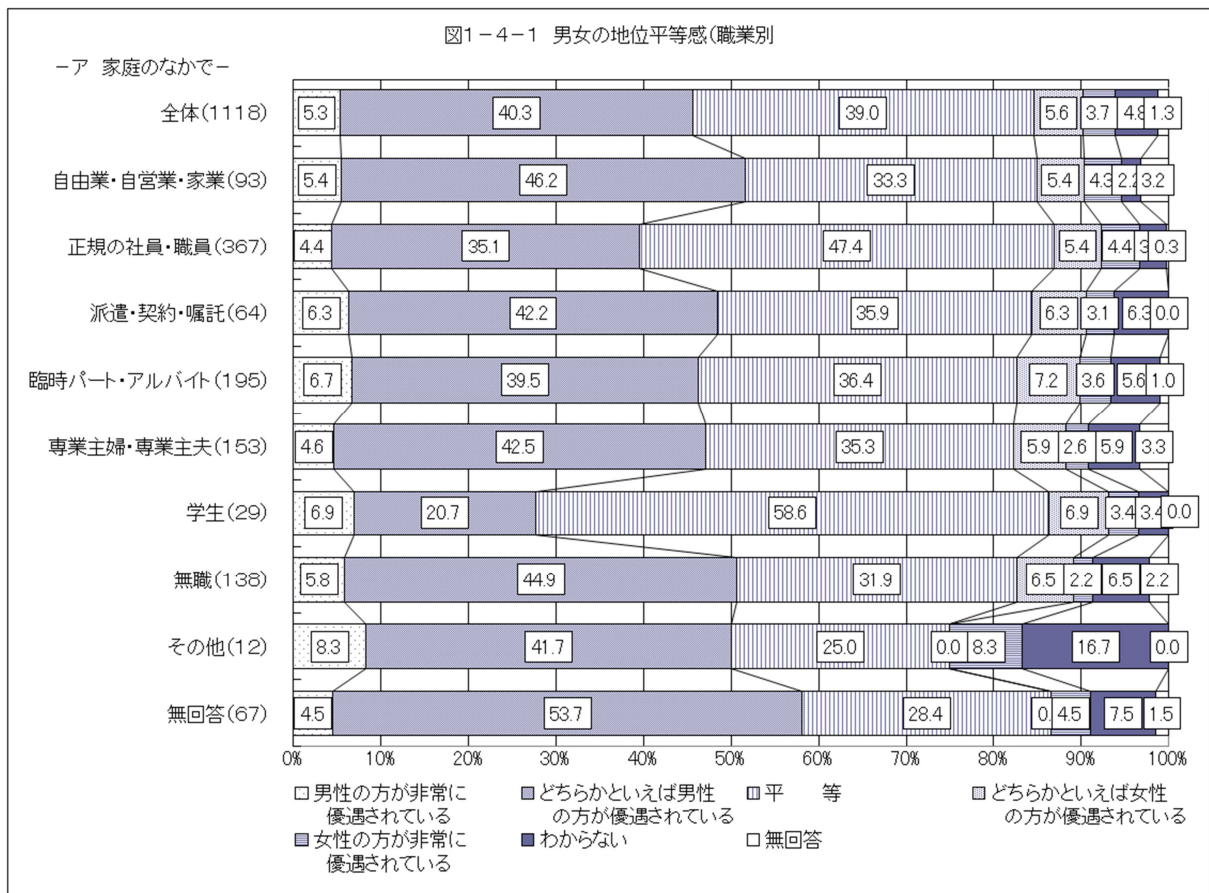
(図1-4-5)「法律や制度のなかで」では、学生及び自由業・自営業・家業においては『男性の方が優遇されている』が3割に対して、他の職業では約4割と高く、また、学生では『女性の方が優遇されている』が2割を超えている。

(図1-4-6)「地域活動の場で」では、全体的にみて、学生を除き、どの職業でも『男性の方が優遇されている』が『平等』を少しずつ上回る割合となっている。

(図1-4-7)「政治の場で」では、他の項目と比べて、『男性の方が非常に優遇されている』の割合が高く、自由業・自営業・家業を除き、他の職業では約7割となっている。

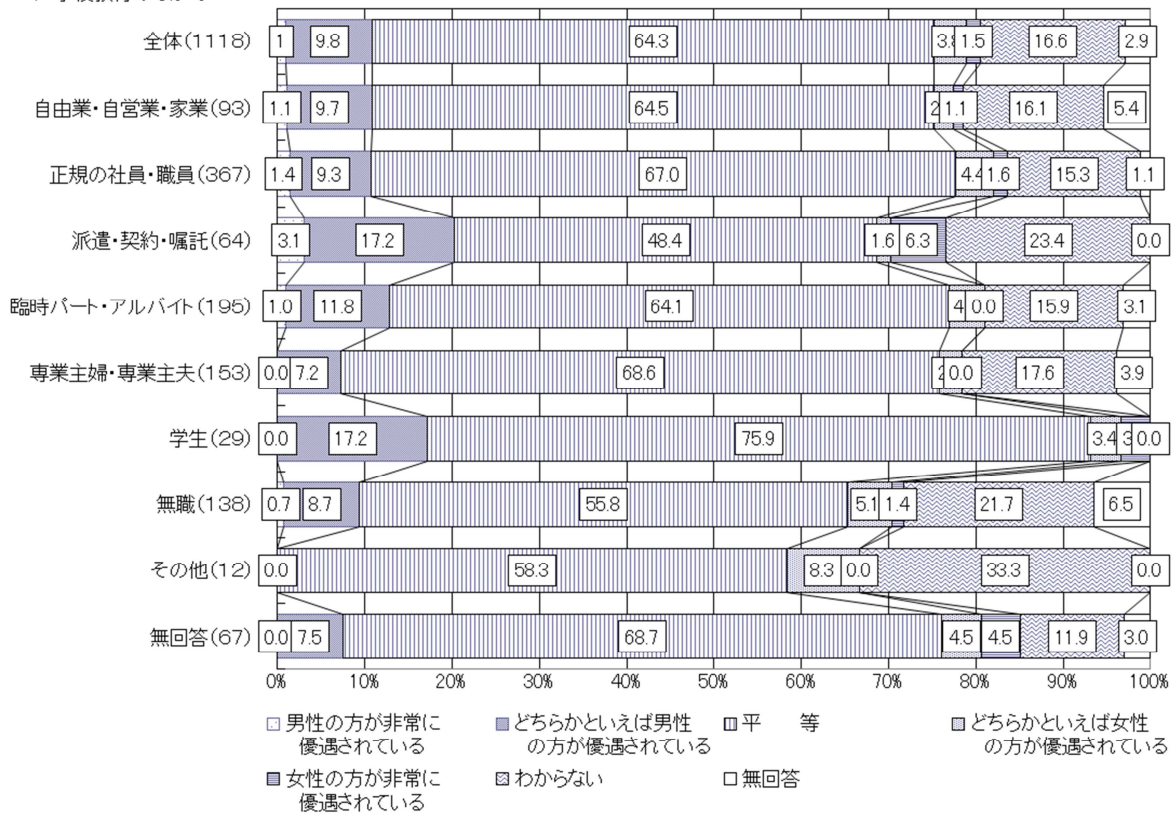
(図1-4-8)「全体として」では、すべての職業において、『男性の方が優遇されている』の割合が半分以上を占めている。

※ 有職者は、【自由業・自営業・家業】、【正規の社員・職員】、【派遣・契約・嘱託】及び【臨時パート・アルバイト】を合わせた。



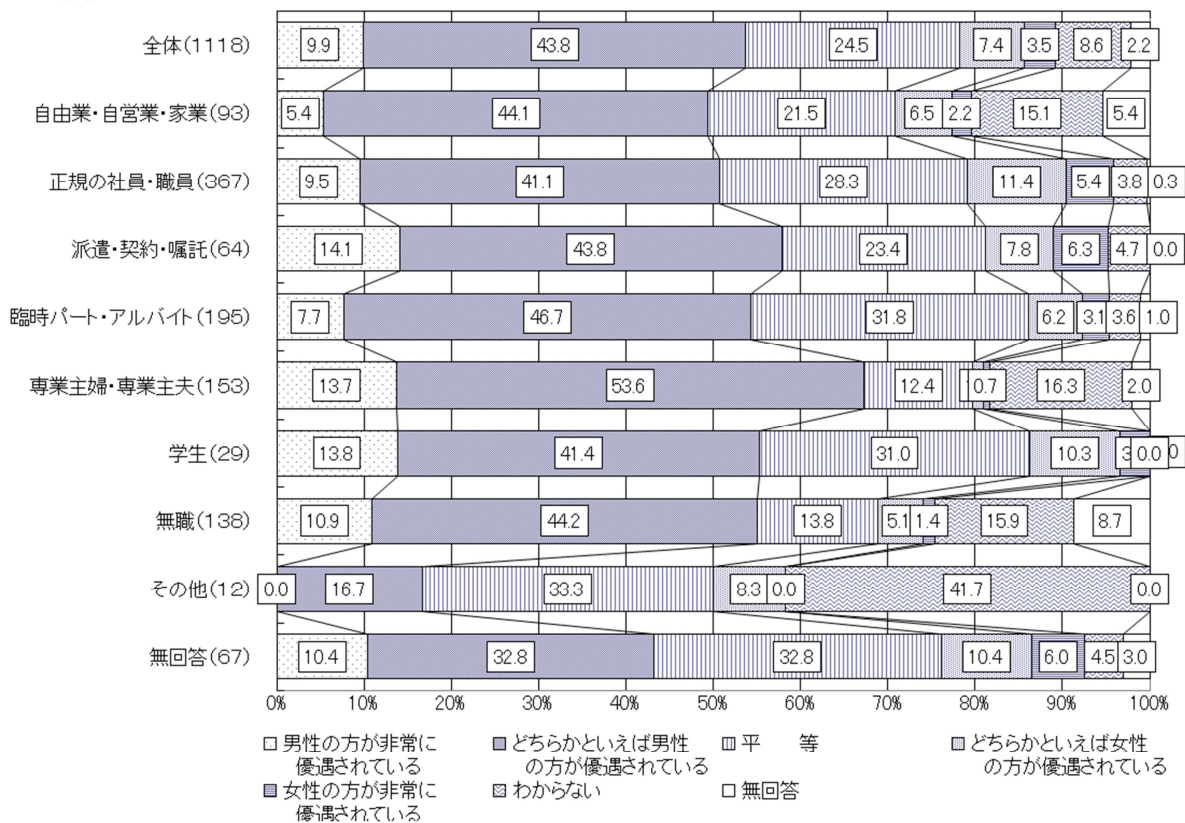
ーイ 学校教育のなかでー

図1-4-2 男女の地位の平等感(職業別)



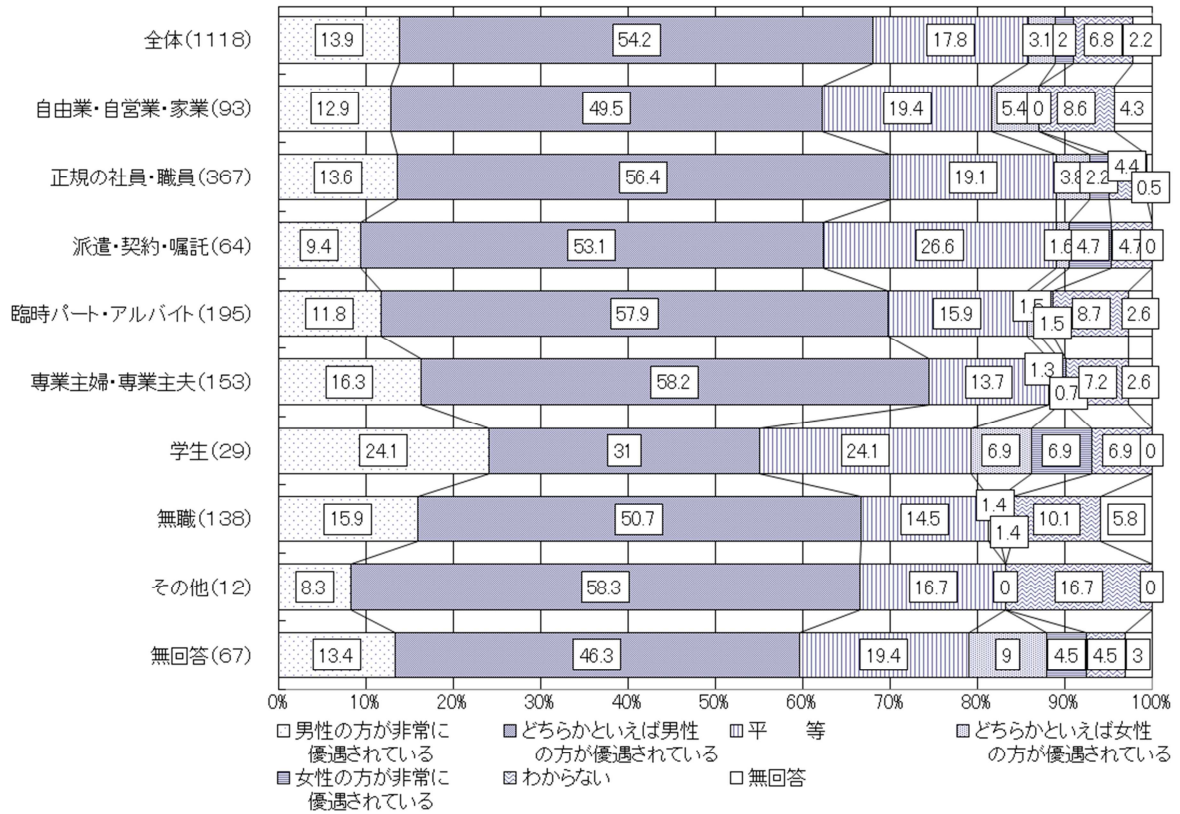
ーウ 職場のなかでー

図1-4-3 男女の地位の平等感(職業別)



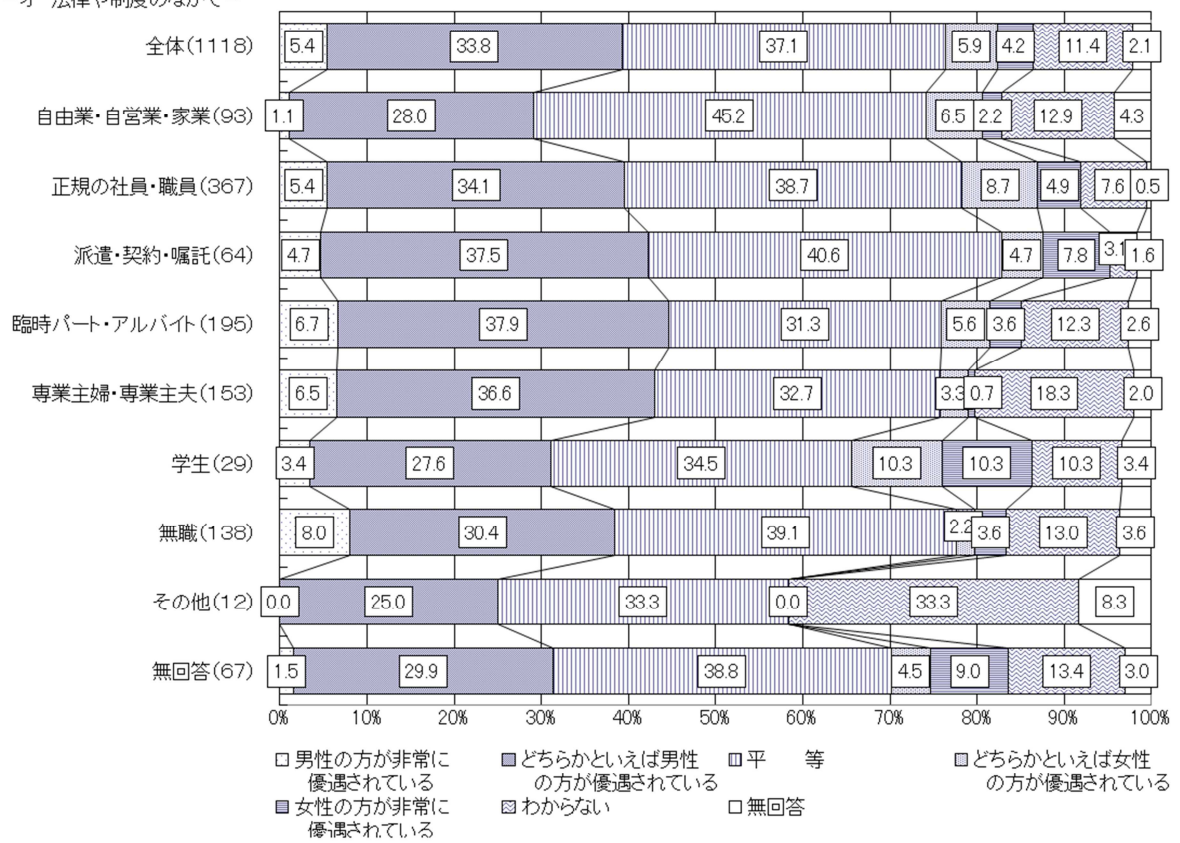
エ 社会通念・慣習・しきたりなどで

図1-4-4 男女の地位の平等感(職業別)



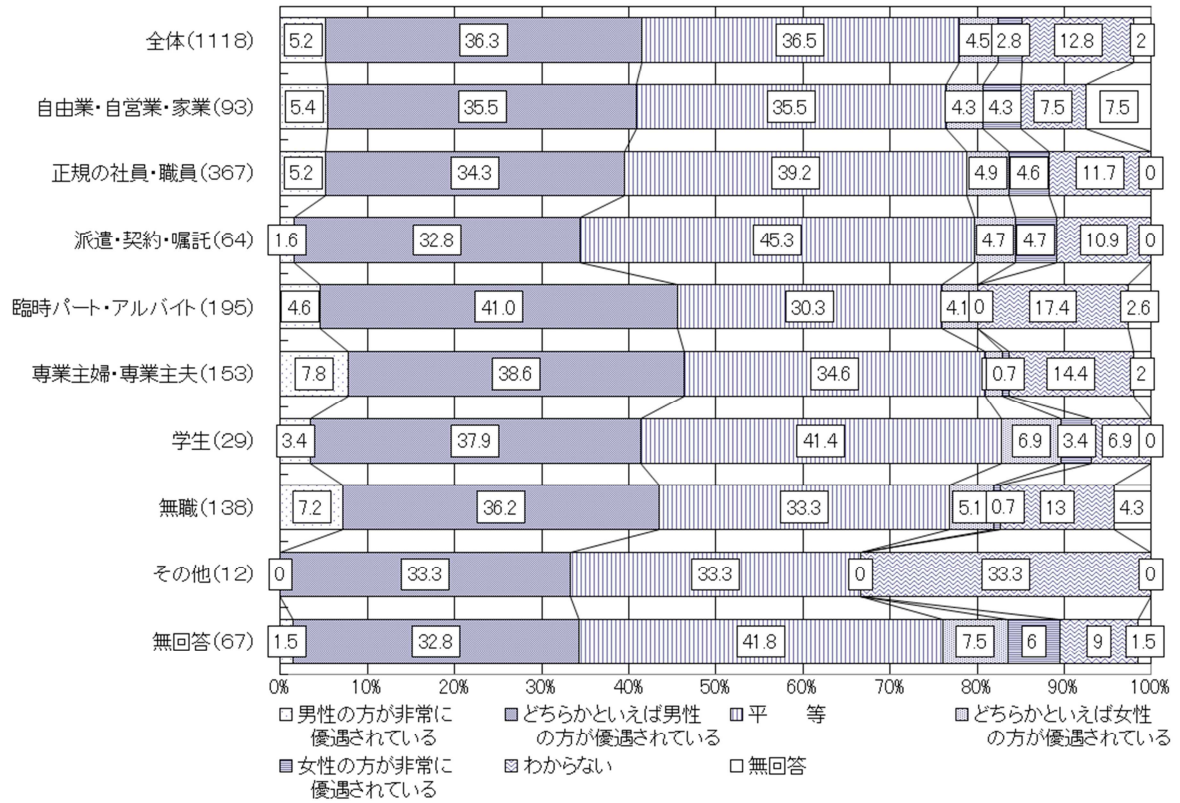
オ 法律や制度のなかで

図1-4-5 男女の地位の平等感(職業別)



カ 地域活動の場で-

図1-4-6 男女の地位の平等感(職業別)



キ 政治の場で-

図1-4-7 男女の地位の平等感(職業別)

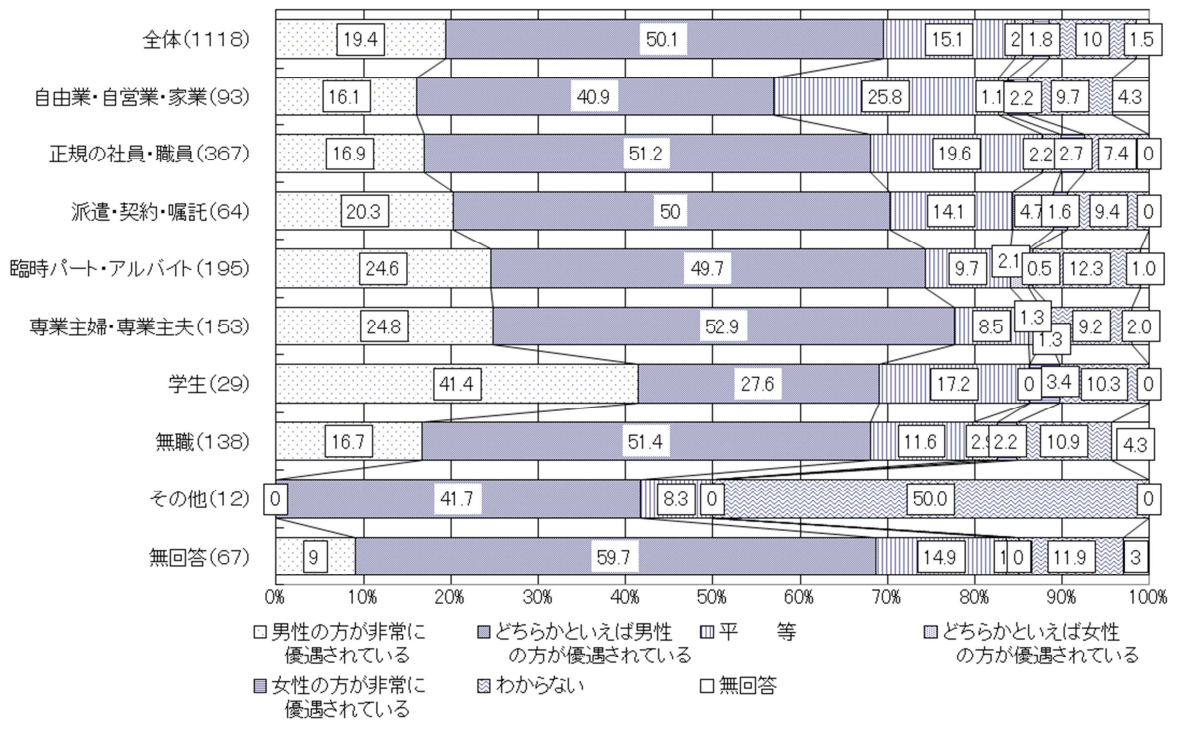


図1-4-8 男女の地位の平等感(職業別)

- ク 全体として -

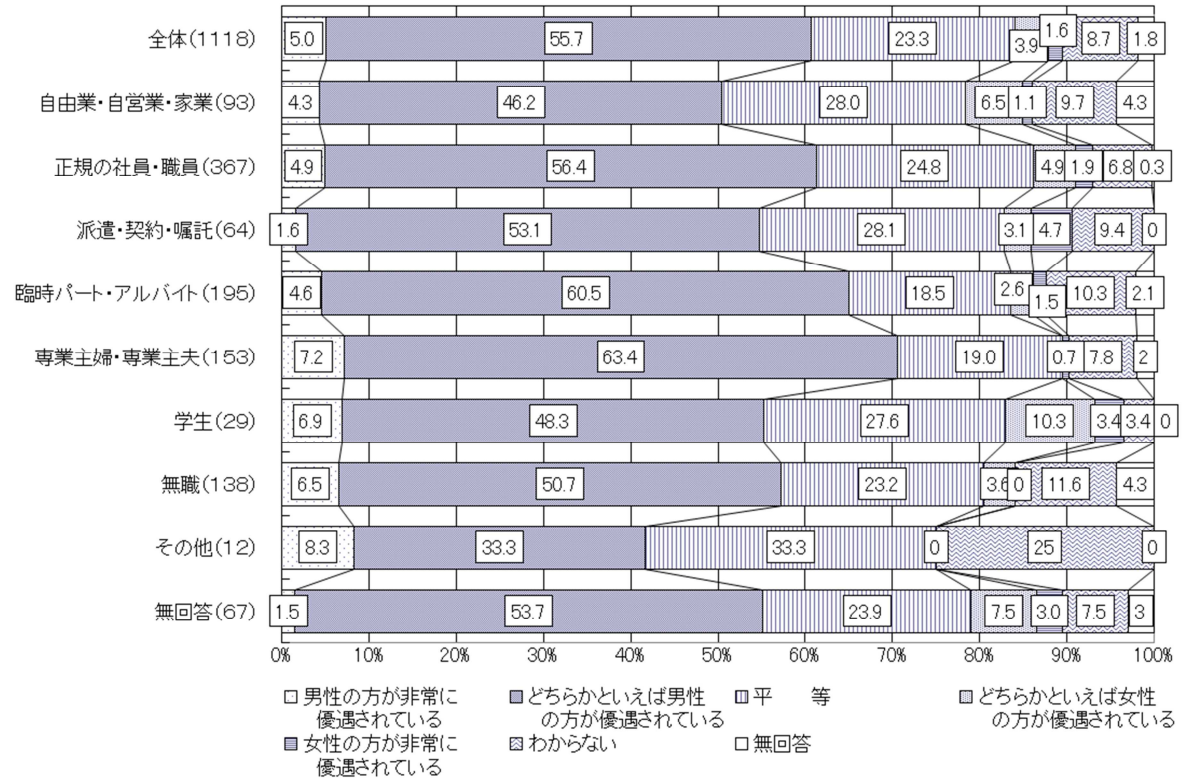
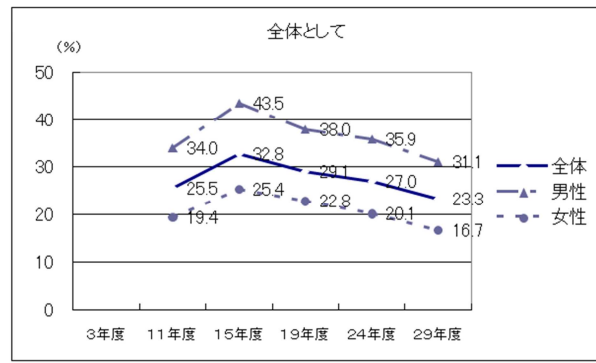
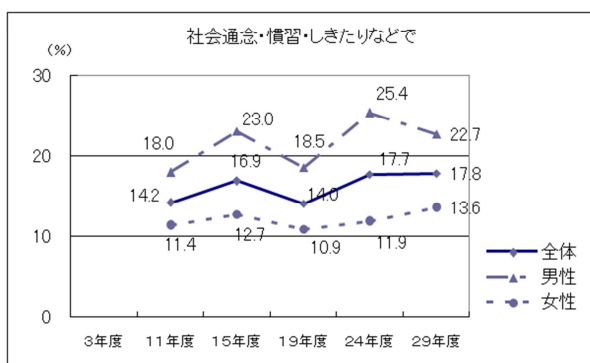
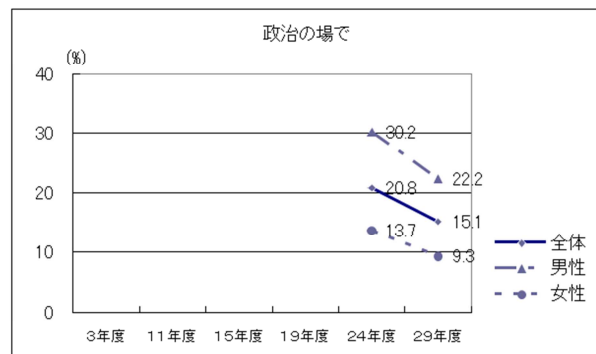
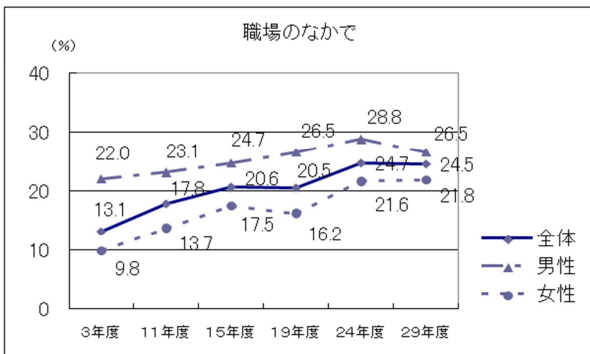
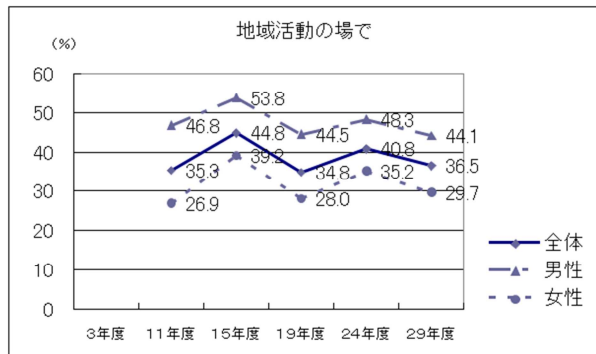
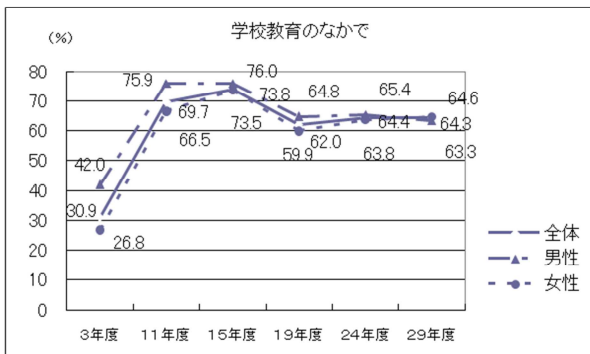
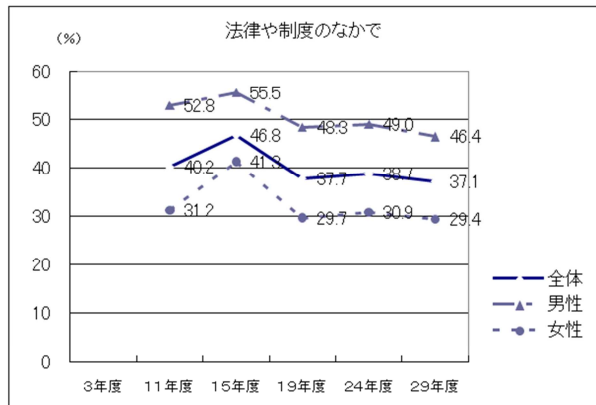
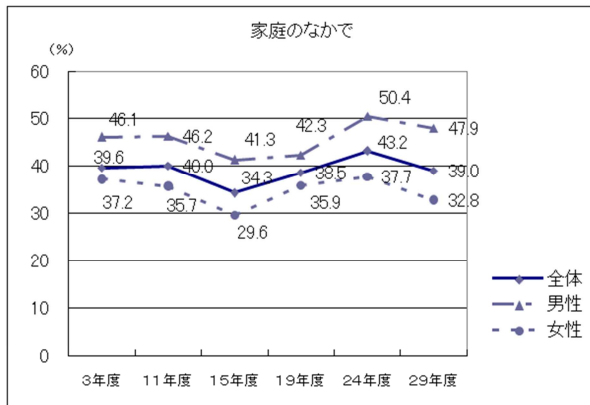


図1-5 男女の地位の平等感（時系列比較）

【『平等』について比較】



『平等』について、時系列で比較すると、「政治の場で」は、前回と比較して減少しているが、その他の項目では、ほぼ横ばいまたはやや減少しており、全体としては、『平等』と感じる割合が減少している。

「学校教育のなかで」は、男女でほとんど差が無いが、「法律や制度のなかで」「社会通念・慣習・しきたりなどで」「政治の場で」「全体として」など、男性と女性で感じ方の差が大きいことがわかる。



## 問2 男女の役割分担意識

問2 次のような考え方について、どう思いますか。

(ア～オについて、あなたの考えに近い番号に○を1つずつ)

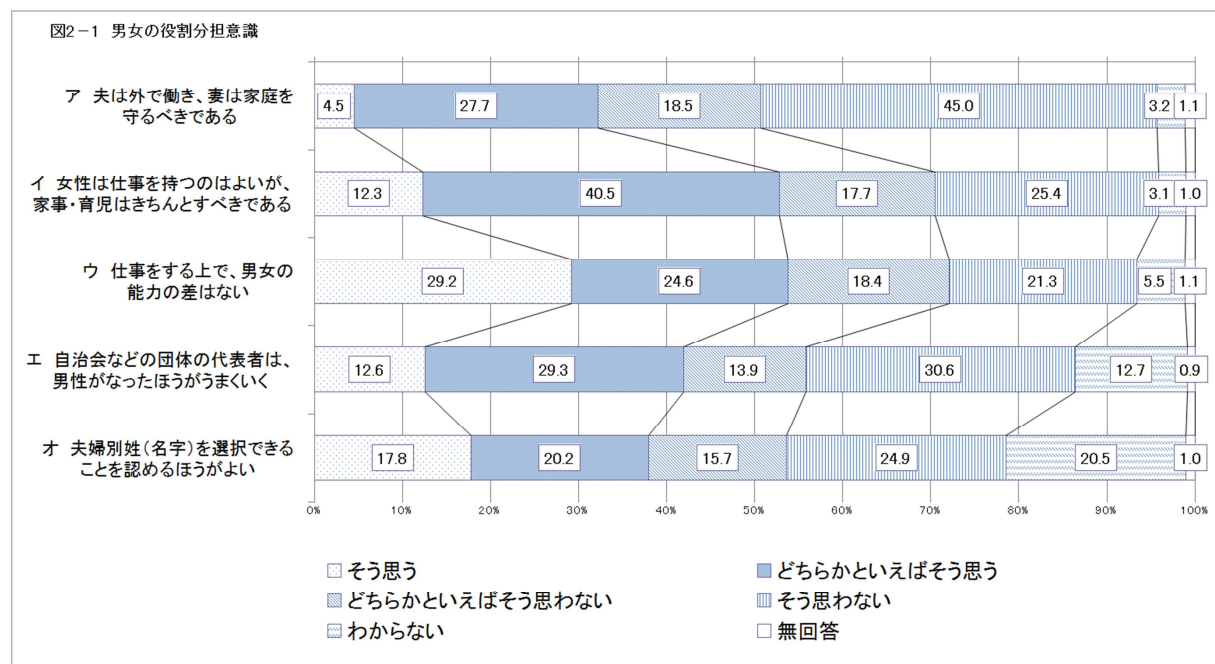
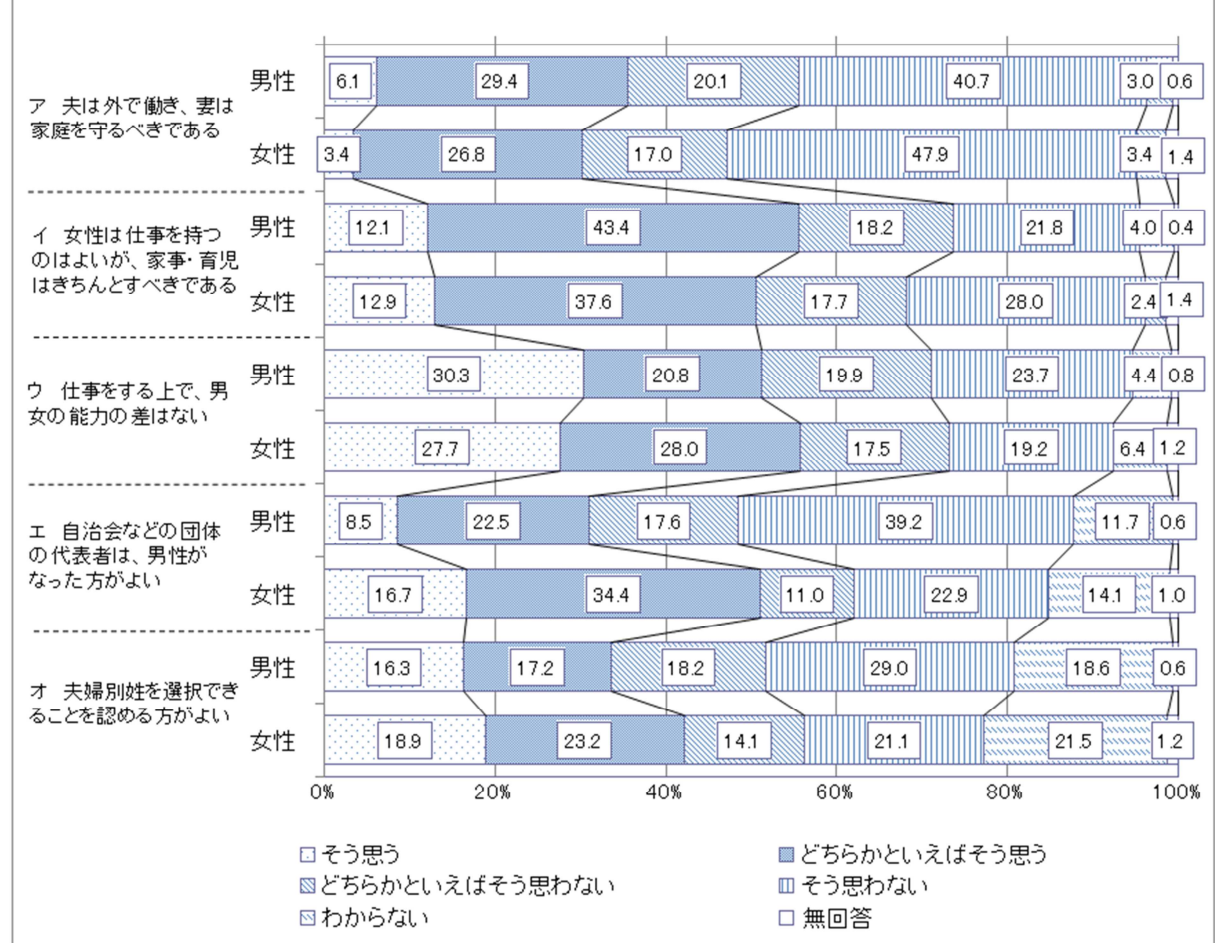


図2-2 男女の役割分担意識(性別)



(図2-1)

5項目で男女の役割分担意識についてたずねたところ、「夫は外で働き、妻は家庭を守るべきである」について、全体では6割以上が否定的な意見を持っている。

「女性は仕事を持つのはよいが、家事・育児はきちんとすべきである」について、『肯定』が5割強、『否定』が4割強になっている。

「仕事をする上で男女の能力の差はない」は、『肯定』が『否定』を14ポイント上回っている。

「夫婦別姓(名字)を選択できることを認める方がよい」は、『肯定』が38.0%に対し、『否定』40.6%と大差は無いが、2割の人が「わからない」と回答している。

(図2-2)

続いて、性別でみると、「夫は外で働き、妻は家庭を守るべきである」について、男性では『肯定』より『否定』の方が25ポイント多いのに対し、女性では、『否定』は『肯定』より35ポイント多く、2倍以上の差が出ている。

「女性は仕事を持つのはよいが、家事・育児はきちんとすべきである」は、男女ともに『肯定』が5割を超え、『否定』を上回っている。

「仕事をする上で、男女の能力の差はない」についても、男女とも『肯定』が5割を超えており、『否定』を上回っている。

「自治会などの団体の代表者は、男性になった方がうまくいく」は、女性が51.1%で、男性の31%を大きく上回り、男女の差が大きい。

「夫婦別姓(名字)を選択できることを認める方がよい」は、男性では『否定』の方が13.7ポイント高いのに対し、女性では、『肯定』の方が6.9ポイント高く、男女の差が大きい。

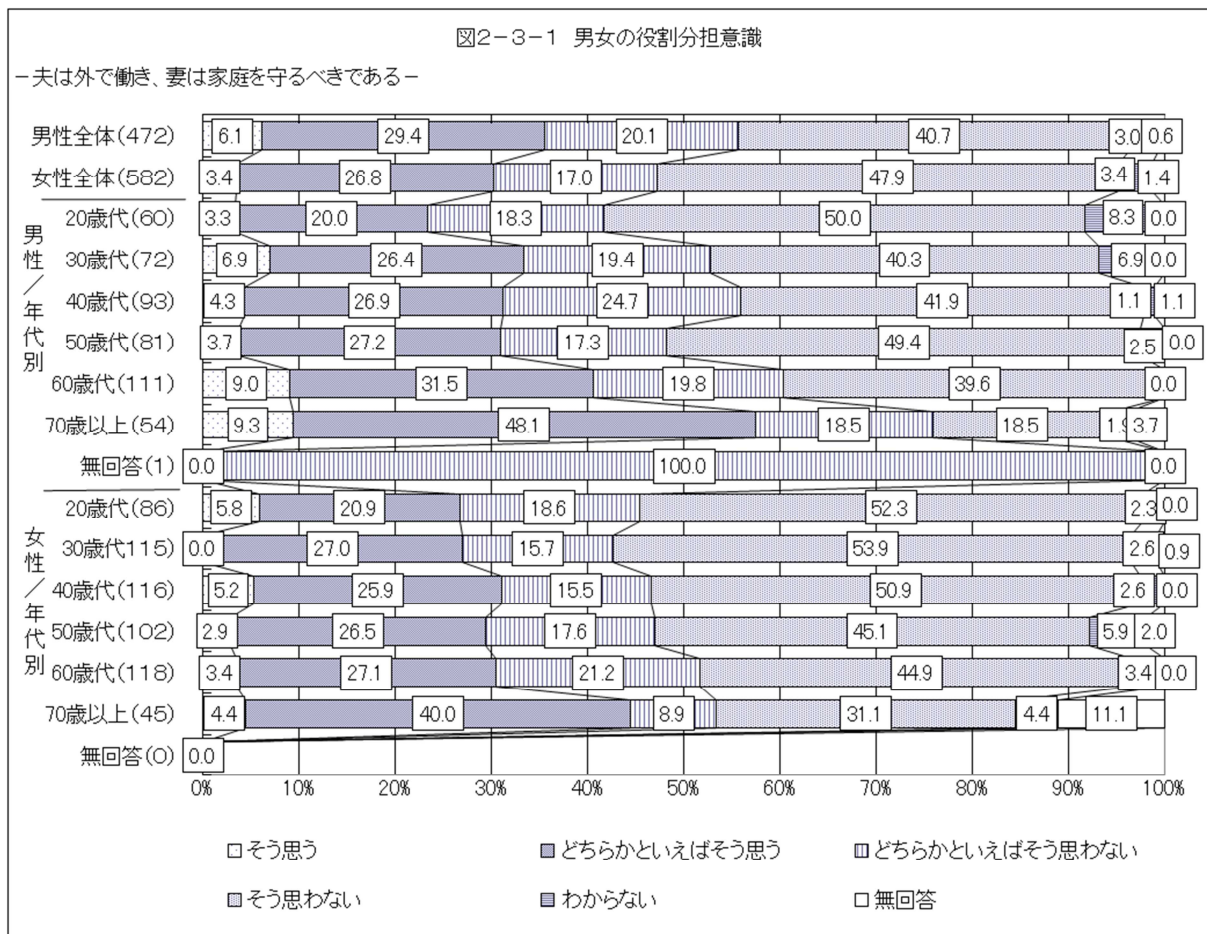


図2-3-2 男女の役割分担意識

—女性は仕事を持つのはよいが、家事・育児はきちんとすべきである—

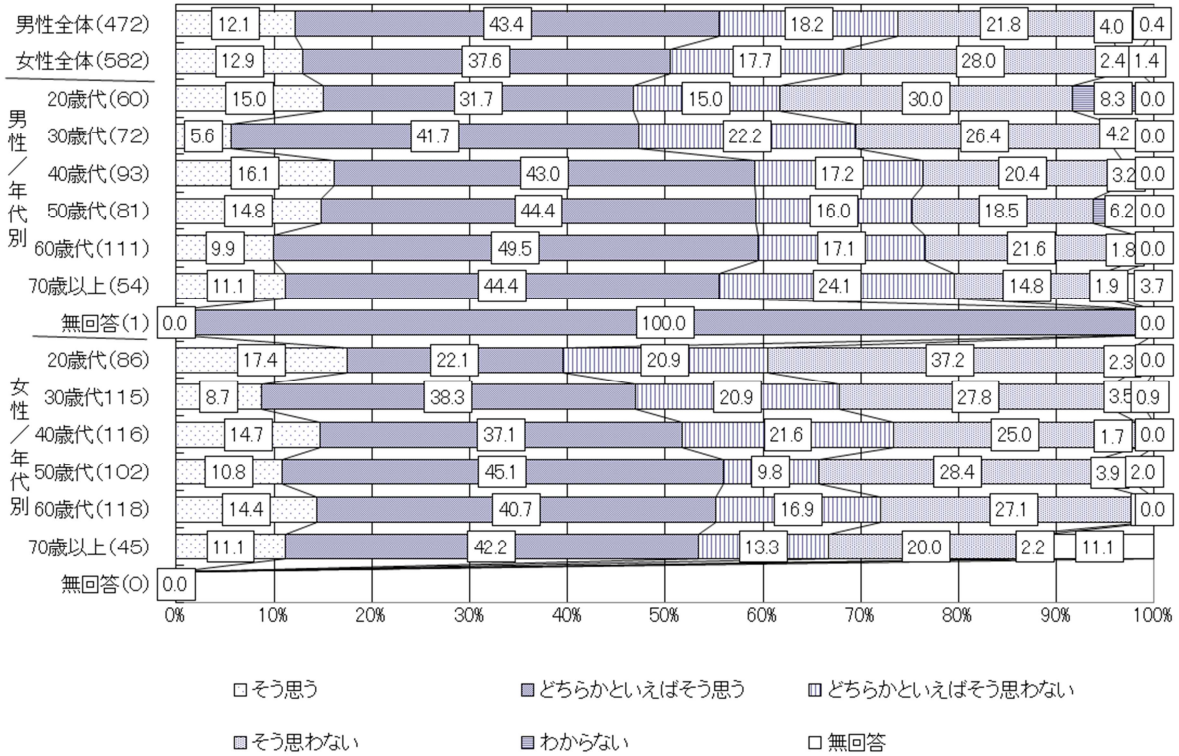
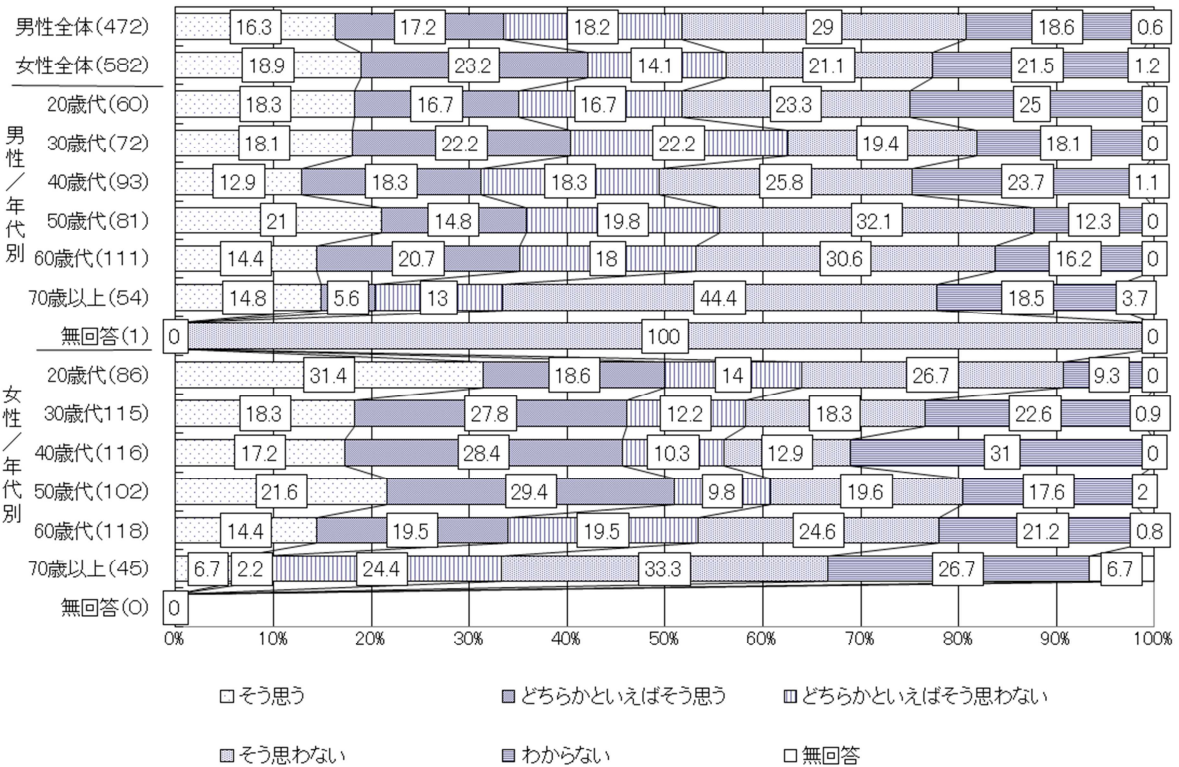


図2-3-3 男女の役割分担意識

—夫婦別姓を選択できることを認める方がよい—



### 問3 結婚・離婚・子どもをもつことについての考え

問3 次のような結婚・離婚・子どもをもつことについて、どう思いますか。  
(ア～オについて、あなたの考えに近い番号に○を1つつ)

図3-1 結婚・離婚・子どもをもつことについての考え

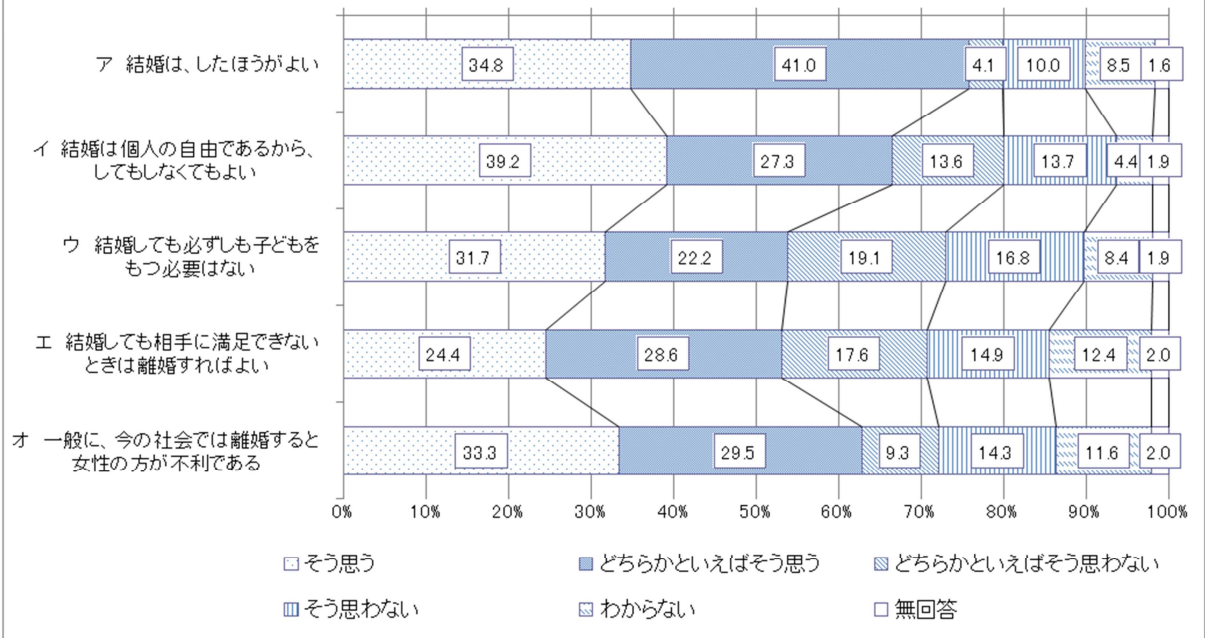
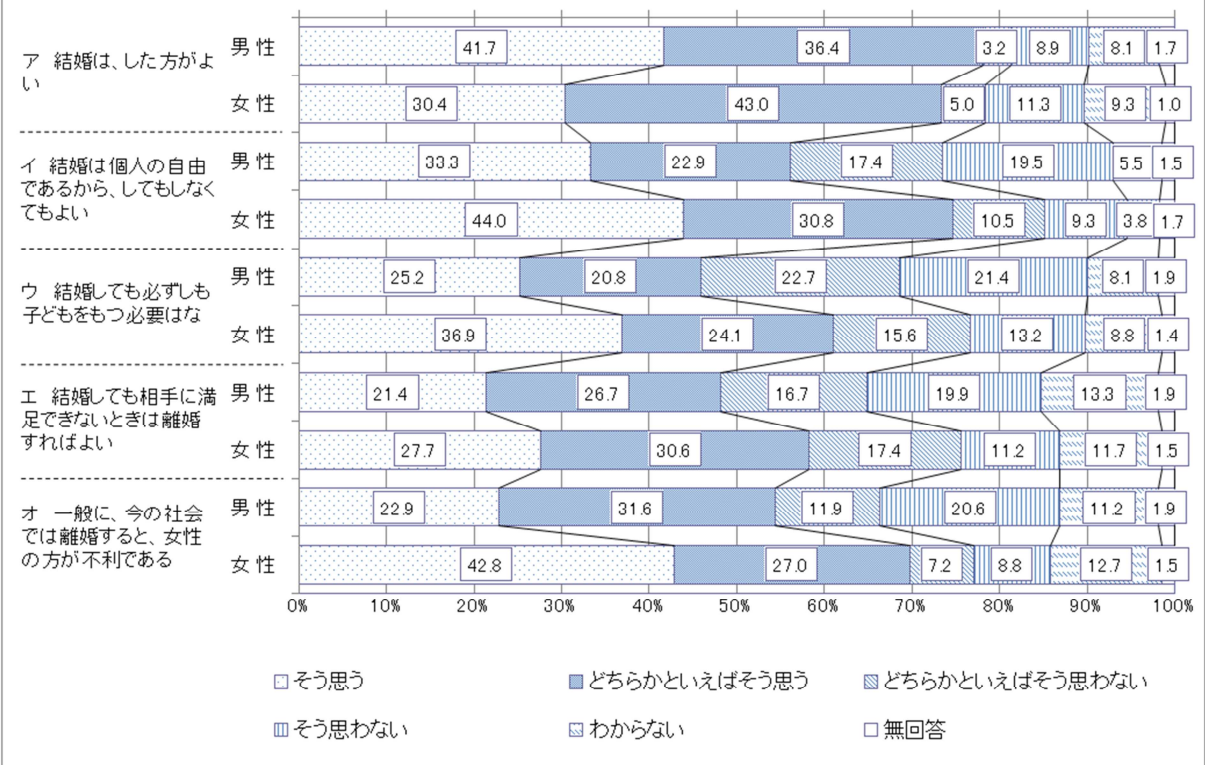


図3-2 結婚・離婚・子どもをもつことについての考え(性別)



(図3-1)

結婚・離婚・子どもを持つことについて考え方をたずねたところ、「結婚は、した方がよい」は、男性も女性も7割以上が肯定的な考え方をしており、『否定』は14.1%と大きな差が出ている。

「結婚しても必ずしも子どもをもつ必要はない」は、『肯定』が53.9%に対し、『否定』が35.9%となっている。

「結婚しても相手に満足できないときは離婚すればよい」は、『肯定』53%、『否定』32.5%と「子どもをもつこと」と同じような傾向が見られる。

「一般に、今の社会では離婚すると女性の方が不利である」は、6割強が『肯定』で、『否定』の2倍以上と顕著な結果となった、

(図3-2)

性別でみると、「結婚はした方がよい」について『肯定』的でも、「結婚は個人の自由であるから、してもしなくてもよい」と考える女性は多く、男性より18.6ポイント高い。

「結婚しても必ずしも子どもをもつ必要はない」は、男性の46%に対し、女性では61%が『肯定』、「結婚しても相手に満足できないときは離婚すればよい」は男性48.1%に対して女性58.3%と女性の方が10.2ポイント高い。

「一般に、今の社会では離婚すると女性の方が不利である」についても、男性54.5%、女性69.8%と男女間に大きな差があることがわかる。

### 3 家庭生活について

#### 問4 生活時間

問4 あなたのふだんの生活時間についておたずねします。平日、次のようなことに使う時間はどのくらいですか。(1日あたり平均)

表4-1 生活時間<回答者の平均>

項目	回答者数		
	全体	男性	女性
	1118	472	582
1 家事・育児・介護に使う時間 (炊事・選択・掃除・育児・介護など)	3:09	1:10	4:45
2 仕事に使う時間 (仕事・通勤・仕事上のつきあいなど)	7:26	8:54	6:03
3 社会活動に使う時間 (ボランティア・地域活動)	0:13	0:14	0:13
4 自分自身のための自由な時間 (趣味・テレビ・スポーツ・休憩など)	3:14	3:31	3:02

(表4-1)

普段の生活の中で、4項目に使う平均時間をみると、「家事・育児・介護に使う時間」は、男性は1時間10分、女性は4時間45分である。「仕事に使う時間」では、男性が8時間54分、女性で6時間3分になっている。この2項目について、男女での差が大きいことがわかる。

(表4-2)

平均時間を職業別にみると、有職者の中では、男女ともに「仕事」に使う時間の比重が大きいことがわかる。その中でも、(正規の社員・職員)は、男性で11時間10分、女性で10時10分と特に多くなっている。

「家事・育児・介護に使う時間」は、すべての職業で男性より女性の方が長く、また、男性では、有職者のどの職業でも平均すると1時間程度でほとんど変わらない。

(図4-1-1)

生活時間を項目ごとに使う時間でみると、「家事・育児・介護に使う時間」は、男性では『2時間未満』が圧倒的に多く、7割以上を占めているのに対し、女性は『2時間以上』が8割以上を占めていて、男女間の差がはっきりと現れている。

(図4-1-2)

「仕事に使う時間」では、『10時間以上』が男性の54%、女性の23.7%となっている。

(図4-1-3)

「社会活動」は、『全くしていない』が8割弱を占めている。平均時間は男女ともに15分未満である。

(図4-1-4)

「自由時間」は、最も多いのが、男女ともに『2~3時間』の約3割で、次に多いのは、男性では『1~2時間』、女性では『3~4時間』と続く。

表4-2 生活時間<回答者の平均> (職業別)

単位：時間

項 目			家事・育児・介護に 費やす時間	仕事に使う時間	社会活動に使う時間	自分自身のための自由時間
自由業・自営業・家業	全体	93	2:22	7:49	0:24	3:11
	男性	58	1:06	8:28	0:28	3:14
	女性	35	4:32	6:36	0:15	3:06
正規の社員・職員	全体	367	1:45	10:46	0:04	2:20
	男性	221	1:01	11:10	0:04	2:20
	女性	146	2:49	10:10	0:03	2:20
派遣・契約・嘱託	全体	64	1:52	9:41	0:08	3:04
	男性	40	1:04	10:17	0:10	3:18
	女性	24	3:11	8:39	0:05	2:40
臨時・パート・アルバイト	全体	195	3:52	6:49	0:16	3:11
	男性	49	1:04	7:42	0:16	4:21
	女性	146	4:42	6:31	0:15	2:48
専業主婦・専業主夫	全体	153	7:33	1:12	0:20	3:22
	男性	1	-	6:00	0:30	5:00
	女性	152	7:33	1:09	0:20	3:22
学生	全体	29	0:52	3:57	0:03	4:36
	男性	11	0:37	3:48	0:06	4:27
	女性	18	1:02	4:13	0:00	4:41
無職	全体	138	2:52	1:45	0:32	5:51
	男性	83	1:51	1:47	0:36	6:37
	女性	55	4:23	1:42	0:25	4:35
その他	全体	12	2:23	7:03	0:21	2:52
	男性	8	1:19	8:39	0:21	3:04
	女性	4	4:15	4:15	0:20	2:30
無回答	全体	67	2:45	8:24	0:10	2:42
	男性	1	1:00	11:00	0:00	3:00
	女性	2	3:00	6:45	0:00	1:30

図4-1-1 生活時間（家事・育児・介護）

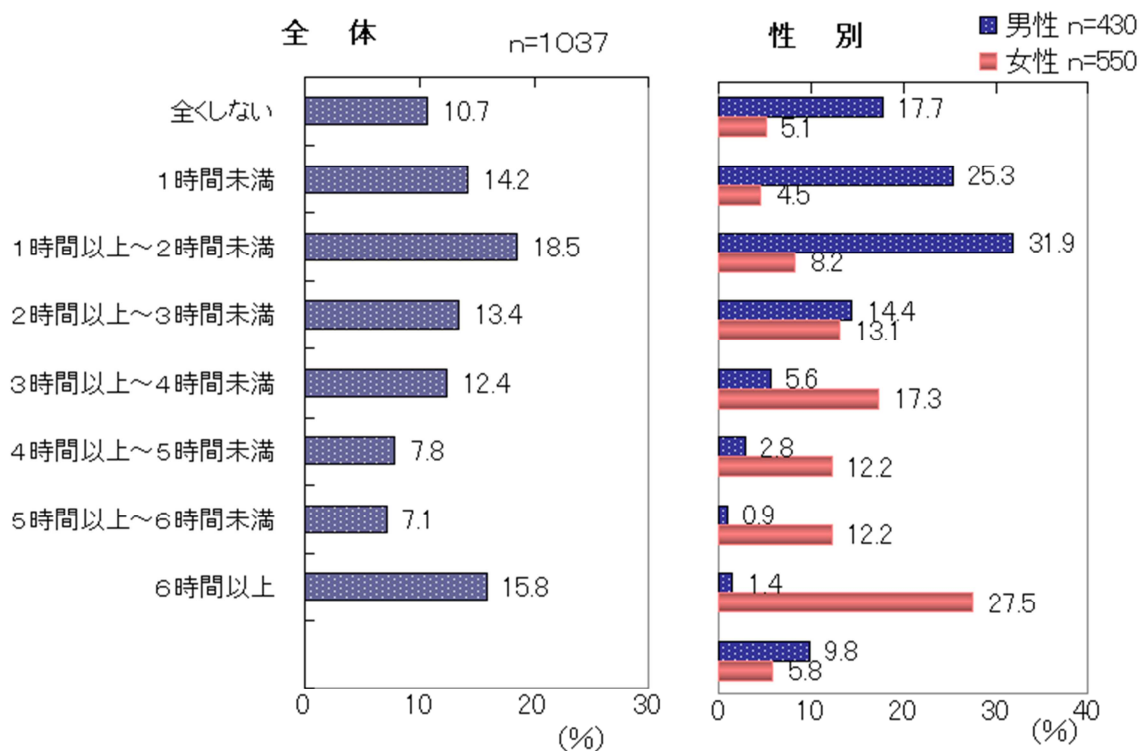


図4-1-2 生活時間（仕事）

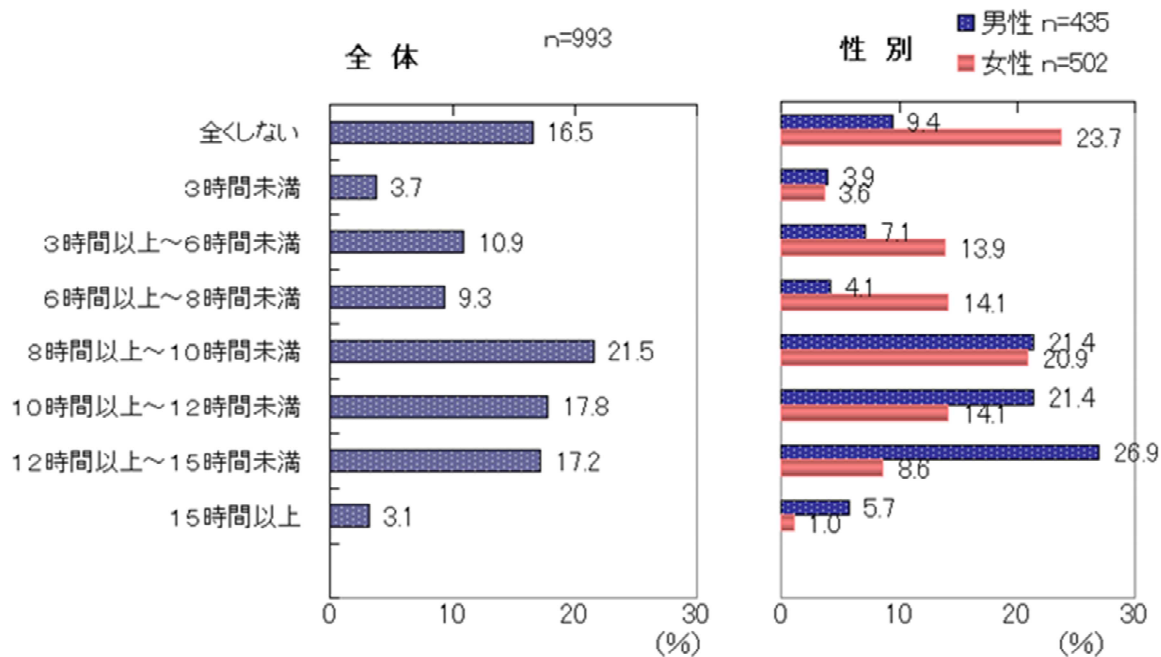




図4-1-3 生活時間（社会活動）

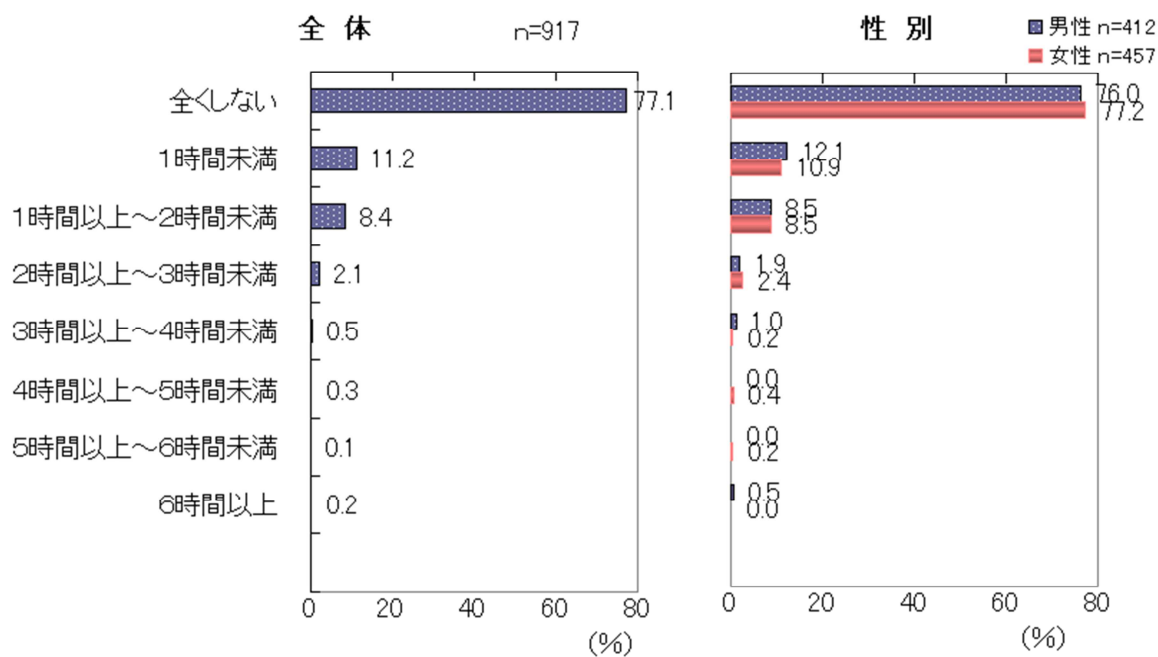
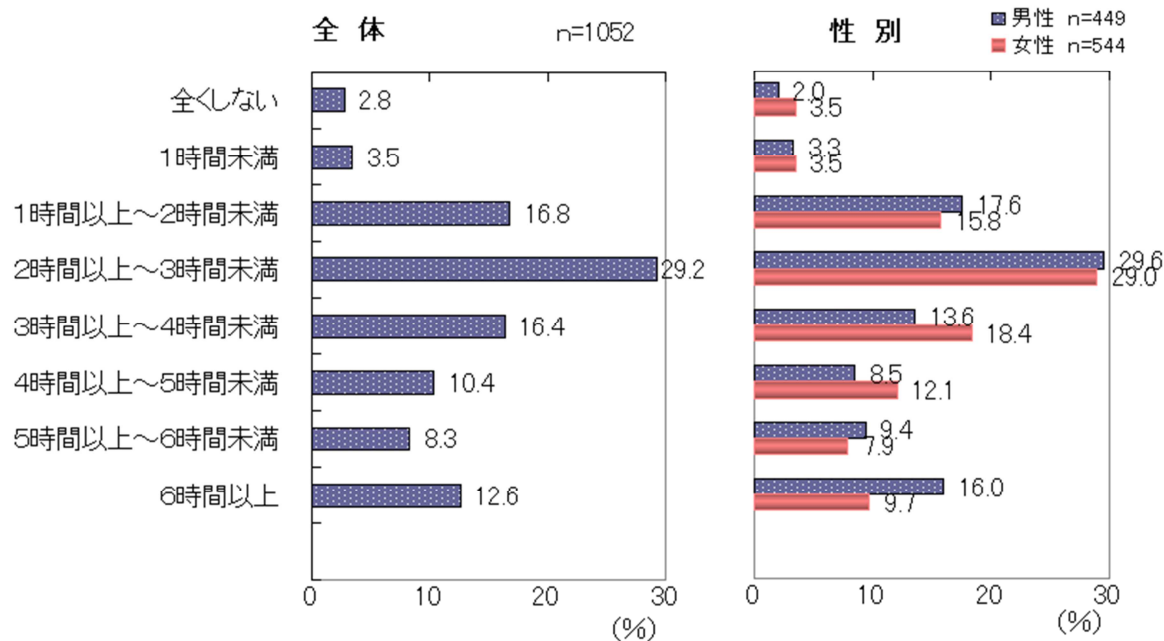
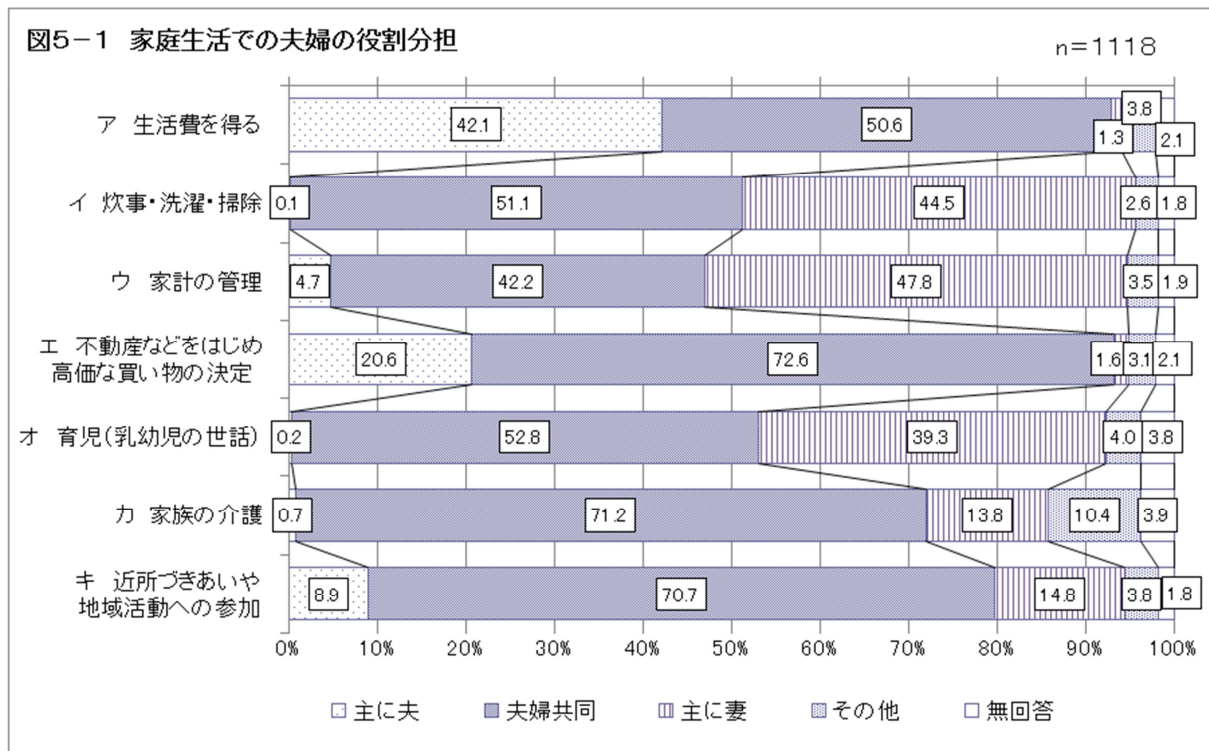


図4-1-4 生活時間（自由時間）



## 問5 家庭生活での夫婦の役割分担

問5 家庭生活での夫婦の役割分担はどのようにすればよいと思いますか。



(図5-1)

家庭生活での夫婦の役割分担をどのようにしたらよいか、7項目についてたずねた。

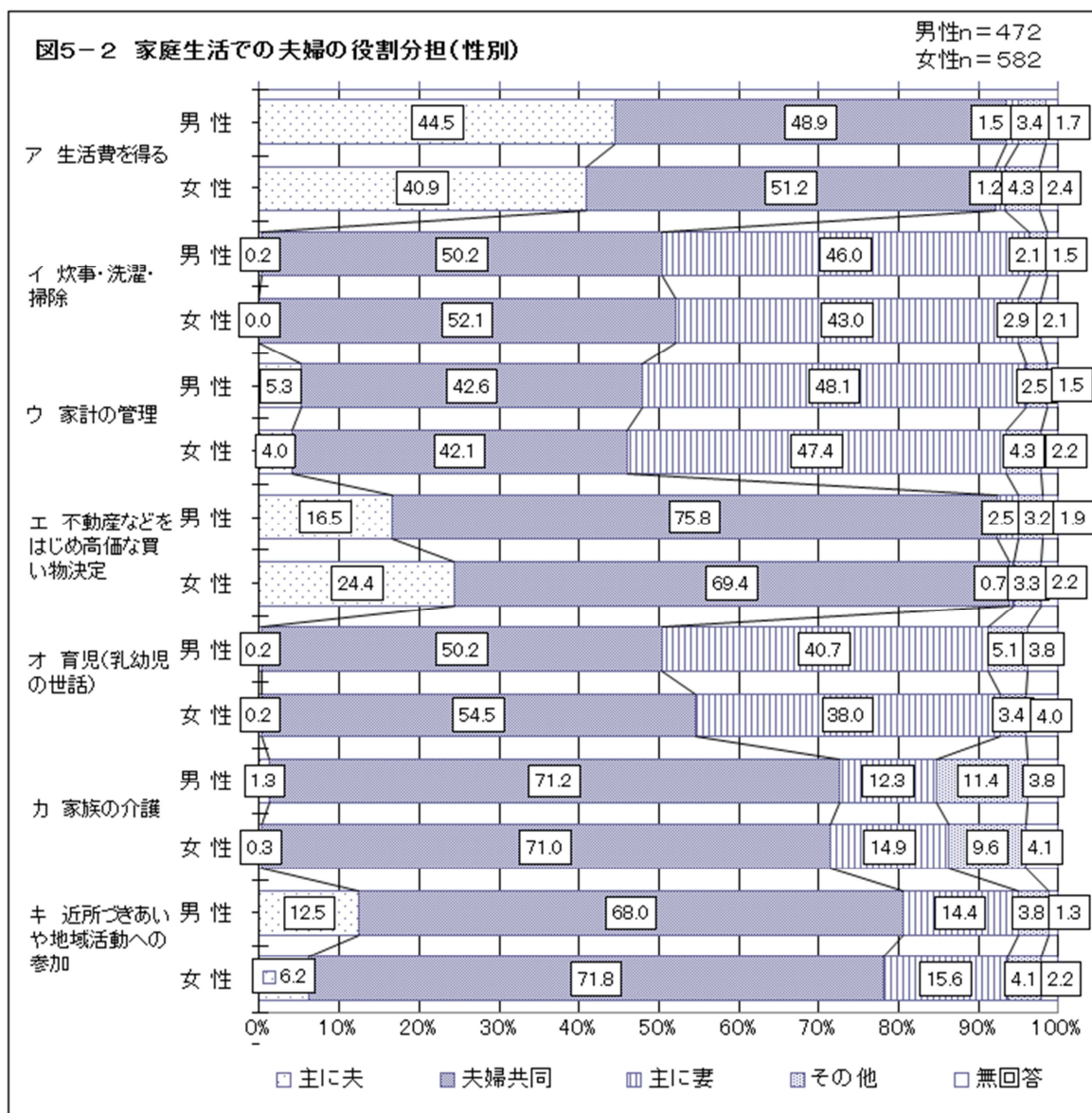
「生活費を得る」は、『主に夫』が42.1%、『夫婦共同』が50.6%となっている。

「炊事・洗濯・掃除」「育児(乳幼児の世話)」は、『夫婦共同』が約5割で『主に妻』が約4割、「不動産などを高価な買い物の決定」「家族の介護」「近所づきあいや地域活動への参加」では、7割以上が『夫婦共同』と考えていることがわかる。

(図5-2)

性別でみると、男女で大きな差はなく、「不動産などを高価な買い物の決定」において、『主に夫』と考える男性16.5%に対して、『主に夫』と考える女性が24.4%で7.9ポイントの差があるが、男女ともに各項目について『夫婦共同』とする割合が高いことがわかった。

生活時間のなかで長時間を費やさなければならない「生活費を得る」「炊事・選択・掃除」「育児(乳幼児の世話)」「家族の介護」についてみると、「家族の介護」は『夫婦共同』が望ましいとの考えが7割を超えているが、それ以外では5割程度となっている。

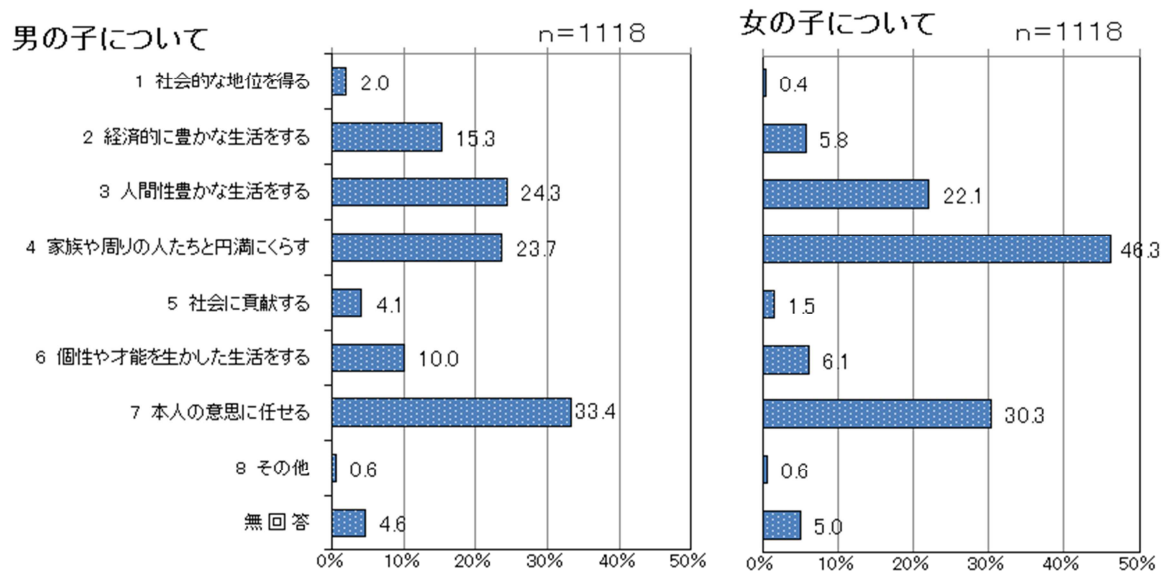


## 4 子育て・教育について

### 問6 子どもの生き方に望むこと

問6 あなたに、男の子と女の子がいるとして、その子たちにはどのような生き方を望みますか。

図6-1 子どもの生き方に望むこと

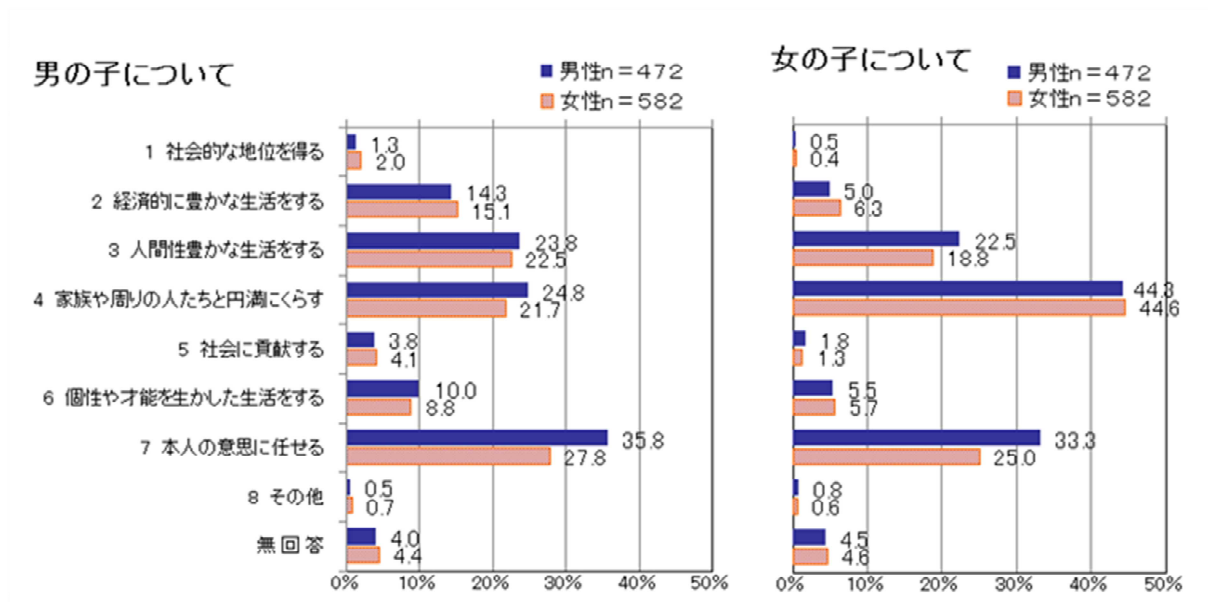


(図6-1) 自分の子どもに望む生き方については、「男の子について」では、最も多かったのが、『本人の意思に任せる』で、『人間性豊かな生活をする』、『家族や周りの人たちと円満にくらす』と続く。

「女の子について」では、多い順に、『家族や周りの人たちと円満にくらす』、『本人の意思に任せる』、『人間性豊かな生活をする』となっている。順位は異なるが、上位3項目については同様となった。

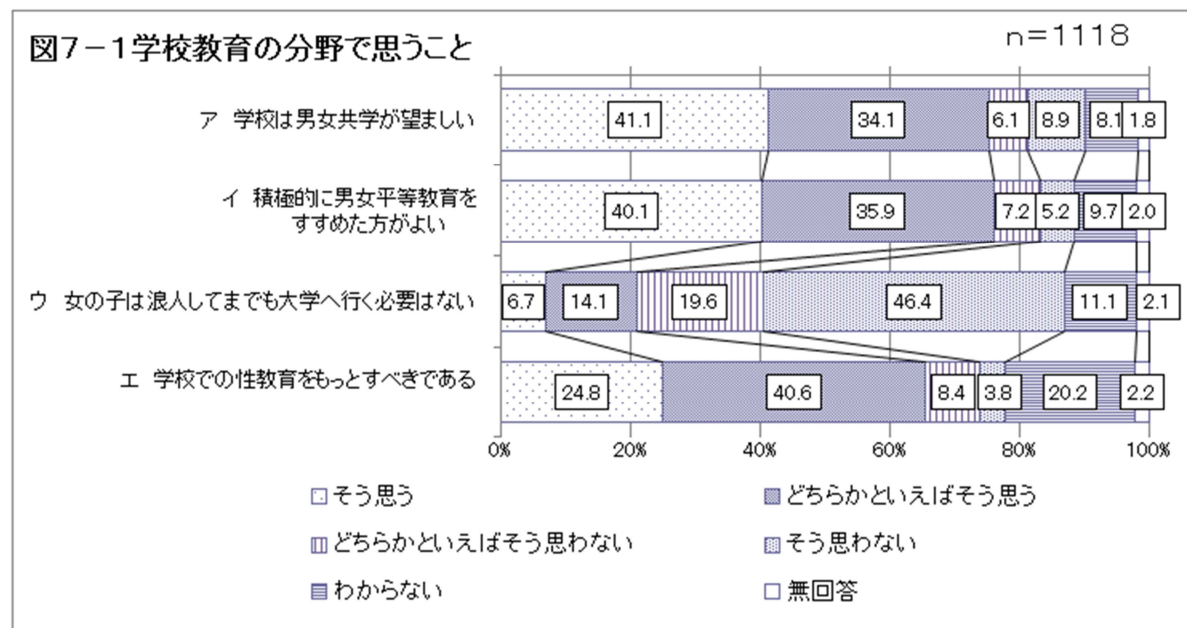
(図6-2) 性別でも、「男の子」「女の子」それぞれ望むことの上位3項目の順位は変わらない。子どもに望む生き方については、男女で大きな考え方の違いはないことがわかる。

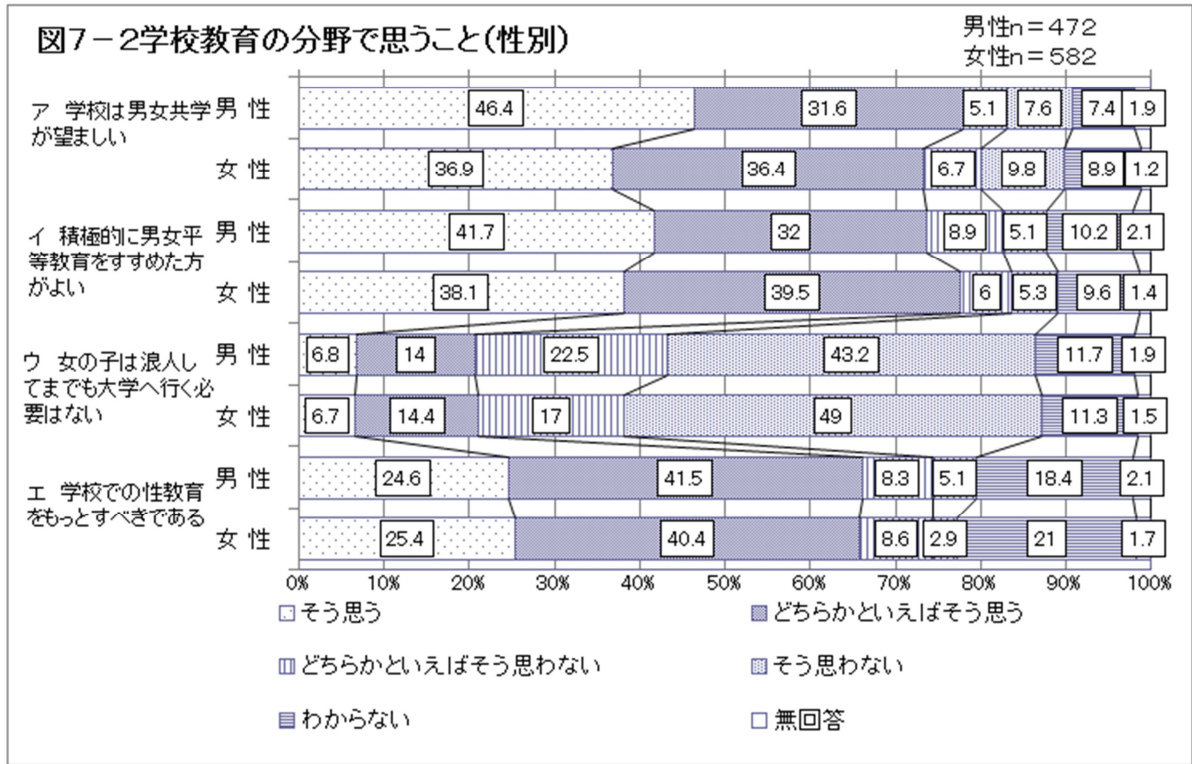
図6-2 子どもの生き方に望むこと（性別）



問7 学校教育の分野で思うこと

問7 学校教育について、どう思いますか。





(図7-1)

学校教育の分野についてたずねたところ、「学校は男女共学が望ましい」と「積極的に男女平等教育をすすめた方がよい」については、75%以上が『肯定』である。

「女の子は浪人してまでも大学へ行く必要はない」は、『否定』(66.0%)が、『肯定』(20.8%)の3倍である。また、「わからない」が1割いる。

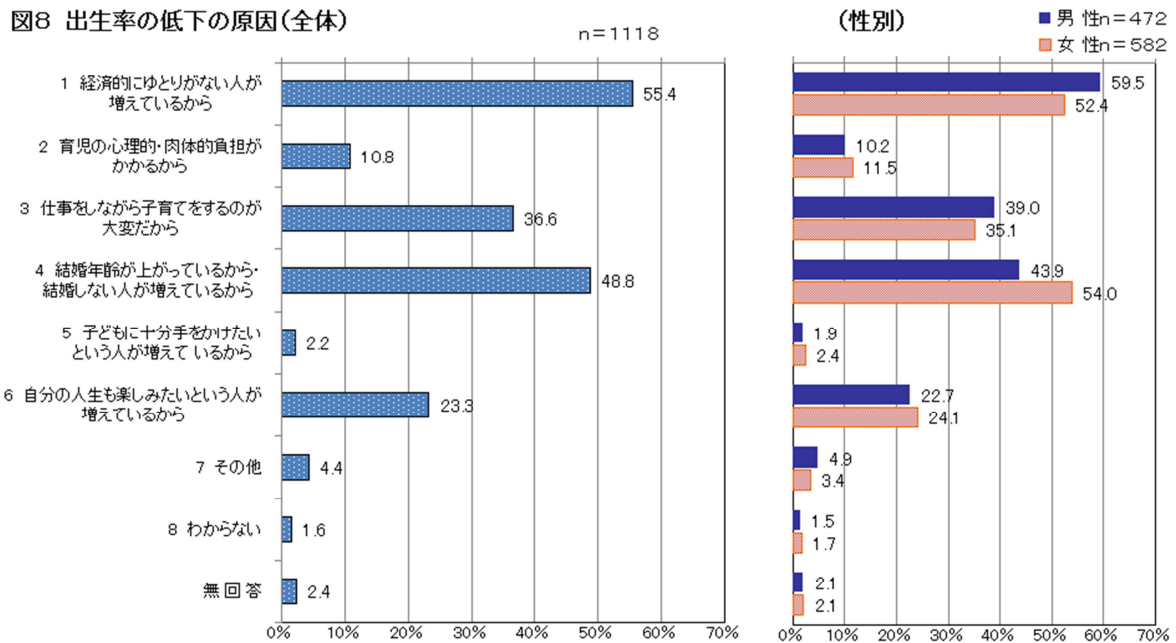
「学校での性教育をもっとすべきである」は、全体の2割が「わからない」としている中で、『肯定』(65.4%)が『否定』(12.2%)の5倍以上にのぼった。

(図7-2)

すべての項目について、『肯定』と『否定』の考え方は、男女間で大きな違いがないことがわかる。

## 問 8 出生率低下の原因

問 8 近年、出生率が減っていますが、その原因は何だと思えますか。



(図 8)

出生率低下の原因についてたずねたところ、全体では、「経済的にゆとりがない人が増えているから」(55.4%)が最も多かった。次いで、「結婚年齢が上がっているから・結婚しない人が増えているから」(48.8%)、「仕事をしながら子育てをするのが大変だから」(36.6%)が続いている。

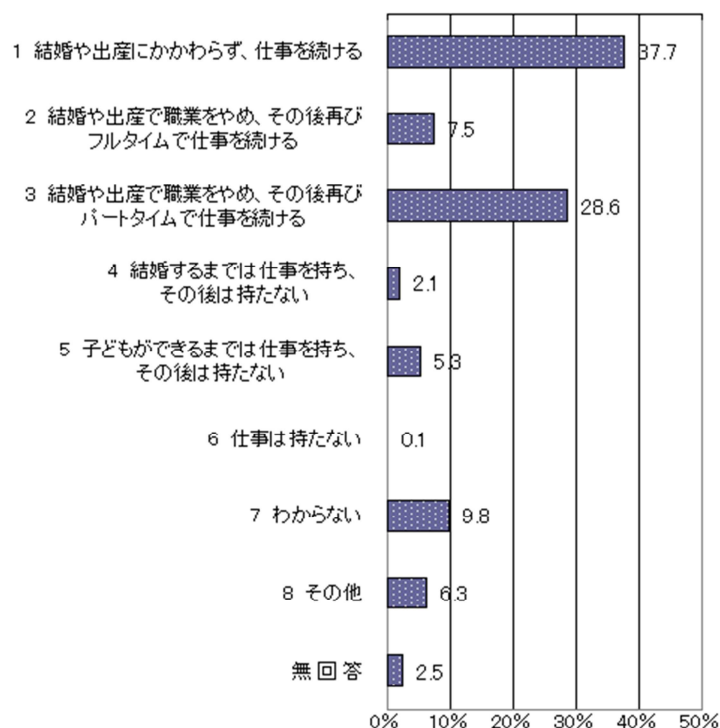
また、性別でみると、男性では、「経済的にゆとりがない人が増えているから」、「結婚年齢が上がっているから・結婚しない人が増えているから」、「仕事をしながら子育てをするのが大変だから」、「自分の人生も楽しみたいという人が増えているから」の順で、全体の順位と同様である。女性では、「結婚年齢が上がっているから・結婚しない人が増えているから」、「経済的にゆとりがない人が増えているから」、「仕事をしながら子育てをするのが大変だから」、「自分の人生も楽しみたいという人が増えているから」の順で続く。特に「結婚年齢が上がっているから・結婚しない人が増えているから」では、女性の方が10ポイント高くなっている。

## 5 就労について

### 問9 女性の働き方について望ましいと思う形

問9 女性の働き方について、望ましいと思うのは次のどれですか。(○は1つだけ)

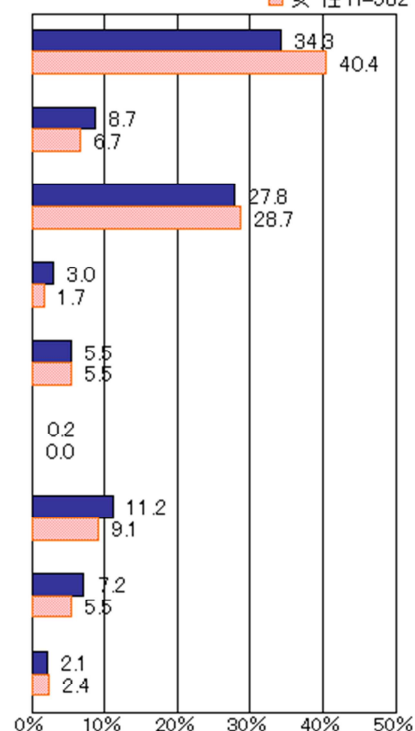
図9-1 女性の働き方について望ましいと思うかたち(全体) n=1118



(性別)

■男性 n=472

□女性 n=582



(図9-1)

女性の働き方について望ましいと思う形をたずねたところ、「結婚や出産にかかわらず、仕事を続ける」(以下「就業継続型」)が37.7%で最も多く、次に「結婚や出産で職業をやめ、その後再びパートタイムで仕事を続ける」(以下「パートタイム再就職型」)が28.6%となっており、「わからない」も1割近くいる。なお、「中断再就職型」では、再就職後は「フルタイム」ではなく「パートタイム」との考えが約4倍となっている。

男女別でも、順位は変わらないが、特に女性では「就業継続型」が、40.4%と高い。

(図9-2)

性別・年代別で見ると、男性の50・60代では、「就業継続型」が4割を超え「中断再就職型」と10%以上の差がある。一方20~40代の子育て世代では、「就業継続型」と「パートタイム再就職型」が約3割、「フルタイム再就職型」は1割未満で、「わからない」とする回答も15%前後と他の年代より高い。

女性を年代別にみると、30~50代では、「就業継続型」が4割以上で、特に30代では「中断再就職型」との差が20%近くある。

(図9-3)

職業別で見ると、「正規社員・職員」、「学生」において、「就業継続型」が、「中断再就職型」を上回っている



図9-2 女性の働き方について望ましいと思う形(性別・性別/年代別)

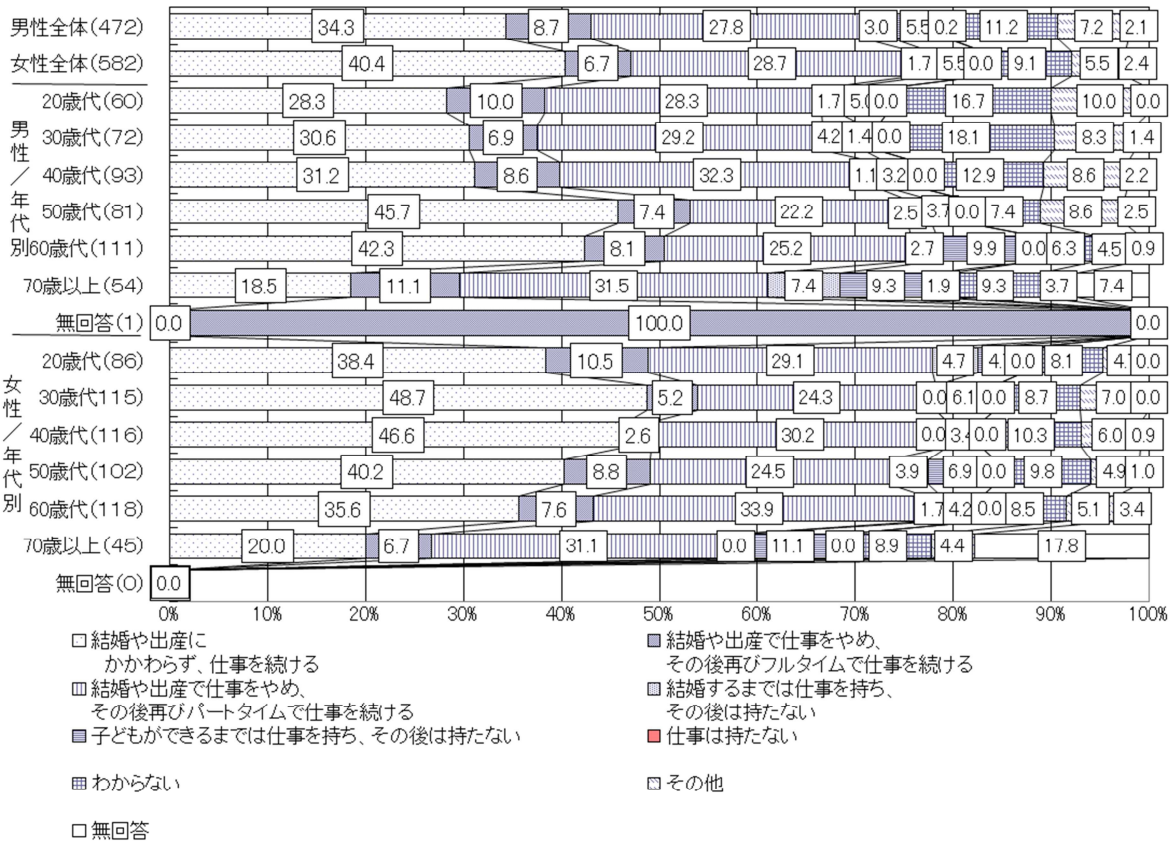
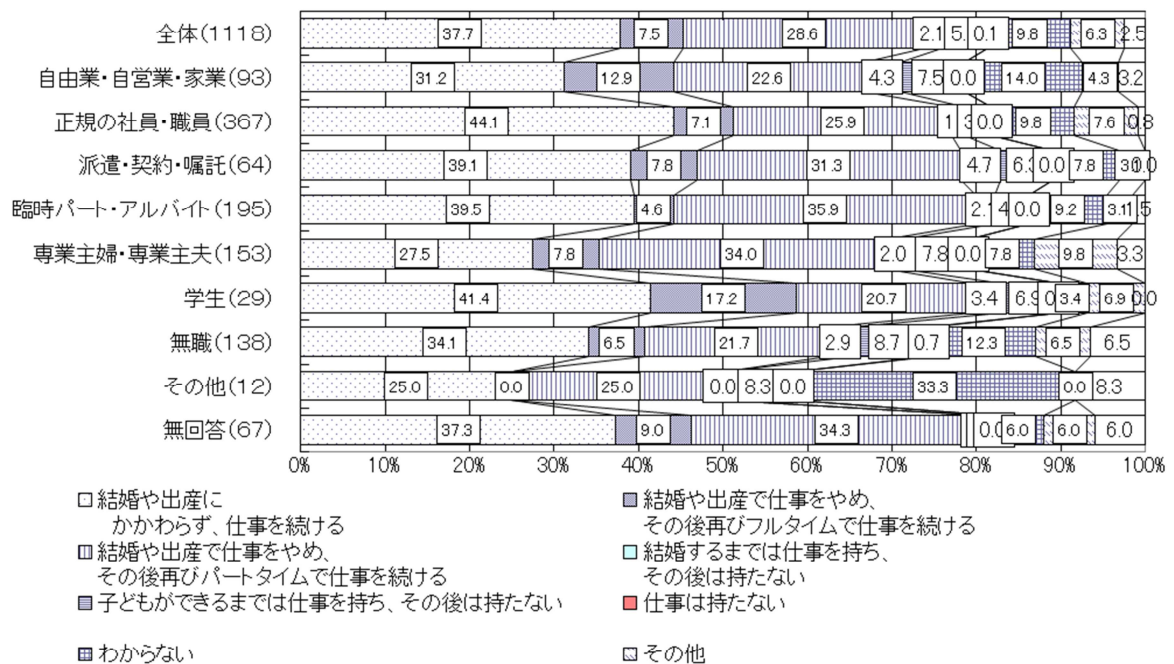
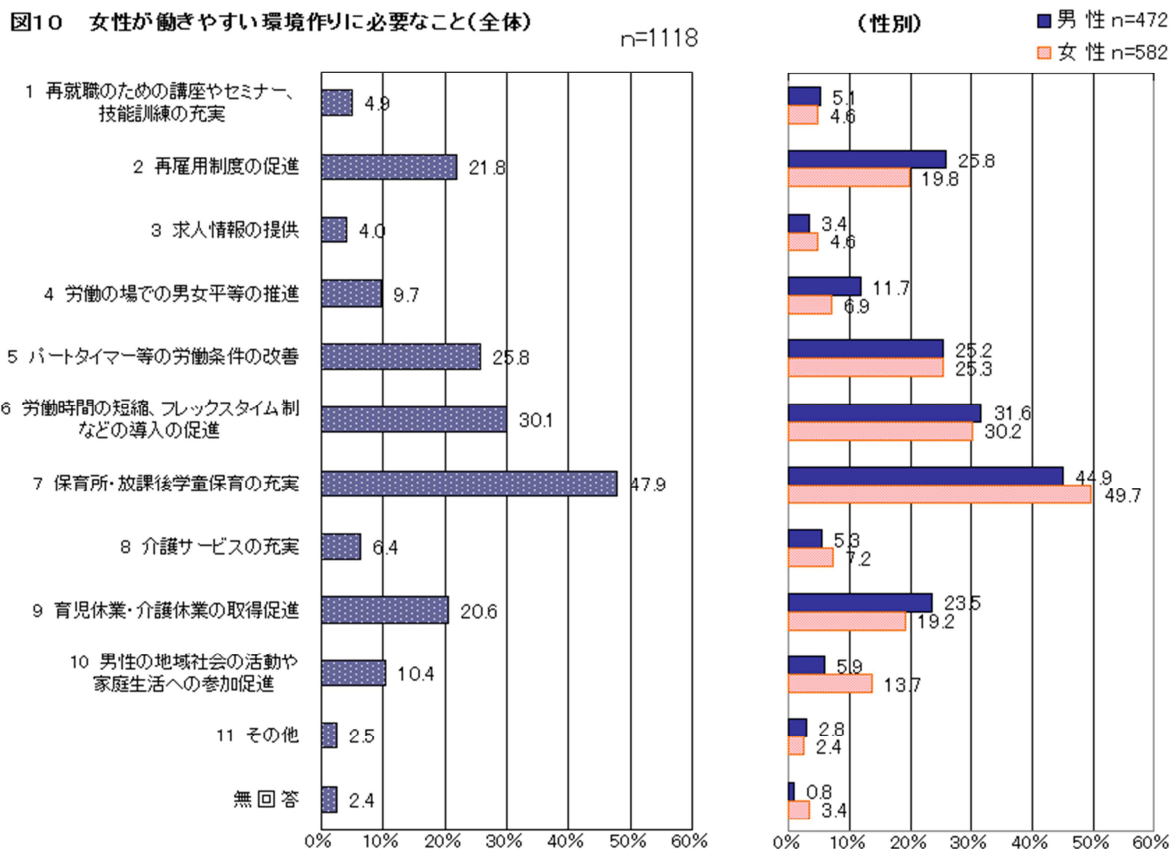


図9-3 女性の働き方について望ましいと思う形(職業別)



## 問10 女性の働きやすい環境作りに必要なこと

問10 女性が働きやすい環境をつくるためには、どのようなことが必要だと思いますか。



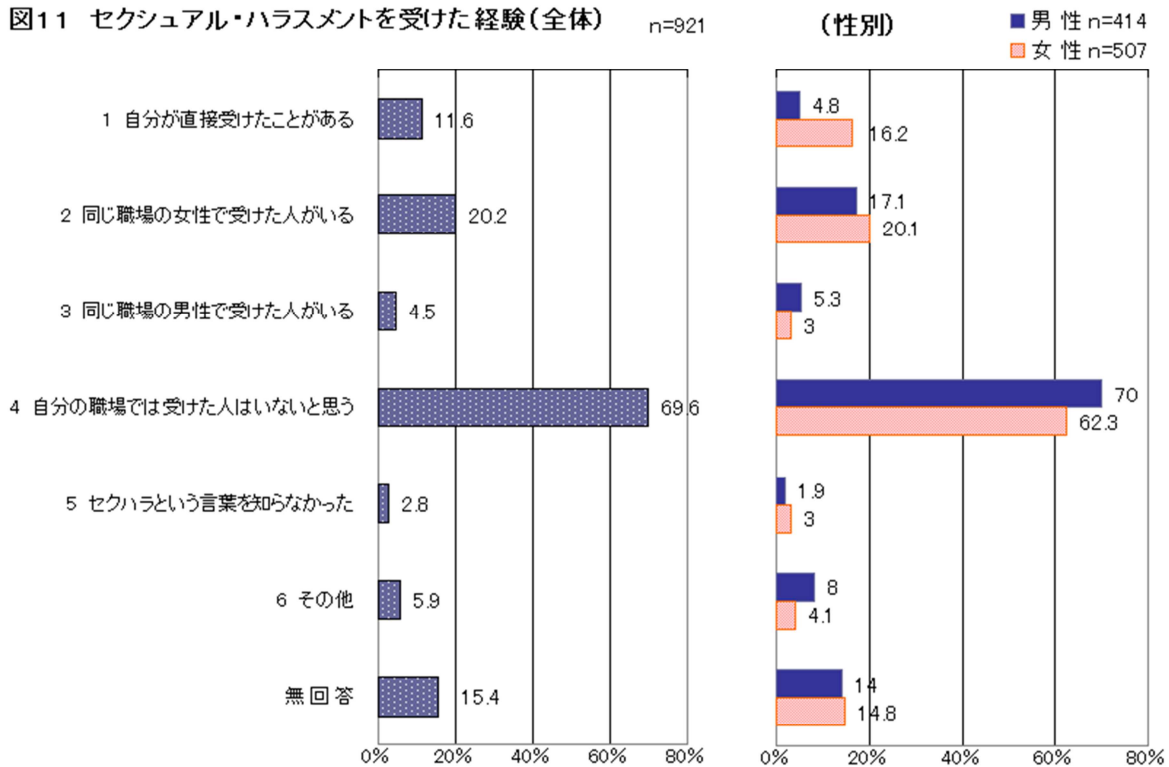
(図10)

女性が働きやすい環境をつくるために必要なことをたずねたところ、全体では、「保育所・放課後学童保育の充実」(47.9%)が最も多く、続いて「労働時間の短縮、フレックスタイム制などの導入の促進」(30.1%)、「パートタイマー等の労働条件の改善」(25.8%)、「再雇用制度の促進」(21.8%)、「育児休業・介護休業の取得の促進」(20.6%)となっている。

性別で見ると、順位はほとんど変わらないが、男女ともに「保育所・放課後学童保育の充実」(男性44.9%、女性49.7%)が最も多く、女性は男性より4.8ポイント高い。また、「労働時間の短縮、フレックスタイム制などの導入の促進」が、5年前の調査の2倍に上がるなど、より充実した早急な対策が必要とされている。

## 問 1 1 セクシュアル・ハラスメントを受けた経験

問 1 1 【現在、職業に就いている方、又は職業に就いたことのある方のみお答えください】  
職場におけるセクシュアル・ハラスメント（セクハラ＝性的嫌がらせ）が社会問題となっ  
ています。あなたの職場ではどうですか。またはどうでしたか。



(図 1 1)

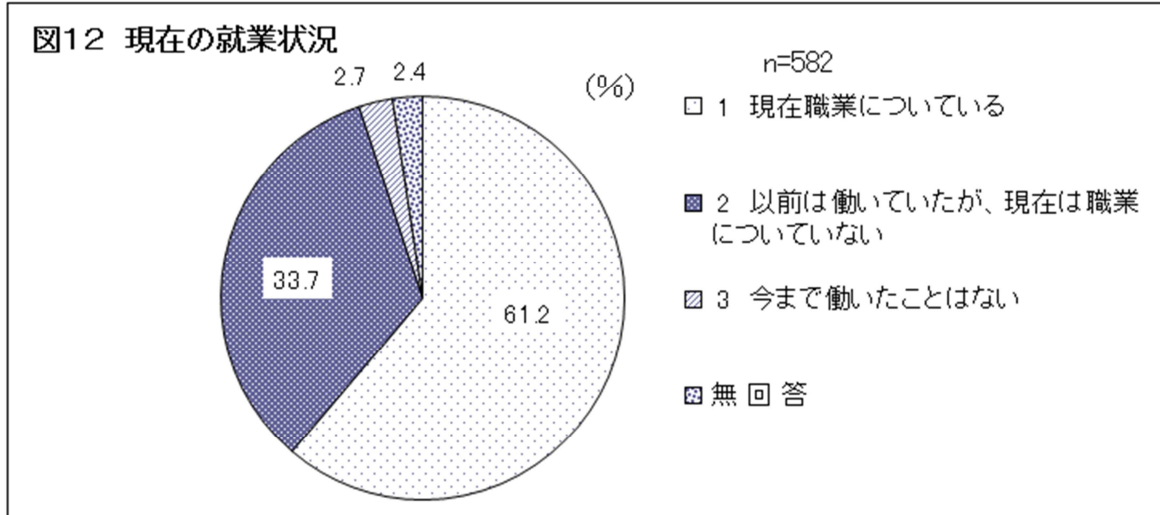
就業経験者にセクシュアル・ハラスメントを受けた経験の有無をたずねたところ、全体では、「自分の職場では受けた人はいないと思う」が 69.6%と最も多かった。しかし、「同じ職場の女性で受けた人がある」20.2%、「自分が直接受けたことがある」11.6%などセクシュアル・ハラスメントが身近な問題であることがうかがえる。

性別でみると、「自分が直接受けたことがある」という女性が 16.2%にのぼり、大多数は女性であることがわかる。しかし、「自分が直接受けたことがある」という男性が 4.8%、「同じ職場の男性で受けた人がある」とする男女ともわずかながら存在し、少数ながら男性も被害を受けていることがわかる。

## (就労について 女性のみ対象)

### 問 1 2 現在の就業状況

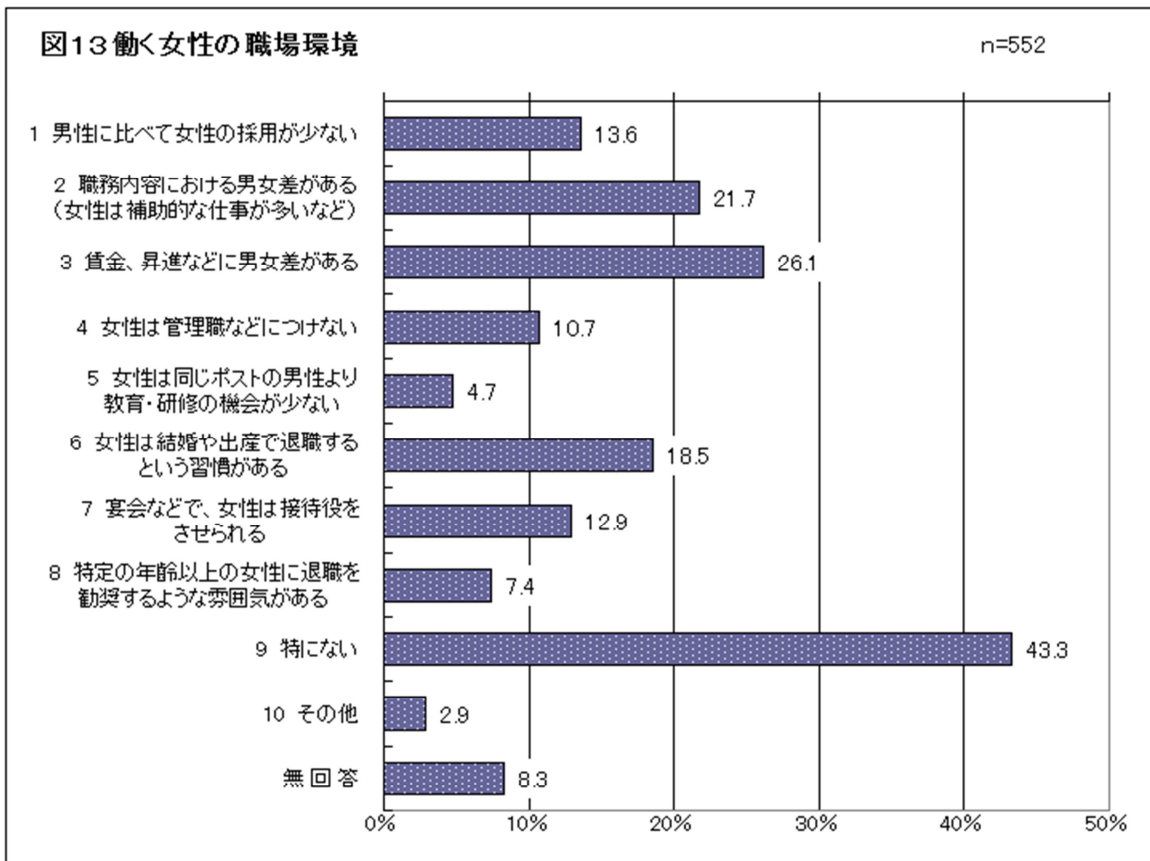
問 1 2 あなたは、現在収入のある職業に就いていますか。(パート・アルバイトを含みます。)



### 問 1 3 女性の働く職場環境

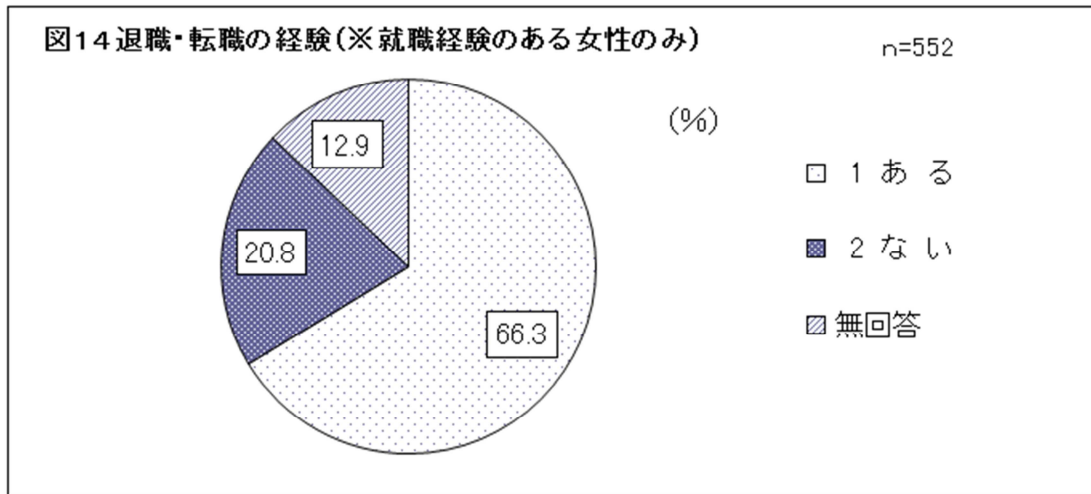
問 1 3 【問 1 2 で、「1」または「2」と回答した方のみお答えください。】

あなたの職場では、仕事の内容や待遇面で、女性に対して次のようなことがありますか。または過去にありましたか。(○は2つまで)



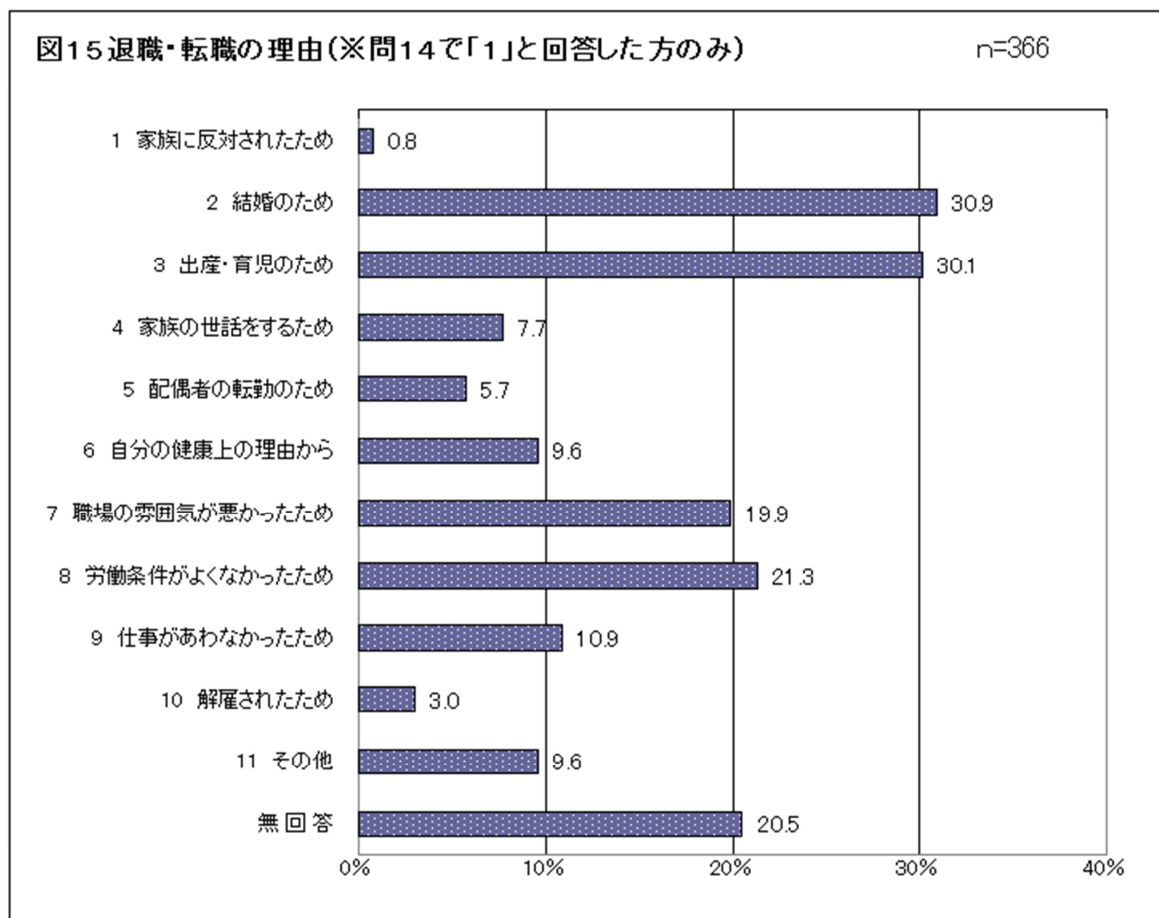
## 問14 退職・転職の経験

問14 【問12で、「1」または「2」と回答した方のみお答えください。  
あなたは、今までに、仕事を辞めたり、転職をしたことがありますか。



## 問15 退職・転職の理由

問15 【問14で、「1」と回答した方のみお答えください。  
その理由は何ですか。該当するものに○をつけて下さい。



(図12)

女性(582人)に現在の就業状況についてたずねたところ、「現在職業についている」が61.2%と6割を占め、「以前は働いていたが、現在は職業についていない」(33.7%)を含めた『就業経験あり』は、94.9%にのぼる。

(図13)

就業経験のある人(552人)に女性の働く職場環境についての8項目についてたずねると、「特にない」(43.3%)とするものが多かった。

内容を見ると、「賃金、昇進などに男女差がある」(26.1%)が最も多く、「職務内容における男女差がある(女性は補助的な仕事が多いなど)」(21.7%)、「女性は結婚や出産で退職するという習慣がある」(18.5%)、「男性に比べて女性の採用が少ない」(13.6%)、「宴会などで、女性は接待役をさせられる」(12.9%)と続いている。

(図14)

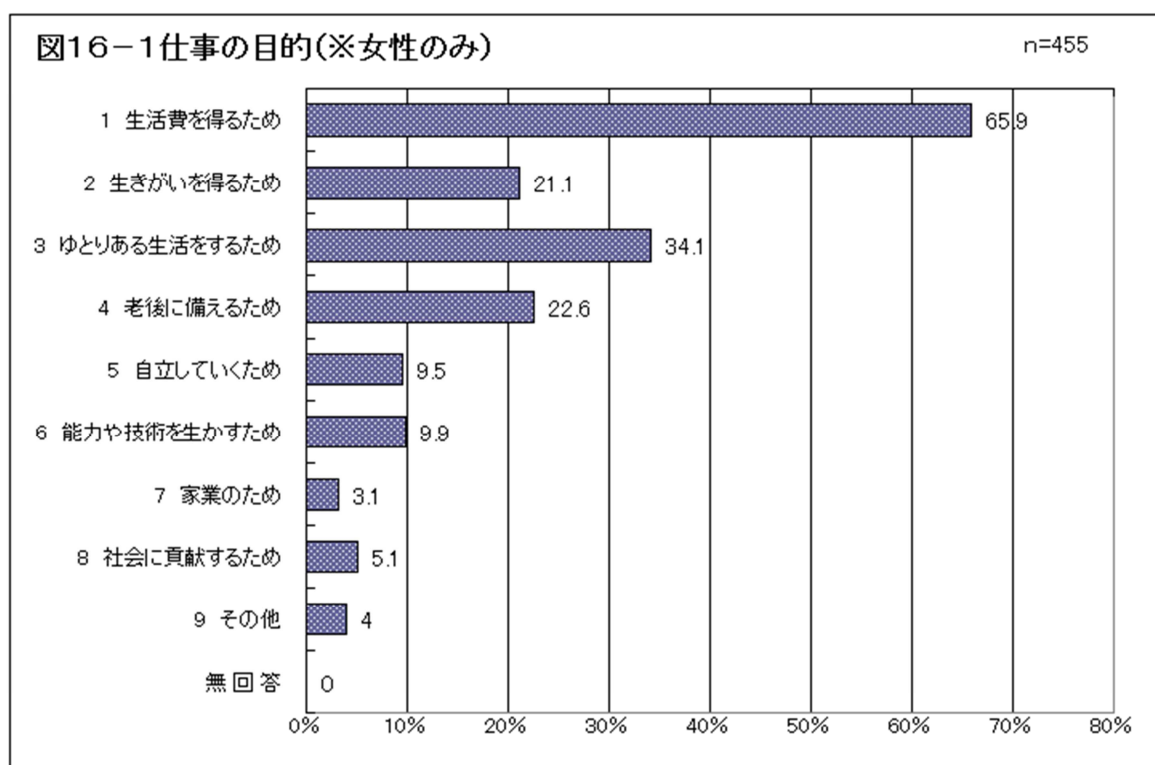
就業経験のある人(552人)に退職、転職の経験をたずねると、66.3%が『就業経験あり』という結果になった。

(図15)

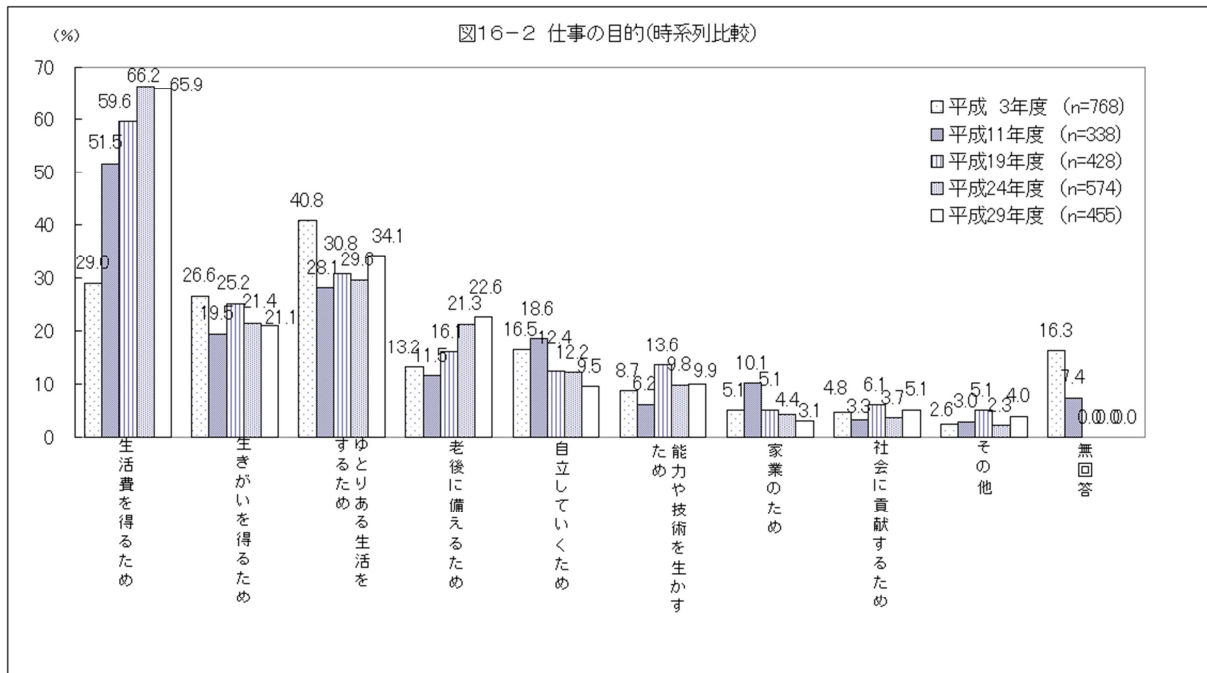
退職、転職の経験者(366人)にその理由をたずねたところ、「結婚」30.9%、「出産」30.1%が多く、続いて「労働条件がよくなかった」21.3%、「職場の雰囲気が悪かった」19.9%となっている。

## 問16 仕事の目的

問16 【現在働いている方、または働きたいと思っている方のみお答えください。】  
あなたが働いている(働きたい)主な理由は何ですか。



(図16-1) 現在働いている人、または働きたいと思っている人にその理由をたずねたところ、「生活費を得るため」が65.9%と最も多く、「ゆとりある生活をするため」が34.1%、「老後に備えるため」が22.6%、「生きがいを得るため」が21.1%と続く。



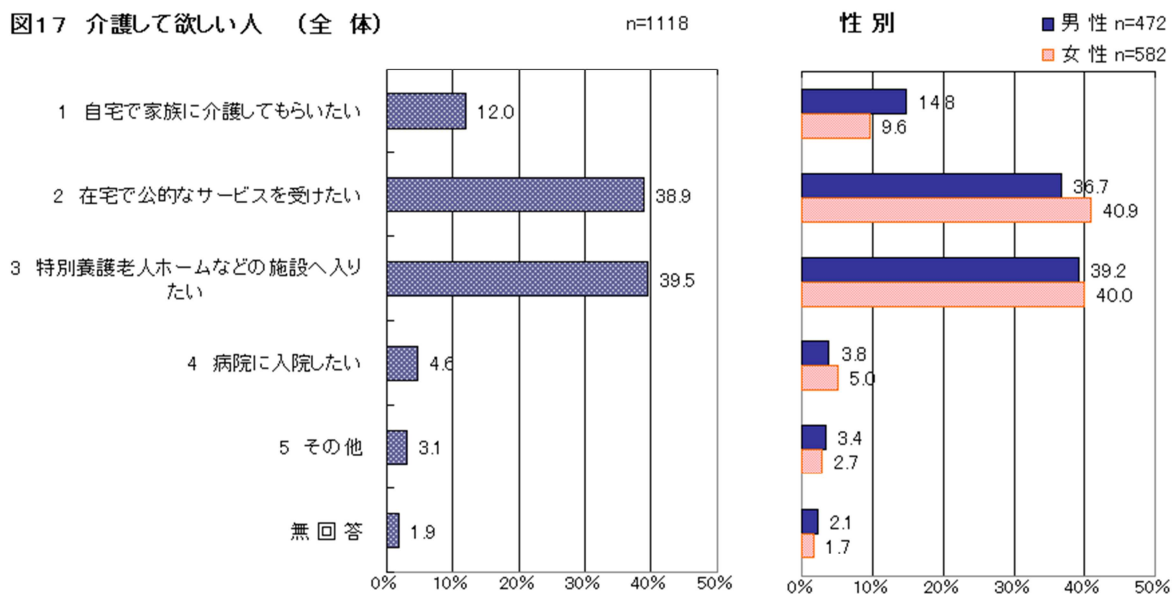
(図16-2)

仕事の目的を時系列比較すると、最も多いのは「生活費を得るため」の65.9%、続いて「ゆとりある生活をするため」34.1%、調査のたびに増加しているのが「老後に備えるため」で、逆に徐々に減少傾向にあるのは「自立していくため」となっている。

## 6 介護について

### 問17 介護して欲しい人

問17 仮にあなたご自身に介護が必要になった時、どのような形で介護や世話を受けたいですか。(○は1つだけ)



(図17)

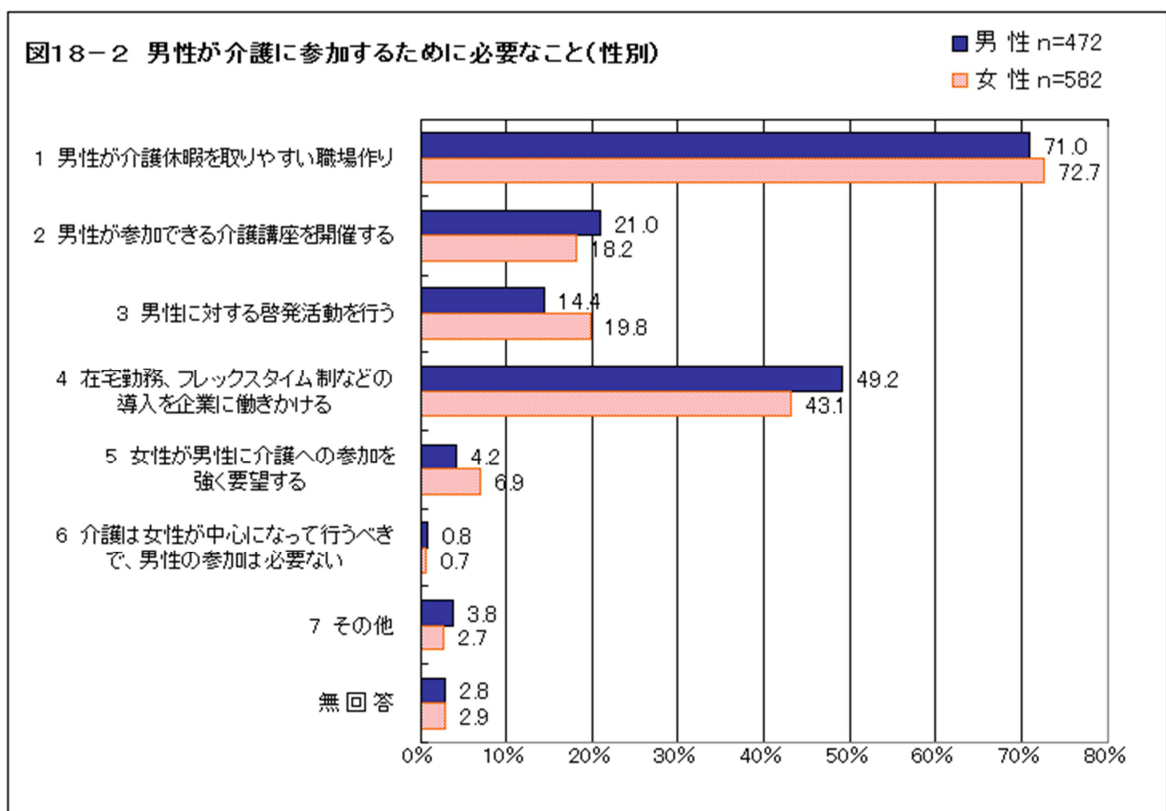
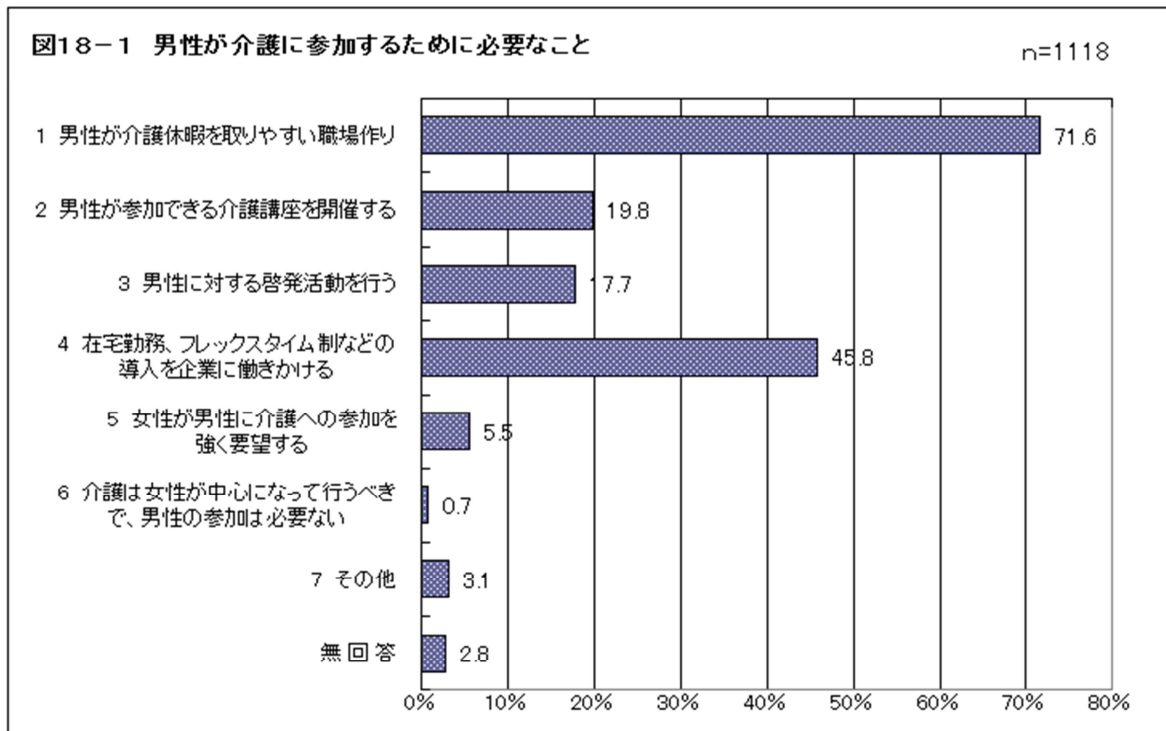
どのような形で介護して欲しいかをたずねたところ、全体では、「特別養護老人ホームなどの施設に入りたい」が39.5%で最も高く、次いで、「在宅で公的なサービスを受けたい」(38.9%)、「自宅で家族に介護してもらいたい」(12.0%)と続く。

性別でみると、女性では、わずかではあるが「在宅で公的なサービスを受けたい」(40.9%)が一番多く、次いで「特別養護老人ホームなどの施設に入りたい」(40.0%)という順になっている。また、「自宅で家族に介護してもらいたい」では、男性の方が女性より5.2ポイント高くなっている。



## 問 18 男性が介護に参加するために必要なこと

問 18 家庭での介護は、主に女性が担っている場合が多いのが現状ですが、男性が介護に参加するためには、どのようなことが必要だと思いますか。



(図18-1、18-2)

男性が介護に参加するために必要と思われることをたずねると、全体では、「男性が介護休暇を取りやすい職場作り」(71.6%)、「在宅勤務、フレックスタイム制などの導入を企業に働きかける」

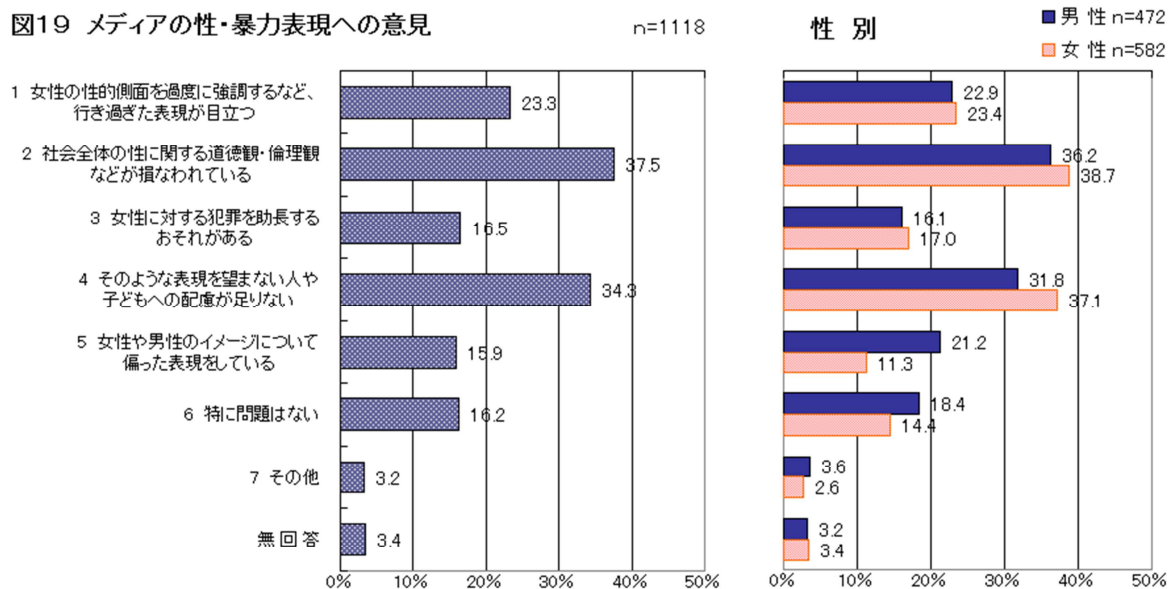
(45.8%)、「男性が参加できる介護講座を開催する」(19.8%)、「男性に対する啓発活動を行う」(17.7%)と続く。

性別でも、順位はほとんど変わらないが、「在宅勤務、フレックスタイム制などの導入を企業に働きかける」では、男性が6.1ポイント高く、「男性に対する啓発活動を行う」では、女性が5.4ポイント高いなど少しずつ差がある。

## 7 人権について

### 問19 メディアの性・暴力表現への意見

問19 新聞・雑誌・テレビなどのメディアにおける性・暴力表現について、あなたはどうかお考えですか。(○は2つまで)



(図19)

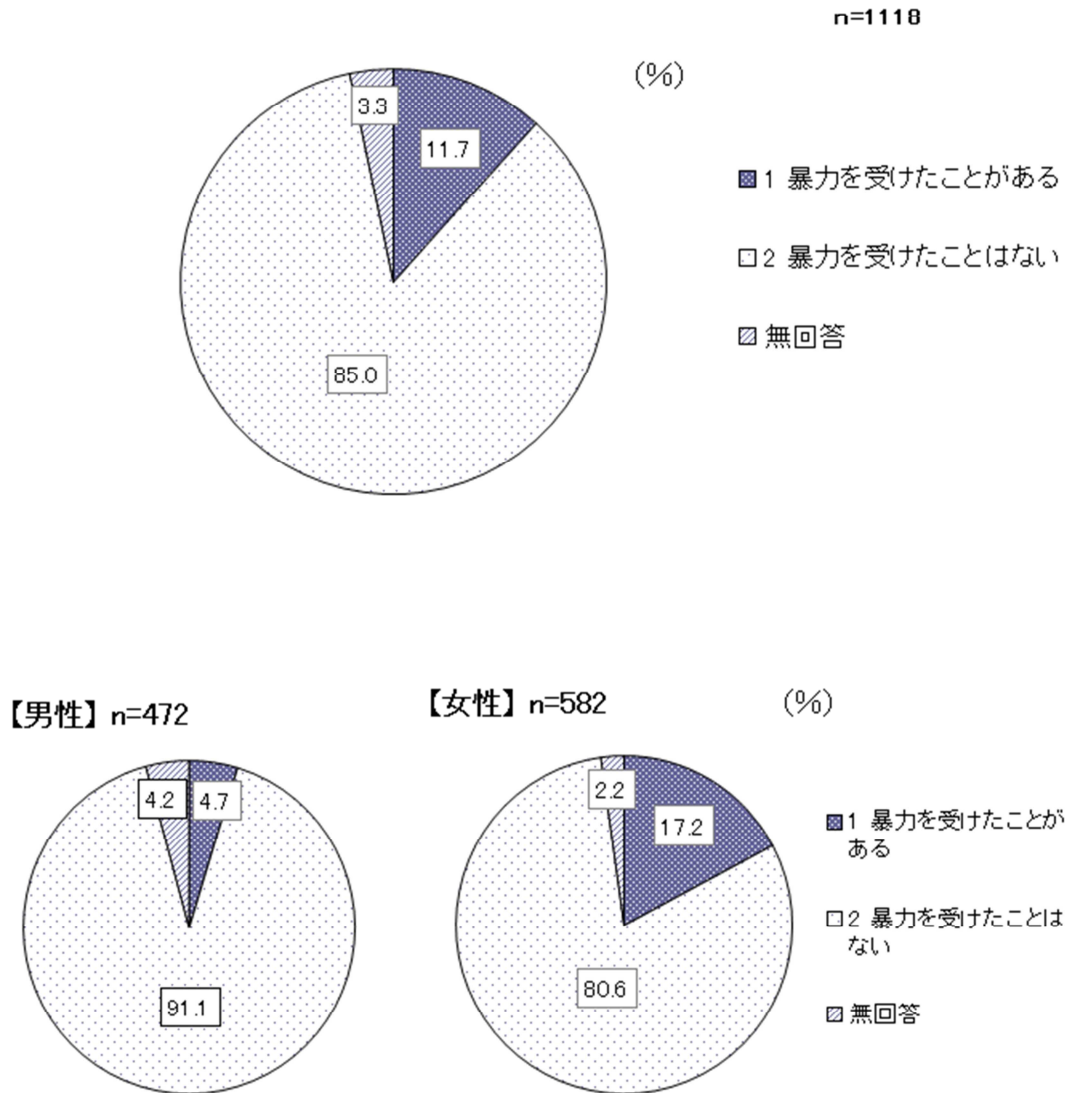
新聞・雑誌・テレビなどのメディアにおける性・暴力表現についてたずねたところ、全体では、「社会全体の性に関する道徳観・倫理観などが損なわれている」が37.5%と一番高く、次いで、「そのような表現を望まない人や子どもへの配慮が足りない」の34.3%で、以下「女性の性的側面を過度に強調するなど、行き過ぎた表現が目立つ」(23.3%)、「女性に対する犯罪を助長するおそれがある」(16.5%)と続くが、「特に問題はない」とする考えも16.2%ある。

性別で比較すると、上位4項目についてすべて女性の方が割合が高く、「女性や男性のイメージについて偏った表現をしている」と「特に問題はない」の項目では、男性の方が高い。

## 問20 配偶者などから暴力(DV)を受けた経験

問20 あなたは、いままでに配偶者などから暴力を受けた経験がありますか。

図20 配偶者などから暴力(DV)を受けた経験



(図20)

配偶者などから暴力(DV)を受けた経験の有無についてたずねたところ、「暴力を受けたことがない」が85%で、「暴力を受けたことがある」は11.7%という結果になった。

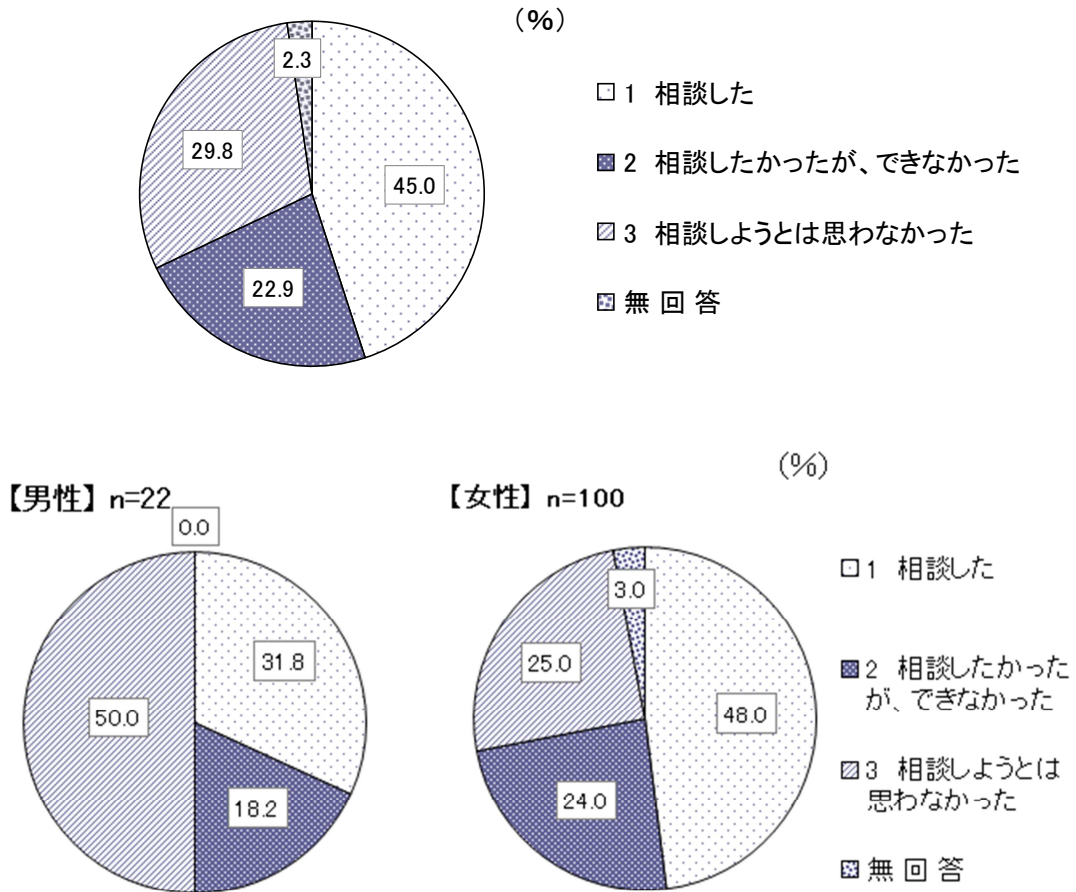
女性では、「暴力を受けたことがある」が17.2%に上る。男性も4.7%が暴力を受けた経験がある。

## 問 2 1 DVを受けた際の相談の有無

問 2 1 問 2 0 で「1」の暴力を受けたことがあると回答した方のみお答えください。  
暴力を受けたことについて、どなたかに相談しましたか。

図 2 1 DVを受けた際の相談の有無（全体）

n=131



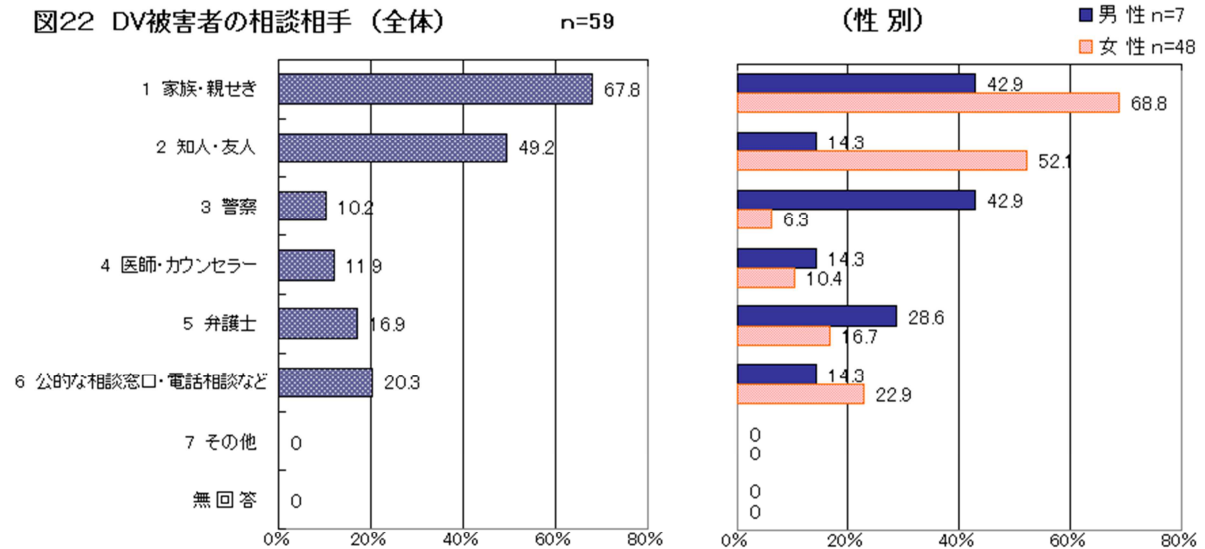
(図 2 1)

暴力を受けたことがある人に受けた際の相談の有無をたずねたところ、全体では、「相談した」が 45.0%、「相談しようとは思わなかった」が 29.8%、「相談したかったが、できなかった」という人が 22.9%いた。

性別で見ると、「相談した」のは、男性 31.8%、女性 48.0%で、半数以上の人相談していないことがわかった。また、男性の半数は、「相談しようとは思わなかった」と回答している。

## 問 2 2 DV被害者の相談相手

問 2 2 問 2 1 で、「1」と回答した方のみお答えください。  
 どなたに相談しましたか。



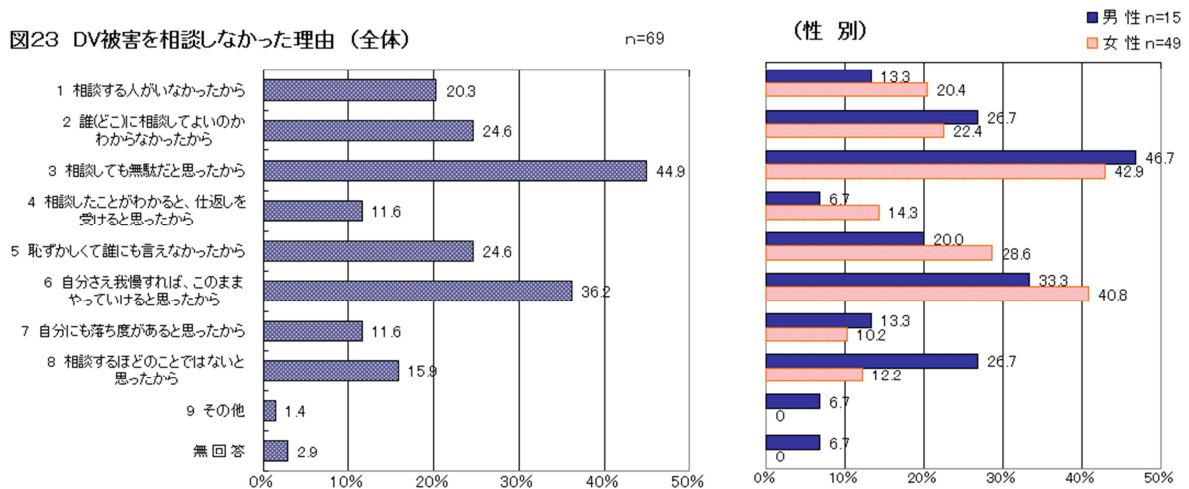
(図 2 2)

配偶者などからの暴力 (DV) を受けた際に相談した相手については、「家族・親せき」(67.8%) と「知人・友人」(49.2%) が多く、「公的な相談窓口・電話相談など」(20.3%)、「弁護士」(16.9%)、「医師・カウンセラー」(11.9%) と続く。

性別では、男性では、「家族・親せき」「警察」「弁護士」の割合が多くなってはいるが、回答数が非常に少ないため参考扱いとする。女性でみると、「家族・親せき」(68.8%)、「知人・友人」(52.1%)、「公的な相談窓口・電話相談など」(22.9%) の順となっている。

## 問 2 3 DV被害を相談しなかった理由

問 2 3 問 2 1 で、「2」または「3」と回答した方のみお答えください。  
 どなたにも相談しなかった理由は何ですか。(〇はあてはまるものすべて)



(図 2 3)

問 21 で、「相談したかったが、できなかった」または、「相談しようとは思わなかった」と回答した人にその理由をたずねたところ、半数近い 44.9% が、「相談しても無駄だと思ったから」と回答した。次に、「自分さえ我慢すれば、このままやっていけると思ったから」が 36.2%、3 番目に「誰(どこ)に相談してよいのかわからなかったから」と「恥ずかしくて誰にも言えなかったから」が同じ割合で 24.6%、5 位に「相談する人がいなかったから」の 20.3% と続いている。

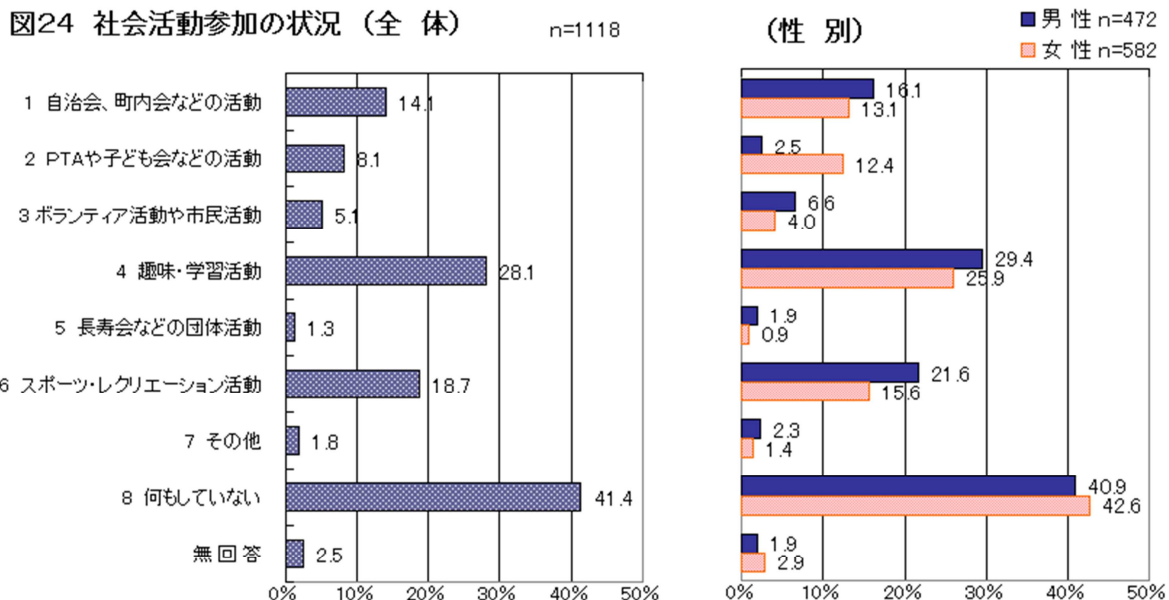
性別でみると、男女間で違いが見られ、男性では、1 位「相談しても無駄だと思ったから」(46.7%)、「自分さえ我慢すれば、このままやっていけると思ったから」(33.3%)、「誰(どこ)に相談してよいのかわからなかったから」と「相談するほどのことではないと思ったから」(26.7%) と続く。

女性では、「相談しても無駄だと思ったから」(42.9%)、「自分さえ我慢すれば、このままやっていけると思ったから」(40.8%)、「恥ずかしくて誰にも言えなかったから」(28.6%)、「誰(どこ)に相談してよいのかわからなかったから」(22.4%)、「相談する人がいなかったから」(20.4%)、さらに「相談したことがわかると、仕返しを受けると思ったから」(14.3%) と続く。

## 8 社会参加について

### 問24 社会活動への参加の状況

問24 あなたは現在、仕事以外に何か活動をしていますか。(〇はあてはまるものすべて)



(図24)

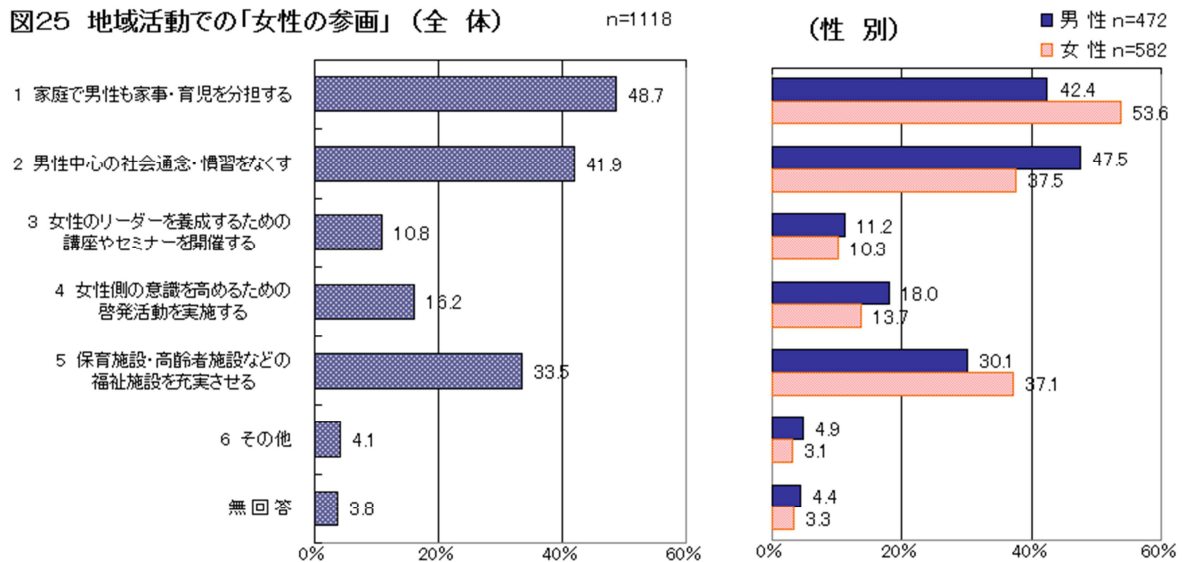
社会活動への参加状況についてたずねたところ、4割以上の方が「何もしていない」と回答している。次に、活動内容では、「趣味・学習活動」(28.1%)、「スポーツ・レクリエーション活動」(18.7%)、「自治会、町内会などの活動」(14.1%)と続く。

性別で見ると、男女ともに1位は、「何もしていない」(男性40.9%、女性42.6%)で、男性の2位は、「趣味・学習活動」(29.4%)、3位は「スポーツ・レクリエーション活動」(21.6%)、4位「自治会、町内会などの活動」(16.1%)と続く。女性は、2位「趣味・学習活動」(25.9%)、3位は「スポーツ・レクリエーション活動」(15.6%)、4位「自治会、町内会などの活動」(13.1%)だが、そのあと「PTAや子ども会などの活動」が続いている。



## 問 2 5 地域活動での「女性の参画」

問 2 5 自治会やPTAなどの地域活動において、女性リーダーになるなど計画づくりや方針を決める場に「参画」していくためには、どのようなことが必要ですか。(〇は2つまで)



(図 2 5)

女性が地域活動で「参画」していくために必要なことをたずねたところ、「家庭で男性も家事・育児を分担する」(48.7%)、2位は「男性中心の社会通念・慣習をなくす」(41.9%)、3位に「保育施設・高齢者施設などの福祉施設を充実させる」(33.5%)と続いている。

性別でみると、男性では、1位「男性中心の社会通念・慣習をなくす」(47.5%)、2位「家庭で男性も家事・育児を分担する」(42.4%)、3位「保育施設・高齢者施設などの福祉施設を充実させる」(30.1%)という結果になっている。

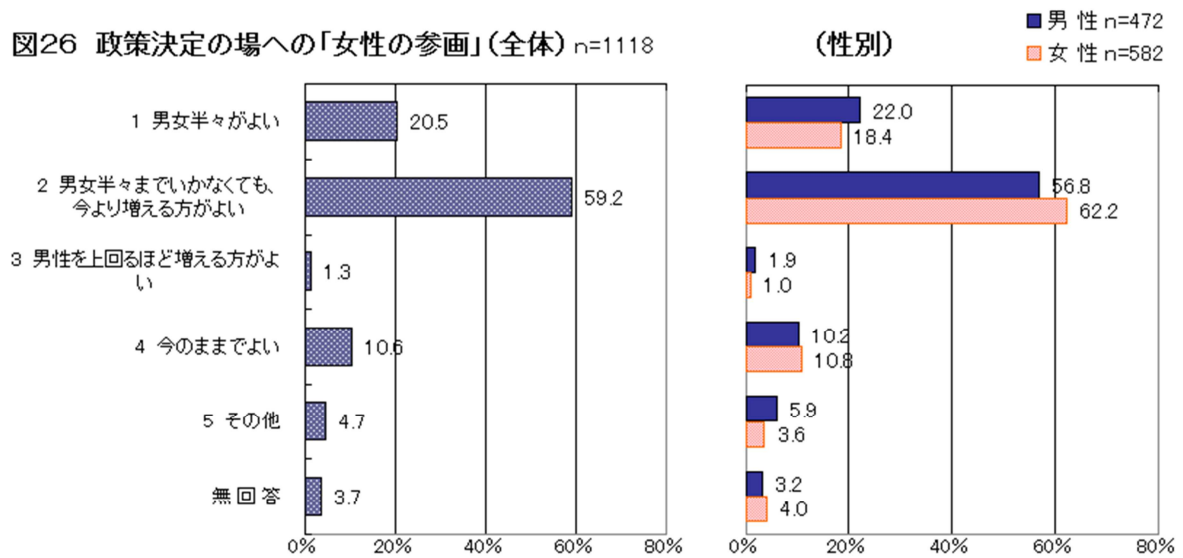
女性は男性と順番が異なり、1位に「家庭で男性も家事・育児を分担する」(53.6%)、2位「男性中心の社会通念・慣習をなくす」(37.5%)、3位「保育施設・高齢者施設などの福祉施設を充実させる」(37.1%)となっている。

## 問 2 6 政策決定の場への「女性の参画」

問 2 6 審議会の委員など、政策立案・方針決定の場への女性の参画について、あなたはどのように思いますか。(〇は1つ)

※熊谷市の審議会などの委員のうち、女性の占める割合：24.8% (平成29年4月1日現在)

図26 政策決定の場への「女性の参画」(全体) n=1118



(図 2 6)

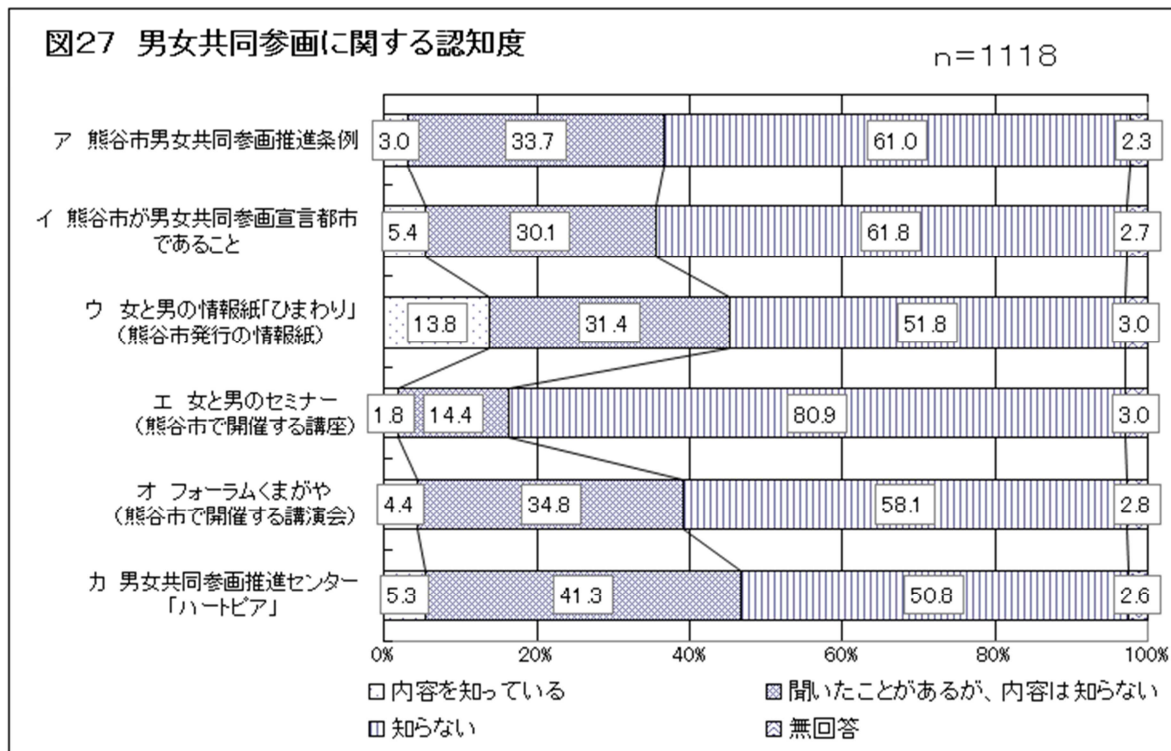
政策決定の場への「女性の参画」について、審議会などの委員の女性の登用率（現状24.8%）に関して、「男女半々まではいかななくても、今より増える方がよい」と思っている人が6割近く（59.2%）に上った。「男女半々がよい」が20.5%で、「今のままでよい」は10.5%だった。

性別でも、男女とも大差はない結果となっている。

## 9 男女共同参画の推進について

### 問27 男女共同参画に関する認知度

問27 次のことについて知っていますか。  
 (ア～カについて、各項目ごとに○を1つずつ)



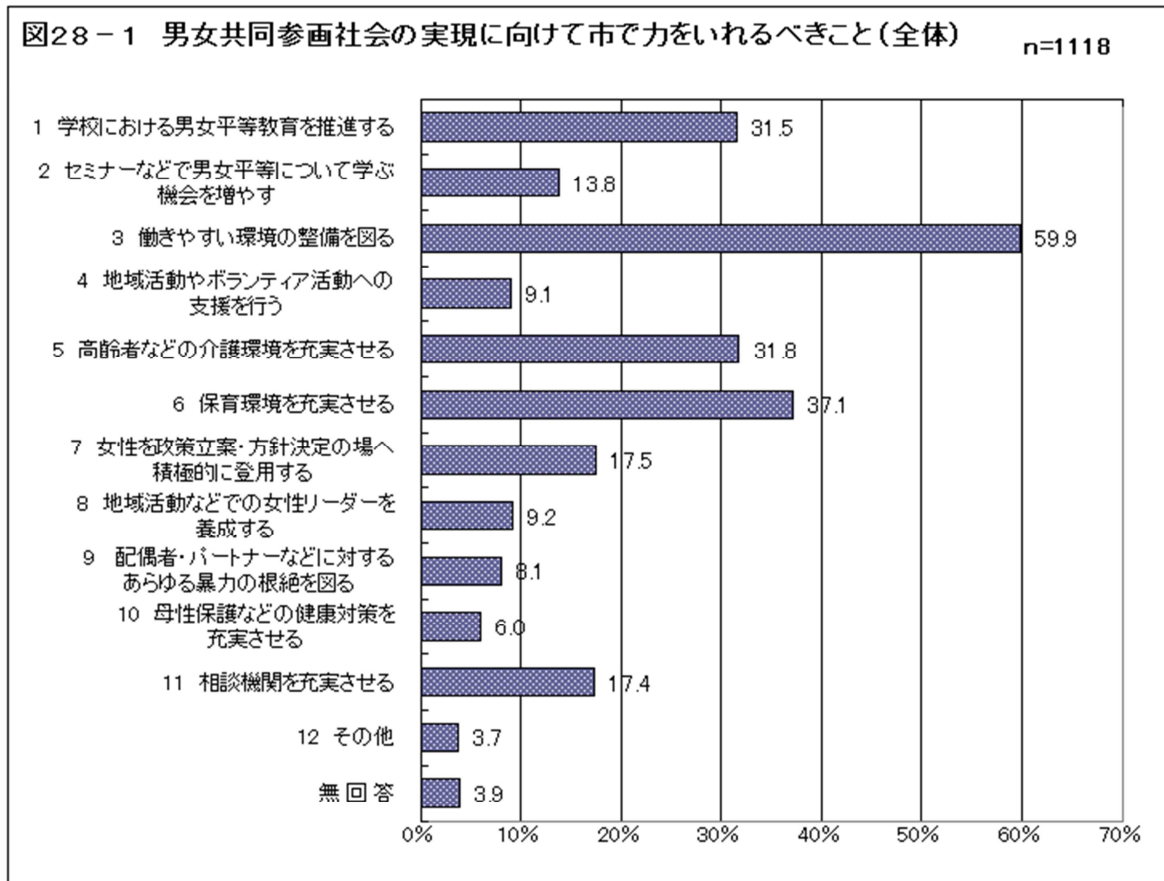
(図27)

男女共同参画に関する市の施策等についての認知度をみると、各項目とも『知らない』という割合が最も高い。

『聞いたことがあるが、内容は知らない』も含めても認知度は4割前後で、「女(ひと)と男(ひと)のセミナー」は2割未満という結果となった。

## 問 2 8 男女共同参画社会の実現に向けて市で力を入れるべきこと

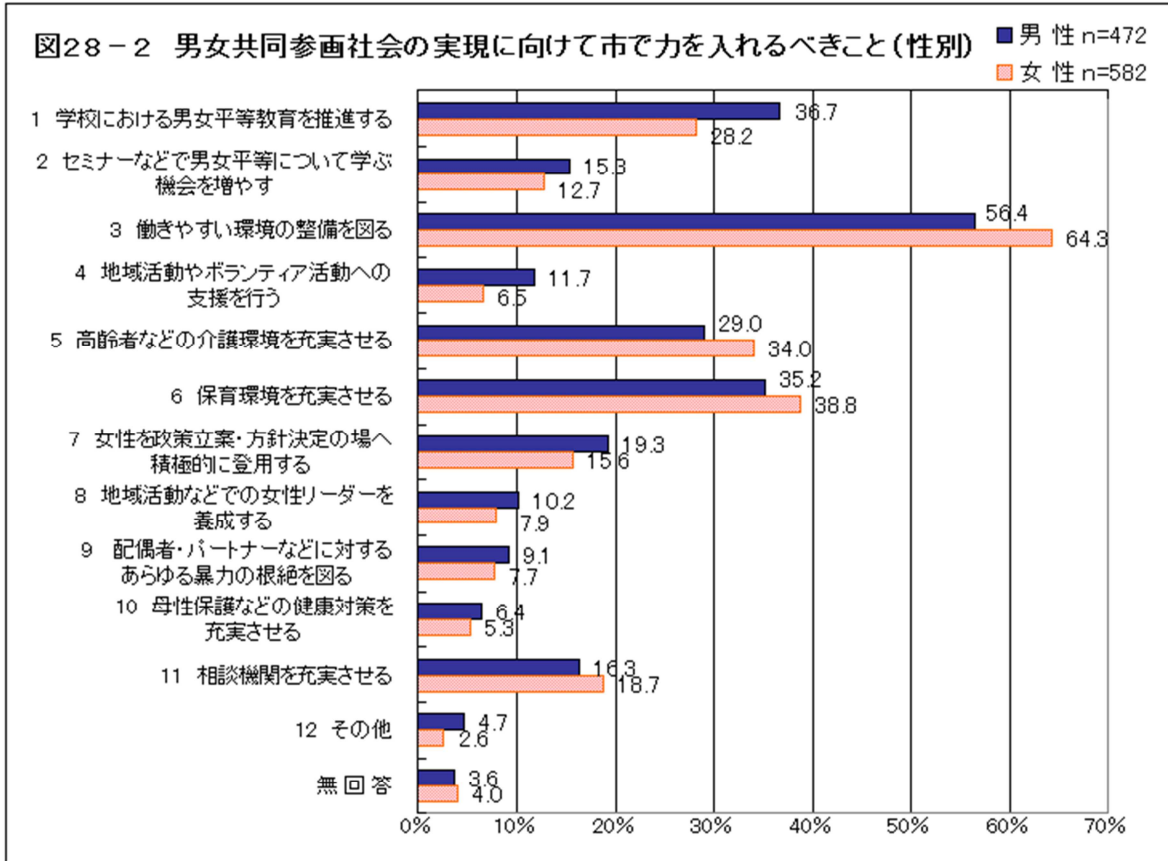
問 2 8 男女が対等なパートナーとして、あらゆる分野に共同して参画することができる「男女共同参画社会」の実現に向けて、市では、今後どのようなことに力を入れたらよいと思いますか。(〇は3つまで)



(図 2 8 - 1、2 8 - 2)

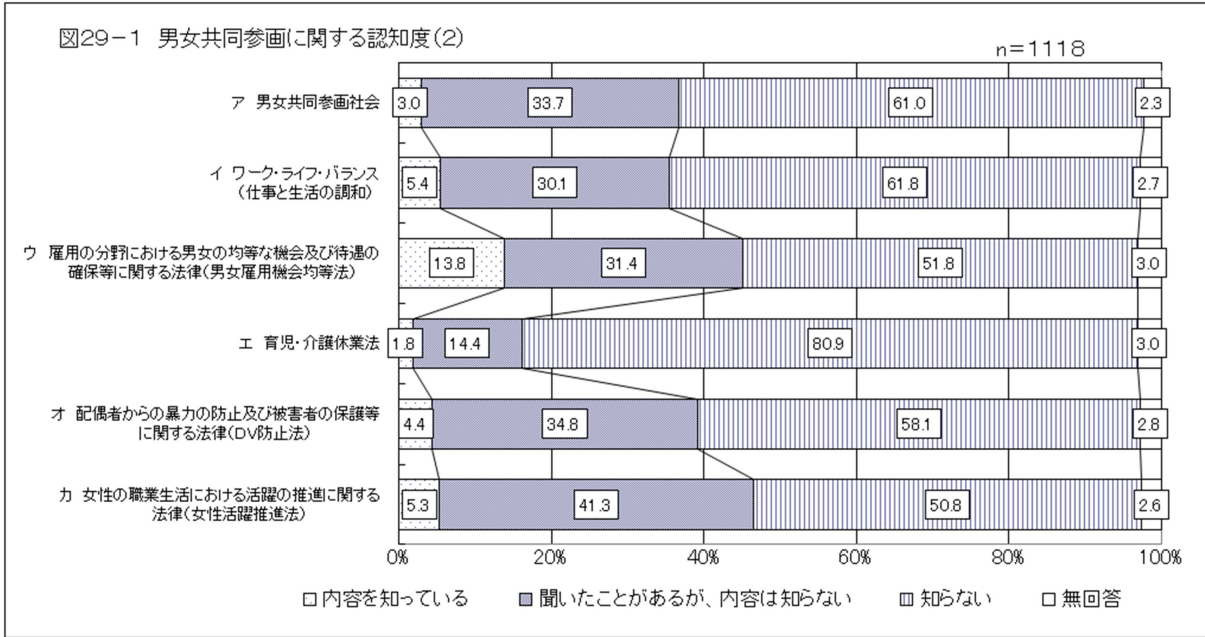
男女共同参画社会の実現に向けて市で力を入れるべきことについてたずねたところ、「働きやすい環境の整備を図る」が 59.9%と最も高く、次いで、「保育環境を充実させる」(37.1%)、「高齢者などの介護環境を充実させる」(31.8%)、「学校における男女平等教育を推進する」(31.5%)と続いている。

性別でみると、女性では全体の順位と同様であるが、男性では順位が異なり、1位「働きやすい環境の整備を図る」(56.4%)、2位「学校における男女平等教育を推進する」(36.7%)、3位「保育環境を充実させる」(35.2%)、4位「高齢者などの介護環境を充実させる」(29.0%)となっている。いずれにしても上位4項目は変わらない。



**問29 男女共同参画に関する認知度**

問29 次のことについて知っていますか。



男女共同参画に関する言葉や法律についての認知度をみると、設問のしかたが悪かったのか、各項目とも『知らない』との回答が5割から8割となった。

## 10 自由記述

[ 男女平等について ]	
女性 40代	男女平等とは会議等で男性と女性の比率などを同じにすることではなく、私の中では男性の良い所女性の良い所を互いに尊重することだと思っています。女性が家庭内で忙しいなら、男性が外に出て地域のボランティアをするので良いのではないかと思います。
女性 70歳以上	男女平等と言っても体の構造が異なるのですから、とっても難しいテーマです。出産は一時期のものです。生理は何十年も女性の（個人差はあるでしょうが）負担となります。肉体的にも精神的にもです。それを男性と同じように働け！と言われても辛い事があります。ですから男女平等とは言っても男と女が同じ土台にはないのです。現在男性と対等に頑張っている女性は何十倍も努力していると思います。ですから女性の諸々を受け入れる包容力を持つ男性を育てる事が大切だと思います。もちろん女性も甘えてはいけません。
女性 30代	男だとか女だとか言っている時点で、そもそも男女平等ではないと思います。男だから～女だから～、という意識そのものを変えていかなければ、男女平等にはならないと思います。でも、男も女も同じ人間だけど、体の機能や考え方など、そもそも違って当たり前だと思うので、全部が全部、無理に男女平等にしなくても良いのかな・・・と。
女性 60代	男女平等といいつついまだに男社会だと思う。家事・育児は女性だし、その上もっと女性に働いてもらおうとする社会。女性に対して比重が重い気がする。それでは少子化も進んでしまうと思います。
女性 50代	私は昭和生まれのものなのでやまとなでしこではないけれど、あまり女性がしゃべるよりも男性の政治家の方をどちらかという応援します。男女平等とは言いますが女の方がたとえば川の上に作る橋を作ることができますか。子供を女性が妊娠してつくりませんが男性がいないとつくれません。山で遭難した人を助けるにも男性でしかできません。女性が働くのは勿論賛成ですが、政治家はやっぱり男性の方がよいと思います。
女性 60代	市民の一部の方には理解・実践されているとは思いますが、地域性もあり年寄りが多い場所・労働環境にもより、なかなかむずかしいと思います。少しずつの意識の積み重ねが大切・重要であると考えます。
女性 50代	男女共同参画が実現していけば、理想的な社会であると思う。ただ男性間でも女性同士でも皆同じではなく、それぞれの個性があるので、それらを踏まえた上で、適材適所個性がそれぞれ生かせる社会、自分の強みを生かし、お互い様の精神で皆が暮らして行ければよいと思う。
女性 50代	男女が平等であるには平等に負担する努力すること、女である弱さより女をふりかざすことがあるのでは。女性を登用するために本来実力もある男性が働けない。ただ女と男を半数に使えばいいのではなくて。
女性 30代	メディア等でこれだけ「多様性（ダイバーシティ）」と謳っていても全く浸透していかないのは結局男女共に、「男尊女卑」の概念が色濃く根付いているからだと感じる。周囲の高齢者の話を聞いていると熊谷はまだまだ田舎というか閉鎖的な考え方をしている人が多いと感じるのでこういったアンケートなり、実際に困っている方の声を聞く機会、気軽に受けることのできるカウンセラー、セミナー等を増やし、まずは政策に関わる人々を筆頭とした本気の意識改革を行う必要性を感じる。「観光」で人寄せすることも大切だと思うが、「住民が安心して暮らせる街」という政策面で有名な市にして頂けることを所望します。
女性 30代	施策も必要だが、施策が進まないの一番に男女とも意識が男性優位の人が多いからだと思う。女性が補佐的役割を黙ってやるのが美德とされているところがある
女性 60代	女性の細やかな気持ちなど受け入れられる仕事などは積極的に活躍できればよいと思います。男性が必要な仕事もあるし無理に女性が入り込むことなくバランスよく男女共同参画が少しずつ推進していければよいと思います。
男性 年齢不明	男女平等の意味をしっかりと伝えていくべきだと思います。近年男女平等と女性優遇をはき違えているケースも多く耳にするようになってきていて、それは本当の意味での男女平等を目指すうえでの足かせになりかねないとも感じます。正しく理解することこそ重要だと思います。

男性 40代	女性には出産という特別な事情で仕事ができない期間が必ずある以上、男性とすべてが同じと言うわけではない。どの職場でも1年や2年の間仕事に穴をあけるといことができない以上、穴をあけられないポストには、女性を置くことが難しいと感じます。この部分の問題を何とか解決できなければ、男女のすべての平等は困難だと感じます。
男性 30代	質問が差別ありきの質問が多いと感じた。女性と平等ではおそらく平等にはならないので、一度女尊のような世の中にしていくくらいの改革が必要ではないかを感じる。今でも、子育て出産は女性のほうが大変なことは変わっていないので、そのようなところに、男性が、手をさしのべることが普通になるような社会が必要。
男性 50代	男女どちらにも片寄らない施策をお願いしたい。母子家庭と父子家庭ではどちらかと言えば母子の方が施策などが恵まれ、平等ではないように感じる。また、女性の観点から女性を部課長にするなど今より女性を増やしたほうが良いのではないのでしょうか。
女性 40代	男女共同参画社会、男女平等社会を作ることはよいことだと思う反面、今のままでもよいと思うこともある。
女性 20代	女性がリーダーになることについて、リーダーはなるべき人が行うべきで、女性というくりにべきではない。ふさわしい人ができるように男性の家事育児への参画や福祉施設の充実などが必要と思う。
女性 20代	何でも男女を半々の割合にする必要は感じない。能力のある人が適切に働けたり、役職に就く方が大切であると思う。
女性 年齢不明	最近では女性の方が優遇されすぎて、男の人がかわいそう。
女性 年齢不明	女性が社会進出しやすくする施策を願う。
男性 20代	女性だから採用したり、女性だから役職に登用するのは絶対におかしい！（もちろん逆も）個々の能力で評価し、適材適所で仕事をするべき。 また、身体構造が異なる以上は、完全なる平等はありえないし、あつてはならない。その辺をよく理解させる教育が必要だと思う。私の周りでは、子供ができれば専業主婦になりたいという女性も多くなる。しかし、夫の収入が少なく、やむを得ず働くしかないというのが現実。女性が働くのも働かないのも自由だし、選択できる社会が、真の平等であると思う。（男性も） 何でもかんでも海外の流れに乗る必要はなく、何が国民にとって幸せなのかを考えられる人間に政治を取り仕切してほしい。
男性 40代	男女共同参画を謳うのであれば、具体的に指針を示すことが必要。 議員数を男女平等にする、それくらいのことを政治の場から発信していかないと、一般市民の感覚、認識としては、実感がわからないのではないかと。
男性 30代	男女不平等の考えを持った高齢者が幹部や役員についているから、今の若い人は男女の差なんて考えていない。
男性 30代	人権問題は別として、男女間には確実に差ができる。 無理に「平等」にするのではなく、男性には男性の、女性には女性に対する取り組みが必要だと思う。 女性を差別するわけではないが、シングルマザー等には特に手厚く保護していただきたい。
男性 30代	10年以上前から、男女平等の「平等」とは何を基準とした平等なのかと思っていた。 当時の女性代議士たちは、「男性」と同じになろうと平等を訴えているように聞こえ、本来なら、「女性に適した権利・男性に適した権利」を与えるのが平等ではないでしょうか？男女共にリーダーになり、同じ仕事ができる社会になることを目指し、そのうえで、男女それぞれが持つ性格や体質を理解したうえで、仕事や立場から活躍できることが本来の平等だと思う。そのためには、男女がお互い、「異性の考え方や性質」をもっと理解すべき。「男女は思考が違う」というのを知らない人が多すぎる。
男性 40代	私の家庭も私がサラリーマンとして働き、妻は家事と育児をしながらパートで働いています。 私は家事も好きですが、平日はできません。 社会の仕組みがそうなのでしょう。 子どもたちの教育を変えて、数十年後には本当に平等な社会ができることを望みます。
男性 60代	権利と責任のバランス、調和のとれた人間形成が一番大切なのは。 対処療法的な施策では、根本的解決に至るのは難しいと思う。また、あまりに画一的な考え方からの出発は危険だ。男性より腕力の強い女性も結構いる。男や女という前に、どちらも人権を有する人間であることが前提と思う。そこからスタートしないと、かつてのフェミニズムのようになってしまっているのではないかと心配になる。

男性 30代	過度に女性だけを優遇する社会にはなってほしくない。あくまでも男女平等で。
女性 年齢不明	男女平等と言っても職場では、まだまだ男尊女卑的な考え方がある。差別を感じる。男性管理職から高齢であることを馬鹿にするような発言があり、やる気を損なう。
男性 30代	「性差」を知ることで見えることがあるはず。一律平等は現実的ではない。
男性 40代	男女平等とか公平とか言われているが、機会を平等に与えればよいことである。男女雇用機会均等法もその名の通り「機会を均等にする」という意味であるはずだが、一部の社会では、結果を半々にしたがる傾向にある。まったくもっておかしな話である。機会を得ても女性が選ばれなかった場合があったとしても、それは個人として能力が足りなかった結果だり、女性差別とは言えない。こうした考えで今後も社会を作れば良い。その結果、男性ばかりが登用、活躍することになっても女性が男性より平均的に能力が低かったということだけのことであり、その逆でも然りである。集団の中で、能力が高い者が重宝されるのは当たり前であり、真理である。 市が男女共同参画の推進を考えているなら、真理を真理と受け止め、無駄な労力や施策はやめてもらいたい。何度も言うが、平等であるべきは、機会であり結果ではない。男女問わず適材適所で有能な者が登用されれば良い。
男性 50代	男性にしかできないこと、女性にしかできないことなどいろいろあると思う。それを平等にとってもできないこともあると思うので、平等平等という言葉もどうかと思う。
男性 30代	男女不平等、男女共同参画と言う場合、女性の優遇や女性の地位向上が叫ばれるが、分担によっては、男性が虐げられている面もあり、ともに拾い上げてほしい。また、必ずしも完全な平等ではなく、男女の特徴に応じた役割分担があってもいいし、個人や社会の情勢にまかせてもいいのでは。
[ 家庭・子育て・教育について ]	
女性 70歳以上	児童虐待の事件が新聞に掲載され、あまりにも惨く涙しながら読んだ。小さい子は親を頼るしかなく訴える事もできない。性教育の問題があったが親になったらどうするのかの事から教えないと・・・虐待などない子供を育てやすい街にする様に、発信して欲しい。それから男女共同参画社会の問題に取り組んで欲しい。声をあげられない児童達の事から考えて欲しい。場違いの事とは思いましたが、この様な事をどこに訴えたらよいか解らなくて、とりあえず誰かに考えて欲しいと書きました。
男性 60代	片親でも安心して暮らせる市に。子どもを安心して産み育てられる市に。
男性 40代	大人、子どもに関わらず教育が一番大切と思います。各個人の意識を高められればシステム作りなどしなくても自然に適正な形になっていくかと思えます。理想論かもしれませんが。
女性 20代	DVやデートDVを受けている人と関わることが多いですが、加害者は勿論のこと被害者もその出来事が暴力であることに気が付かないと多くあります。 義務教育の中で、何が暴力になってしまうのか、何が相手の権利を侵害する行動なのかを学ぶことができれば、多くの人の認識も変わるのではないかと思います。 また、性犯罪についても、被害者が責められる（「夜遅くに外にいたのが悪い」とか「短いスカートをはいていたのが悪い」というように）ことが多々あります。身近にも、そのような二次被害を受けた人がいました。性犯罪は、当然のことですが、加害する者が悪いのです。これ以上、被害者が傷つくことのないよう、教育や啓発活動を行っていくべきではないかなと思います。
女性 年齢不明	男女の身体的な特性はあるため、当然、家庭、社会、職場での役割が違ってよいと思う。しかし、不平等な待遇や機会がないように整備していただきたいと願います。子どもたちの教育の場においても、他者を尊重するという点における教育に力を入れてほしい。それが男女平等にもつながっていくと思います。
女性 60代	近年、共働き家庭において若い人たちは、男女助け合って家事、子育てなど生活していると思います。また、地域活動においても女性の力が大きいと思います。しかし、社会、特に、政治においてはまだまだ女性の進出は難しいと思います。底辺が変わりつつあっても、上が変わらなければと思います。
女性 50代	小学校のうちから、もう少し、モラル、性、家事全般、介護の現状(体験)などの教育を取り入れてほしいと思う。 自分自身、母子家庭でした。公的なことも援助もたくさん受けて大変ありがたかったと思っている。その反面、高校以上の教育を受けるためには、どこにも支援していただけなかったため、パートも掛け持ちし、やっとの思いで大学と専門学校を卒業させたが、それだけでは足りず、国の教育資金も借りた。私が男性だったら、もう少し優位にことが進んだと思う。



[ 就労につて ]	
女性 40代	育児・出産を終えてからの復帰や結婚をしない独身女性など、もっと幅広い分野の職種と高給料額いただける会社を増やしてほしい。いつも求人が片寄っている。だいたい配送、工場、介護などが多く募集している。
女性 30代	短時間の保育を必要としています。教育業のため、夕方17時～19時位まで預かってくれるところを探していますが、なかなかそういった場所がなく、仕事復帰できずにおります。優秀な教師が出産のため退職していく姿をたくさん見してきました。日本の教育を良くしていこうとしているのに我が子を預かってもらえる場所がなく現場を去っていくのは本当にもったいないことであり、マイナスでしかないと思います。フルタイムの人向けの保育所しかないのはおかしいと思います。いろんな職種、働き方があること、多くの才能が無駄になっていることをもっと知ってほしいです。
女性 30代	許されるならば常勤で働きたいが、そうするとどうしても残業が必要となる。子供と接する時間が少なくなり、子どもへの教育ができなくなる。また、女性だと出産等でどうしても仕事ができない。生物学的な問題があるので、重要なポストにつけない。「男性と同じ仕事をするのが、平等である。」という概念に苦しめられている様に思う。
女性 30代	男女雇用機会均等法が制定されてから約20年経過したが、まだまだ定着してないのが現実ではないか。女性はどうしても妊娠・出産育児がつきまとう。子どもを犠牲にしてまで働くことを選ぶか。自分自身は正社員として働いているが、毎日やめたい気持ちで仕事をしている。今本当に自分の時間はない。そこまでは働くことを選ぶのか、毎日自問自答している。
女性 30代	女性の生理が重い場合に、相談できる機会が少ないと思います。会社で生理休暇を取れるのが普通になったらとてもいいと思います。会社、男性にはつらさはなかなか伝わりにくいようで嫌な思いをしたことがあります。
女性 60代	女性はまず出産することにより、その前後仕事に影響するのは確かです。そのため、大事な仕事はまかせられないような風習があります。また、育児もついてきます。そのところを改善することにより、社会復帰できると思うので、女性の一番の出産に関して医療費無料、育児休暇、子育て支援などが充実していたならば女性も一人でも多く子どもを生みたい。また、社会復帰しやすい環境に安心して共同参画社会につながっていくと思います。
女性 40代	パートに産休育休をとれるようにしてほしいです。
男性 年齢不明	市の職員数での公表はありますが、役職者の数も出してまずは役所から変わるべきでは？役所自体が進んでない気がします。進んでいるのであれば、全面的に公表して、民間企業に推し進めるほうがよいのでは？
男性 30代	育児介護休業を取得しやすくすることも大事だが、それによる保育・介護福祉の現場負担も大きい。それらの現場への人材増と待遇改善、有給休暇の取りやすさや福利厚生改善、それらを行政からの通達で「行わせる」のではなく可能にするためのサポートを積極的に行って欲しい。各家庭の負担が減っても保育介護の現場で働く人間の負担だけが増してしまえば、「平等」とは言えないと思う。資格のハードルも上げすぎだと思う。介護福祉の研修などにかかる費用もあがった。
男性 30代	女性が社会に出た方がよいという言葉ばかりで、中身がない状態。子どもがいれば仕事に出るのはむずかしい。保育所、育休、その他の仕事をしやすい環境の整備をもっと進めて欲しい。今は夫の収入だけで暮らすのが大変な家庭ばかりなのだから。
男性 20代	女性が働きやすいように職場環境を充実させてほしい。保育園の充実と保育士への対応を向上してほしい。
女性 30代	日本は人口が少ない中でここまで国として稼いできたのは、労働時間が他国より長いからで、これからはもっと外から人を入れるしかない。(治安が悪くなるくらいに) 介護、家事を外国人に任せ、労働時間を週3～4日の6～4時間にし、男女ともに育児に参加して人口を増やすしかない。基盤が違うから同じ様にはいかないが北欧の国が理想。自分は体力がないため仕事をあきらめた。 労働時間が短縮されると男女平等はむずかしいと思う。
女性 20代	薬剤師など女性のほうが、むしろ優遇されているところもある。そういうところとの差が大きいと思う。差が大きいので答えにくかった。
女性 30代	学校など休みが増えると、どうしても母親が仕事を休まなければならない。そう思うと、満足のいく仕事、やりたい仕事に就けない。もう少し考えてほしい。子ども増やせと言われてもこのままでは無理。

女性 年齢不明	女性が安心して働くことができ、子供が健やかに成長できるよう学童教室を早急に増やしてもらいたい。学校によって差があり、母親が安心して働き、税金を納め、将来子に係る教育費等を蓄えなければならない。
男性 20代	企業への働きかけは、形式だけの場合が多く、実際に制度を使うと解雇になる場合があるので、制度が使われているか定期的に確認する必要がある。
男性 30代	男女共同参画の推進へとつなげるためには、一人あたりの労働時間を減らすところから始めるのが良いと思う。それにより、時間にゆとりができて一人一人がより自立しやすくなると考えられる。
男性 年齢不明	育児や介護等の事情で、働きたいスタイルで働けないという人たちを減らすための施策を考えていただければと思います。 経済的に余裕のある家庭などでは、「女性は結婚を機に仕事を辞める」という考え方の人は、男女関係なく、少なからずいるはずで。それは否定するべきではないと思います。
女性 30代	産休・育休を取得し、子供が10か月で復帰しました。制度としては、育休も短時間勤務も整っており、現在、前後1時間ずつの短時間勤務を申請しています。しかし、現実には、担当業務等の配慮もそこまでなく、朝30分の利用がやっとです。また、利用も30分毎なので、1分でも遅れたらプラス30分しなくてはなりません。減給され、働くことの理不尽さを感じています。育休を長く取得し、子供が我が子より1歳以上大きい子を持つ肩の方が、配慮されているように感じます。後から取得した者勝ちなののでしょうか？ これが公務員として働く立場の現状です。ともすると、民間にお勤めの方は、どれ程過酷な状況なのだろうかと考えてしまいます。 私の場合、年度途中で復帰したため、無認可の企業内保育所を利用しています。全く市の補助は受けられていません。幼稚園の助成制度のようなシステムを望みます。
女性 40代	産休育休は1年もなく、戻っても同じ事務ではなく現場にまわされた。働きづらくて、正社員からパートになったが正社員に戻りたい。
女性 60代	定年退職するまで仕事してきた私が感じたことは、女性の能力がある人が能力を発揮できていないと思いました。体力的に男女差がありますが、有能な女性なら活躍させてほしい。嫌がらせなどしないで。(私は有能ではないですが)男性がほとんどの職場で働いていました。その仕事が好きだから続けられましたが、やきもちがあったようです。私は試験に受かったのですが、その人は落ちてパートです。女性が足をひっぱられないような職場にしてもらいたいです。
男性 40代	妻は医者をしています。県外から熊谷に来て、子供を出産後仕事を再開しようとしたときに、市役所では、「いつから保育園には入れるかはわかりません」と言われ、働こうと思った先では、いつから働けるかわからないと、、、と言われ、結局、県外の子供を預けられる病院に子連れで新幹線通勤し、遠かったため非常勤でした。下の子が生まれた後、もう一度市に保育園の状況を聞いたら、「常勤の人と、シングルマザーが優先になるので、順位が低いからすぐに入れないかも」と言われ、結局、市の方から「夫が働いている人は、妻は無理に働かなくていいのではないか」といわれている気分になりました。熊谷は病児保育もないし、頼れる身内もないので、ここにいる間は、自分のキャリア(仕事)より育児を優先するしかないかと、今は半分あきらめているようです。
女性 40代	出産・育児のため仕事を辞めなければならない状況だったことがあるので、そういった会社が少しでもなくなればよいと思います。
<b>[ 社会参画について ]</b>	
女性 40代	私は他の市から引っ越してきましたが、その市では公民館などを使用し、運営している、地域活動が盛んで土日を使用しての子どもが参加できる催し、秋祭りなどがありました。お父さんと参加する子どもも多く見られました。公民館を使い何か親子の触れ合いを増す行事はないでしょうか。そうすると母親も自分の時間ができて、父親も内容によっては参加することができるのではないかと思います。
女性 年齢不明	今、主婦をしています。最近3年間だけパートタイムで働きました。それまではもう実社会では役立たないと思っていましたが、楽しい時間を過ごせ自信ができました。資格やセミナーというよりも賃金を得て安全に働くチャンスをもっと気楽に提示してもらえるようになったら、男女の社会参加のあり方が変わるような気がする。
女性 60代	子ども達が独立して老夫婦だけの生活なので、自治会の行事に参加する程度です。正直なところ、共同参画についてあまり意識したことがありませんでした。今後、協力できることがあれば社会貢献はしたいと思います。

[ 男女共同参画に関する市の施策について ]	
女性 40代	どのような事を具体的にやり、どのような成果があるかが全く見えない。内輪だけの企画や仕事じゃないのかと疑ってしまうくらい。セミナーをやってどのように変わったかそれもわからないのにわざわざ時間をさいて参加したいとは思わない。
男性 年齢不明	市の実施している施策などのPRが少ないと感じる。
男性 40代	自分だけかもしれないが、名称は知っていても内容を知らない。もっと内容を広める活動があるといいと思います。
女性 30代	今の若い世代は、男女平等、お家制度だっけとつくに終わっている世の中、「嫁が介護」とか、「長男の嫁」だとかはもう古い！というのを親世代がわかっていない。セミナーや市報の少しのスペースに体験やコラムを掲載し、親世代と子世代の常識が変わってきていることなどをお互いに知るきっかけを作って欲しい。
女性 年齢不明	知らないことばかりなので、少しでも内容を知ってもらうために男女共同参画社会とは何か？とか広告を作り見てもらえるようになるとうわかってもらえそうな気がする。 今回質問されている意味すら分からない。興味ない。
男性 20代	独身が多いと男女の特徴、能力の違いが判らない場合が多いと思う。結婚して子供をたくさん産む世帯を増やすことで、男女の協力関係を理解でき、男女共同参画が進むと思う。そこで、婚活支援事業を積極的に行っていただきたい。そもそも、男女の出会いの場が少ないため、出会いの場の提供を行っていただきたい。 鴻巣市は、婚活イベントとマッチングスラムというものをやっているの、熊谷市もぜひやってほしい。
男性 40代	市の男女共同参画の推進について知らない人が多いので、市報などで、アピールするとよいと思う。
男性 年齢不明	個人の生活・意志等と社会環境・通念を明確にし、行政が行うべき事項、啓蒙すべき事項、個人の意志に任せるべき事項を細部まで煮詰めた施策を実行してください。
女性 30代	熊谷市は都内通勤している人が多い。私自身も夫の仕事の都合で熊谷市に住み、毎日2時間かけて通勤している。現在妊娠中で新幹線を利用しているが、(高崎線は遅延が多いうえ、激しく混雑しており、妊婦には厳しい、時間がかかりすぎる。)特急代は会社から支給されないの、毎月4万円自己負担している。さすがに、家計が厳しいので、仕事、夢をあきらめざるを得ないのかと悩んでいる。少しでも市に支援してもらえたら、例えば保育園の費用とか、仕事で遅い時間まで子どもを預けるとさらにお金がかかります。
女性 70歳以上	勤めているときは、男女共同参画ときいたことがありますが、週1度の休日と日程が合わないため、年齢65歳まで勤めて退職以来、ティアラ21(男女共同参画室主催)のセミナーに参加しました。ここ数年は催しているかわからず困っています。必ずや自治会とか市報でわかるように知らせてください。楽しみにしています。
女性 50代	今や女性が職業に就くか否かと選択するのではなく、働かなくてはならない社会になりつつあると思う。セミナーや養成講座などを実施するのではなく、働ける環境づくりを早急にお願いたいと思う。 男女の差別意識を持つ余裕(?)もなくなっているのではないかな？
女性 30代	もっと男女関係ない職場作り 男の育児への参加を増やせるような企画を市でやって欲しいです。
男性 40代	男性のための電話や面談による相談の場を設けてほしいです。 自治体で行われている相談は、女性を対象としたものがほとんどで、男性でも悩みや不安を抱いていてもそれを相談できる機会がなく、常に生きづらさを感じている人が多いと思います。 社会的に見たら、職場の人間関係や経済的な問題で、男性にかかる重圧は女性に比べたら、まだ、大きいと思う。 しかしながら、現状では、自治体は、女性向けにそうした相談の場をより多く設けているのに対し、男性に対しては全くそういう場がありません。男性だって悩んでいるんです。ぜひ、ご一考。

[ その他 ]	
男性 40代	男女共同参画に限らず、人が豊かな人生を実現するために「労働環境」について、もっと考えていくべきである。
女性 20代	熊谷市で男女共同参画宣言をしていることはまったく知りませんでした。もっと市民にアピールするべきだと思います。こんなアンケートに費用をかけるなら、他のこと市の施設のリフォームなどにあてて欲しいです。
女性 40代	私は、男女という分け方をする上で、意見するのはあまり好きではない。体力の差、きめこまかな心配りだったり、男女差は確かにあるだろうけれど、それ以上に個人差があると思う。ハラスメントについては、訴え続けるべきだと思うが、男女というくりに共同参画を求めるのではなく他の言葉に当てたい。年齢に関係なくとか職業に関係なくとか。
男性 年齢不明	制度で決めてしまうと、人材がうもれるので無理やり進めるのはさけてほしい。
男性 50代	男の単身世帯なので、あまり関心がなくて申し訳ありません。少しでも多くの女性が社会に参加しよりよい社会に変わっていけるよう望みます。日本が欧米と違うところは、やはり明治以降の価値観がいまだに根強く残っているということだろうと思います。この点においては、根本的には教育で目を覚ましてもらうのがよろしいかと思えます。
男性 30代	子どもへの教育も大事であるが、頭のかたい老人への教育の方が重要。この質問にあるような程度の低い内容を今さら調査しているようではダメ。
男性 40代	男女共同参画推進以前に市民が住みやすい町づくりを整えなければ、それすらままならないと思う。都市機能が他市に比べて不十分な所がある。それは最終的に女性が住みやすい環境を阻害することにつながってしまうのではないかと思う。
男性 40代	熊谷市の問題だけではなく国としてもっと考えていかないといけないと思う。育児・介護にしても、保育・介護士が不足しているが、今の政治家は全く考えていない。ただ給料を上げればすむだけの問題ではない。今の政治家も高齢な方が多く、果たして女性の社会参加、家事の平等など考えることができるのか？考え方が古い人も多いと思うので、いろいろな面で、政治に不安があり、男女共同参画がうまくいくのか？と思う。
女性 30代	まず、年齢層では解決しない。若年層の声を生かしてほしい。 今、何に困っているのか、どうしたら生きやすい住みやすいのか。習慣にとらわれず進みたい。 私は今、子供2人を育児しているが、子育ては周りから苦しめられている。がん検診すら子連れで嫌な顔をされる。はっきり言って、結婚出産しても不利な世の中だと思う。
女性 50代	数か月前まで母の介護をしてきた。夫が退職後だったので、一人娘の私は、夫と二人で公的施設を利用したのでなんとかなった。 しかし、その間、二人とも社会的活動をするのができなかった。社会的活動は自分の心にゆとりがないとできないものである。 役所がこうすべきだと道を作るのではなく、市民から要望されるものを初めに結論ありきではなく、失敗を恐れずチャレンジすることが大切なのではないか。 アンケートがとても答えにくかった。
女性 60代	無記名の調査で、文書で回答してみたところで、意味ないのでは？もっと直接的な発信者も回答者も責任を持つことが必要。
女性 30代	勉強不足です。もっと自分から学んでいきたいと思えます。
男性 30代	男女平等より子育て支援や県民税の軽減の方へ力を入れてほしい。
男性 40代	掛け声や「宣言」だけでは不十分だと思います。 目標値と期限を設定してステータスを可視化することが必要です。そして、市としてどのようにしていきたいのかビジョン(具体的に達成可能なもの)を市民と共有すべきです。「言霊」で終わることの無いように。
男性 60代	市の推進内容は理解していないが、全体的に言葉が一人歩きしており、また、それさえしていれば良しとする行政が多すぎる。何事も個人の能力の問題であり、それを見極める目を持っている人間を養成するのが先では？対等なパートナーなんて肩肘はらない。なんでもかんでも参画すれば良いというものではない。

男性 70歳以上	女性だけで茶飲みながら何でも話せる場所を多く設定すべき。集まりやすいところに、街角空き店舗等。気楽におしゃべりできるように。ノート等を置いて、書いてもらう。何でも意見・要望・こんなことあったよ等。
男性 40代	少子化を対策する社会を目指してほしい。
男性 60代	勉強不足ではあるが、広報活動の必要性も感じる。少子化に歯止めがかかる社会になってほしい。政府はもっと真剣に考えろ。
男性 40代	女性が女性らしく生きていく社会が、単に女性が男性化するのは疑問。
男性 年齢不明	男女共同参画の名のもとに、共産主義、北、南朝鮮の思想工作員が入り込まないようにしてほしい。
男性 40代	そもそも役所の存在意義がぼんやりとしかわからない。 男女共同参画を推進するのめっけこうだが、我々底辺の一般市民にもわかるようもっともっと見える形で市をよくしてもらいたい。
女性 30代	<ul style="list-style-type: none"> <li>・今の若い世代の人は、共働きをし、夫婦がお互いに協力し合っているが、その親の世代は、まだまだ旧社会的な考え方(夫が大黒柱で一番偉い)をもっている人がいる。</li> <li>・子どものいる世帯で両親が何の問題もなく暮らせている状況であれば、地域活動やPTAに積極的に参加できるが、片親がいない家庭等にとっては肉体的にも精神的にも負担が大きい。役員になると仕事を休むことになり、経済的にも影響。</li> <li>・女性の社会進出に伴い、女性が男性の上司になり、男性に職権を使ってセクハラやパワハラをすることがある。男性が被害にあっている場合は、なかなか相談できないので、もっと相談しやすい環境作りをしていただきたい。(隣の自治体では長期にわたり市の職員が部下に対してセクハラを行っていたがもみ消しされた)</li> </ul>
女性 60代	どの場面でも上に立つ方の考え方を考える(男女共同参画社会)教育が必要、また、そのフォローが必要で、表向きだけでなく、根本的に変えられるとよいと思う。 また、今後の方(若い方)への教育も同じだと思う。
男性 30代	時間はかかると思います。ただ、最近では、男性の方が縮こまってしまう場面も実際にはあると思う。その場合は、少しだけでも女性に対して啓発を行えるかどうかで、その存在が真に問われるものだと思う。
男性 年齢不明	自分が知らない言葉が多々ありました。自分も今後のために勉強しなければならないと感じた。熊谷市の方で、わかりやすい本、雑誌を提供してもらいたい。
女性 年齢不明	男女共同するには、男も女もそれぞれ個性や状況があり難しいと思うが、それぞれの人が豊かに暮らして、働けたり、家庭内で過ごせるとよいと思う。それには、生活するうえでお金は必要だと思います。特に年齢を重ねると働くにも限度があるので、保障も必要だと思います。また、不妊治療にはお金が必要なため、保険が使える等対策が必要だと思います。また、公共交通もバスの運行便数が増えたり、便利に生活がおくれて、市もプラスになるようになるといいと思います。
女性 20代	セミナーを開く前に、みんなが働きやすい社会を作るべきではと考えます。セミナーなんて時間がある暇人しか行かないわけですから市の大半の人の知らない間に行われて、知らない間に男女共同参画の推進を行ったと勘違いして無駄に税金を使うだけではないでしょうか。 現在、多くの場所で女性の登用を心がけていますが、それも古い考えを持つ(男性が仕事をして女性が家を守るという考え)今の管理職世代が退職すれば、それが当然のことになるのではと思います。
女性 20代	保育士、介護士の人数を増やすため、行政で給付金や手当という形で補償してほしい。 業務内容に対し、収入はあまりに少なく感じる。その対価では、正常な業務を遂行できるとは到底思えず、その状態の人間に大切な家族を預けられるとは思えず、再就職もせず、自身で世帯することが安全という判断に至ります。

